



令和2年度
グローバル人材の育成に向けた
ESDの推進事業

信州の環境と知に根ざしたESDコンソーシアムの形成

信州ESDコンソーシアム 成果報告書2019



国立大学法人
信州大学

ごあいさつ

長野県はユネスコエコパーク“志賀高原”・“南アルプス”をはじめとした豊かな自然に恵まれ、学校現場では教員のみならず地域のさまざまな組織が主体となって、環境教育の取り組みが盛んに行われています。

信州大学教育学部においても、全学で取り組む「環境マインドをもつ人材育成」の理念のもと、信州の素晴らしい自然に触れ合う授業を通して、子どもに自然環境の重要性を伝えられる人間性豊かな教員の育成に努めております。

こうした中、わたしたちは長野県内に広がりつつあるユネスコスクールのさらなる拡大と、ESDの普及に向け、平成28年2月に「信州ESDコンソーシアム」を立ち上げ、活動を進めてまいりました。

ESD (Education for Sustainable Development) は、環境・貧困・人権・平和・開発といったさまざまな地球規模の課題がある現在において、地球に存在する人間を含めた命ある生物が、遠い未来までその営みを続けていくことができるよう、「持続可能な社会づくり」の担い手を育む教育です。

2015年9月の国連サミットにおいて、この「持続可能な社会づくり」に向けた国際目標である「持続可能な開発目標 (SDGs)」が定められ、世界で様々な取り組みが動き出しました。長野県は一昨年6月にSDGs達成に向けて優れた取組を提案する「SDGs未来都市」に選定され、昨年6月には新たなユネスコエコパーク“甲武信”の登録が決定するなど、今こそ、ESDを通じた持続可能な社会づくりの担い手育成が求められる時代なのです。

「信州ESDコンソーシアム」は、ユネスコスクールや地域のさまざまな組織、そして先行する他地域のコンソーシアムとの連携も進めながら、より大きく羽ばたこうとしております。

わたしたちの4年目の活動をまとめたこの成果報告書が、今後の長野県をはじめとする我が国のESD推進の一助となれば幸いです。

令和2年8月

信州大学教育学部長
宮崎 樹夫



目次

ごあいさつ 信州大学教育学部長 宮崎 樹夫 1

I 信州 ESD コンソーシアムの概要

信州ESDコンソーシアムの概要……………4
信州ESDコンソーシアム規約……………6
構成団体名簿……………8
役員名簿……………9
信州ESDコンソーシアム事業実績……………10

II 通常総会

式次第……………14
当日の様子……………16
基調講演:中澤静男氏(奈良教育大学)……………17
議事概要……………22

III 成果発表 & 交流会

チラシ……………30
当日の様子……………31
＜成果発表＞
1 山ノ内町立西小学校……………33
2 山ノ内町立東小学校……………35
3 山ノ内町立南小学校……………37
4 高山村立高山小学校……………39
5 山ノ内町立山ノ内中学校①……………40
6 山ノ内町立山ノ内中学校②……………41
7 山ノ内町立山ノ内中学校③……………42
8 高山村立高山中学校……………43
9 信州大学教育学部附属松本中学校……………44
10 長野市立東条小学校……………45
11 茅野市立永明小学校……………47
12 信州大学教育学部附属長野小学校……………49
13 長野県中野西高等学校……………51
14 長野県長野西高等学校①……………52
15 長野県長野西高等学校②……………54
16 文化学園長野中学・高等学校……………56
17 NPO法人長野県NPOセンター ユースリーチ 58
ポスター……………60

IV ユネスコスクール全国大会参加

展示ポスター……………62
＜参加報告書＞
1 いいづな学園グリーン・ヒルズ小学校……………64
2 茅野市立永明小学校……………64

3 高山村立高山小学校……………66
4 山ノ内町立西小学校……………66
5 山ノ内町立南小学校……………67
6 長野県中野西高等学校……………68
7 信州大学教育学部附属松本小学校……………69
8 信州大学教育学部附属長野小学校……………69
9 信州大学教育学部附属長野中学校……………70
10 文化学園長野中学・高等学校……………71

V 長野県内のユネスコスクール年次報告

1 信州大学教育学部附属幼稚園……………74
2 茅野市立永明小学校……………74
3 高山村立高山小学校……………75
4 山ノ内町立東小学校……………76
5 山ノ内町立西小学校……………78
6 山ノ内町立南小学校……………79
7 信州大学教育学部附属長野小学校……………80
8 信州大学教育学部附属松本小学校……………81
9 高山村立高山中学校……………82
10 山ノ内町立山ノ内中学校……………83
11 信州大学教育学部附属長野中学校……………84
12 信州大学教育学部附属松本中学校……………85
13 長野県中野西高等学校……………86
14 長野県長野西高等学校……………87
15 文化学園長野中学・高等学校……………88

VI ユネスコエコパークに関わる事業

ユネスコエコパークを活用したESD……………92

VII ESD 通信

No.25……………96
No.26……………98
No.27……………100
No.28……………102
No.29……………103
No.30……………104
No.31……………107
No.32……………108
No.33……………110

I

信州 ESD コンソーシアムの概要

信州 ESD コンソーシアムの概要

1 設立の背景

信州大学教育学部は、全国の教員養成系学部単独では初めて環境マネジメントシステムに関する国際規格 ISO14001 の認証取得を受け、エコキャンパスの構築に取り組んできた。また学部での環境教育の授業の必修化に取り組み、1年生全員が環境監査資格を取得する等、環境マインドを身につけ、環境教育を指導できる卒業生を長野県内の教育現場に送り出してきた。

また、長野県は志賀高原、南アルプス、甲武信という、日本で最も多い3つのユネスコエコパークを抱え、豊かな生物多様性を有する日本でも稀な恵まれた自然環境の中にある。こうした立地から、県内の環境保護に対する意識は高く、行政のみならず、企業やNPO法人等においても様々な取組が恒常的に行われている。

しかし一方で、長野県内の学校現場でのESD（持続可能な開発のための教育）の認知度は低く、その推進拠点と位置づけられているユネスコスクールの加盟校も、2016年2月時点では4校に留まっていた。また、企業や各種団体、ユネスコ協会をはじめとするNPOなどが、それぞれ個別にESDの推進に関わる意思を持ち、さらには実際に活動を行っている団体もあったものの、学校との連携実現の困難さから、教育現場での活躍は広がっていなかった。こうした現状から、長野県内でESDの普及・実践を推進するため、学校現場と県内でESDに携わる様々なステークホルダーを橋渡しし、ESDについての情報交換や交流、連携を促進する仕組みの構築が求められていた。

そこで信州大学教育学部は文部科学省「グローバル人材の育成に向けたESDの推進事業」を活用し、2016年4月からESD支援団体の設立準備に取り組んだ。2017年2月に、本学教育学部を中心に、県内の各ユネスコスクール、教育委員会、NPO等各種団体などにより構成される『信州ESDコンソーシアム』を設立した。

2 コンソーシアムの機能と特徴

信州ESDコンソーシアムの目的は、長野県全域にESDを普及・定着することである。この達成に向け、多様なESD関係者と協働し、以下の取り組みを行っている。

1. ユネスコスクールなどの教育組織でのESD推進
2. ESDに関わる人たちの交流の場の創出
3. 企業・NPOなどの多様な主体が活動できる機会の創出

4. コンソーシアムや関係組織の成果の発信

5. ESD関連情報を共有する場の提供

また近年は、SDGs未来都市となった長野県の取り組みと共鳴し、ESDとSDGsを結び付けて学校現場で実践するための普及・啓発にも取り組んでいる。第四次長野県環境基本計画において、信州ESDコンソーシアムは長野県におけるESD普及・推進の主要な担い手と位置づけられている。

さらに信州ESDコンソーシアムでは、ユネスコが主導するESDと、長野県の特徴のひとつでもあるユネスコエコパークの活動を連動させ、その相乗効果を発揮する実践を目指しているが、このことは本コンソーシアムの特徴と言える取り組みである。

3 コンソーシアムの活動

(1) ユネスコスクールに関する支援

ユネスコスクールは、ユネスコ憲章に示された理念を実践することを目的とした学校であるが、日本ではESD推進拠点としても位置づけられている。このため学校教育分野のESD支援の多くは、ユネスコスクールに関連するものである。

信州ESDコンソーシアムは、長野県内の各種学校のユネスコスクール加盟申請を支援している。ユネスコスクールへの加盟を検討している学校や、加盟前のチャレンジ期間に入っている学校を対象に、活動実践への指導や助言を行うほか、要望に応じてコーディネーターが学校に出向いて、教職員を対象としたESD/SDGsの出前研修を行っている。令和元年度は豊科南小学校（安曇野市）、和田小学校（飯田市）など8校に対して支援を実施した。

信州ESDコンソーシアムは、ユネスコスクールに加盟済みの学校に対しても、活動実践に対する各種支援を行っている。日常的に学校訪問を行いながら活動実践に対して指導・助言を行うとともに、課題や要望をうかがい、時宜にかなった支援を提案・実施している。支援内容はESD/SDGsの出前研修会の開催や校内研究会・授業公開への参加、活動をサポートする外部団体等のコーディネートなど、教職員を対象としたものが中心であるが、コーディネーター自身がゲストティーチャーとして直接、子どもたちと関わる場合もある。令和元年度は山ノ内西小学校（山ノ内町）、長野西高等学校（長野市）など13校に対して、多様な支援を実施した。

(2) 多様な主体間の連携促進とESDの普及啓発

信州ESDコンソーシアムには各ユネスコスクールやその加盟希望校のほか、教育委員会、民間ユネ

スコ協会、NGO、企業・団体など多様な主体が参加しており、県内ユネスコスクールの連携と活動支援のプラットフォームとして機能している。

また市町村教育委員会やユネスコ協会関係者など、学校現場でのESD実践に携わる多様な主体を対象としたESD/SDGs研修会を通して、その普及に取り組んでいる。

(3) 交流機会の創出

信州ESDコンソーシアムでは発足以降毎年、ユネスコスクールで学ぶ子どもたちが日頃のESD実践の成果を互いに発表しあい、交流を通じて学びあう「成果発表&交流会」を、信州大学キャンパスを会場に開催している。令和元年度には初めてZOOMで遠隔地をつないだオンライン発表会を実現した。

また全国のユネスコスクール等との交流を促進するため、ユネスコスクール全国大会や他地域コンソーシアムが主催するESD研修会などへの、コンソーシアム加盟校等の参加支援を行っている。

(4) ユネスコエコパークを活用したESDモデルの構築

信州ESDコンソーシアムの中心である信州大学は、『ユネスコエコパークを活用した学校教育におけるESD/SDGsの普及・深化と実践モデルの開発』で、平成31年度SDGs達成の担い手育成（ESD）推進事業に採択された。この事業ではユネスコエコ

パークを活用したESDについて情報収集と調査研究を進めることと併せて、教育関係者の交流と学びあいを通じて、ユネスコエコパークにおけるESDの普及と活性化を図ることを目指している。令和元年度は志賀高原ユネスコエコパーク管内の山ノ内町で行われるESD関連行事や研修会に、白山ユネスコエコパークやみなかみユネスコエコパークからの参加者を受け入れた。また11月には中部地方ESD活動支援センターとの共催で、飯田市（南アルプスユネスコエコパーク）において「ESD推進のためのダイアログ in 飯田：ユネスコエコパークを活かしたESDによる地域創生」を開催し、志賀高原ユネスコエコパーク、只見ユネスコエコパーク、綾ユネスコエコパークからの参加者との交流と学び合いを通じて、ユネスコエコパークとESDとの関係やその相乗効果について理解を深めた。また国内ユネスコエコパークをつなぐESD支援体制の構築を目指して、これまでにESD/ユネスコスクール・東北コンソーシアム（只見ユネスコエコパーク、みなかみユネスコエコパークを担当）および北陸ESD推進コンソーシアム（白山ユネスコエコパークを担当）と協力して事業を推進してきたが、新たに大台ヶ原・大峯山・大杉谷BR協議会および近畿ESDコンソーシアムと連携に向けた協議を行った。さらに地理（2019年10月号、古今書院）や読売中高生新聞（2020年1月24日）などの媒体を通じて、ユネスコエコパークを活用したESD/SDGsの普及に努めた。



信州 ESD コンソーシアム規約

第1章 総則

(名称)

第1条 この団体は、信州 ESD コンソーシアム（以下「本団体」という。）と称する。

(事務局)

第2条 本団体の事務局は、信州大学教育学部内に置くものとする。

(目的)

第3条 本団体は、様々なESD関係者が協力して長野県を中心としたESDを推進することを目的とする。

(活動)

第4条 本団体は、前条の目的を達成するために次の各号に掲げる活動を行う。

- (1) ユネスコスクールをはじめとする教育機関でのESDの推進と国内外のESD推進校との交流促進
- (2) 公民館、図書館をはじめとする社会教育施設、青少年教育施設を通じた社会教育におけるESDの推進
- (3) ウェブサイトや成果報告会等を通じたESD関連情報の共有
- (4) ESDに関するマルチステークホルダーの対話の場の構築
- (5) 企業、NGOを含む様々なステークホルダー間の協働の機会創出
- (6) その他本団体の目的を達成するために有益と考えられる活動

第2章 会員

(会員)

第5条 本団体の会員は、第3条の目的に賛同して入会する各種団体、教育関係機関及び任意団体（以下「団体等」という。）とする。

(入会及び退会)

第6条 入会を希望する団体等は、所定の入会申込書を事務局に提出しなければならない。

2 団体等の入会は、会長が許可する。

3 退会を希望する会員は、所定の退会申込書を事務局に提出し、任意に退会することができる。

(会費)

第7条 本団体の会費は、当面徴収しないものとする。

第3章 役員

(役員)

第8条 本団体に、次の役員を置く。

- (1) 会長 1名
- (2) 副会長 1名以上3名以内
- (3) 運営委員 会長が必要と認める定数

(役員の実務)

第9条 役員は、役員会を構成し、本団体の業務の執行を決定する。

2 会長は、本団体を統括し、本会を代表する。

3 副会長は、会長を補佐し、会長に事故あるときはその職務を代行する。

4 運営委員は、運営委員会を構成し、本団体の業務を執行する。

(役員の実任)

第10条 会長は、信州大学教育学部の長とする。

2 副会長は、運営委員の中から会長が選任する。

3 運営委員は、会長が指名し、総会において承認する。

(役員の実任)

第11条 役員の実任は2年とする。ただし、再任を妨げない。

第4章 会議

(会議の種類)

第12条 本団体の会議は、総会及び運営委員会とする。

(総会)

第13条 総会は、会員をもって構成する。

2 総会は、通常総会及び臨時総会とする。

(総会の権能)

第14条 総会は、次の各号に掲げる事項について審議する。

- (1) 規約の決定及び変更
- (2) 事業計画の承認
- (3) 事業報告の承認
- (4) 役員の実任
- (5) その他本団体の運営に関する重要事項

(総会の開催)

第15条 通常総会は、毎年1回開催する。

2 臨時総会は、次に掲げる場合に開催する。

- (1) 会長が必要と認め、招集の請求をしたとき。
- (2) 会員総数の3分の1以上から会議の目的を記載した書面又は電子メールにより招集の請求があったとき。

(総会の招集)

第16条 総会は、会長が招集する。

2 総会を招集する場合には、会議の日時、場所、目的及び審議事項を記載した書面又は電子メールにより、開催の日の少なくとも5日前までに会員に通知し、あるいはウェブサイト上で公表しなければならない。

(総会の議長)

第17条 総会の議長は、その総会に出席した役員の中から会長がこれを指名する。

(総会の議決)

第18条 総会の議事は、別段の定めがある場合を除き、出席した会員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(運営委員会)

第19条 運営委員会は、運営委員をもって構成する。

2 運営委員会に委員長1名及び副委員長1名を置く。

(運営委員会の権能)

第20条 運営委員会は、次の各号に掲げる事項について審議する。

- (1) 事業計画の立案と変更
- (2) 事務局の組織及び運営に関する事項
- (3) 総会の議決した事項の執行に関する事項
- (4) 総会に付議すべき事項
- (5) その他総会の議決を要しない業務の執行に関する事項

(運営委員会の開催)

第21条 運営委員会は、会長又は委員長が必要と認めた場合に開催する。

第5章 ESDコーディネーター

(ESDコーディネーター)

第22条 本団体に、ESDコーディネーター若干名を置く。

2 ESDコーディネーターは、本団体の目的を達成するために、長野県を中心としたESDの推進を支援する。

3 ESDコーディネーターは、長野県を中心としたESD活動に習熟した識者の中から、会長が指名する。

4 ESDコーディネーターの任期は1年とする。ただし、再任を妨げない。

第6章 雑則

(雑則)

第23条 この規約に定めるもののほか、本団体の運営に必要な事項は別に定める。

附 則

この規約は、平成29年2月18日から施行する。

令和元年度 信州ESDコンソーシアム構成団体名簿

令和2年3月31日現在

No.	団体名	コンソーシアム区分
1	信州大学	大学 / 代表団体
2	飯田女子短期大学環境教育ゼミ	大学
3	高山村教育委員会	教育委員会
4	山ノ内町教育委員会	教育委員会
5	信州大学教育学部附属幼稚園	ユネスコスクール
6	茅野市立永明小学校	ユネスコスクール
7	高山村立高山小学校	ユネスコスクール
8	山ノ内町立東小学校	ユネスコスクール
9	山ノ内町立西小学校	ユネスコスクール
10	山ノ内町立南小学校	ユネスコスクール
11	長野市立東条小学校	ユネスコスクール
12	長野市立信里小学校	ユネスコスクール
13	安曇野市立豊科南小学校	ユネスコスクール
14	飯田市立和田小学校	ユネスコスクール
15	飯田市立上村小学校	ユネスコスクール
16	信州大学教育学部附属長野小学校	ユネスコスクール
17	いいづな学園 グリーン・ヒルズ小学校	ユネスコスクール
18	信州大学教育学部附属松本小学校	ユネスコスクール
19	高山村立高山中学校	ユネスコスクール
20	山ノ内町立山ノ内中学校	ユネスコスクール
21	茅野市立永明中学校	ユネスコスクール
22	飯田市立遠山中学校	ユネスコスクール
23	信州大学教育学部附属長野中学校	ユネスコスクール
24	信州大学教育学部附属松本中学校	ユネスコスクール
25	長野県中野西高等学校	ユネスコスクール
26	長野県長野西高等学校	ユネスコスクール
27	文化学園長野中学・高等学校	ユネスコスクール
28	上田西高等学校	ユネスコスクール
29	信州大学教育学部附属特別支援学校	ユネスコスクール
30	NPO 法人みどりの市民	地域団体
31	NPO 法人やまぼうし自然学校	地域団体
32	特定非営利活動法人長野県 NPO センター	地域団体
33	長野市長沼交流センター	地域団体
34	信更の学校を考える会	地域団体
35	一般社団法人長野県環境保全協会	地域団体
36	長野県ユネスコ連絡協議会	地域団体
37	長野ユネスコ協会	地域団体
38	上田ユネスコ協会	地域団体
39	松本ユネスコ協会	地域団体
40	諏訪ユネスコ協会	地域団体
41	飯田ユネスコ協会	地域団体
42	木曾ユネスコ協会	地域団体
43	直富商事(株)	地域団体
44	(株)ミールケア	地域団体
45	公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター	支援機関
46	公益社団法人日本ユネスコ協会連盟	支援機関
47	環境省中部環境パートナーシップオフィス (EPO 中部)	支援機関

※区分「ユネスコスクール」には、申請中または申請検討中を含む

令和元年度 信州ESDコンソーシアム役員名簿

職名	氏名	所属	職名	備考
会 長	宮崎 樹夫	信州大学教育学部	学部長	
副 会 長	柴草 隆	山ノ内町教育委員会	教育長	
副 会 長	宮島 和雄	一般社団法人 長野県環境保全協会	専務理事	
副 会 長	中野 清史	長野県ユネスコ連絡協議会	会長	
運営委員長	西 一夫	信州大学教育学部	教授	コーディネーター
運営副委員長	渡辺 隆一	信州大学教育学部	特任教授	コーディネーター
運 営 委 員	安達 仁美	信州大学教育学部	准教授	コーディネーター
運 営 委 員	水谷 瑞希	信州大学教育学部	助教	コーディネーター
運 営 委 員	本間 喜子	信州大学学術研究・産学連携推進機構 リサーチ・アドミニストレーションセンター	助教	
	矢崎 靖雄	諏訪ユネスコ協会	会長	コーディネーター
	伊坪 百代	飯田ユネスコ協会	会長	コーディネーター

令和元年度 信州ESDコンソーシアム事業実績

No.	年月日	事業名	講師等	対象	参加者数	主催・共催・後援等	会場
1	2019/4/4	打合せ(山ノ内町教育委員会)	水谷瑞希		2		山ノ内町役場
2	2019/4/4	打合せ(山ノ内中学校, 東小, 南小)	水谷瑞希		5		各学校
3	2019/4/15	打合せ(山ノ内町立南小学校)	水谷瑞希		2		山ノ内町立南小学校
4	2019/4/15	上田西高等学校チャータースクール歓迎会	渡辺隆一	教職員,生徒	2	上田西高等学校	上田西高等学校
5	2019/4/17	打合せ(山ノ内町立西小学校)	水谷瑞希		1		山ノ内町立西小学校
6	2019/4/17	学校支援(山ノ内町南小学校)	渡辺隆一	教職員	20	山ノ内町南小学校	山ノ内町南小学校
7	2019/4/24	学校支援(飯田市上村小, 遠山中)	水谷瑞希 渡辺隆一		5	飯田市上村小学校, 遠山中学校	飯田市立上村小学校
8	2019/4/25	学校支援(長野市立信里小)	安達仁美 水谷瑞希 渡辺隆一		3	長野市立信里小学校	長野市立信里小学校
9	2019/5/7	学校支援(安曇野市立豊科南小学校)	安達仁美 水谷瑞希 渡辺隆一		3	安曇野市豊科南小学校	信州大学教育学部
10	2019/5/13	打合せ(附属松本中学校)	水谷瑞希		2		附属松本中学校
11	2019/5/14	学校支援(長野市立東条小学校)	水谷瑞希 渡辺隆一		3	長野市立東条小学校	長野市立東条小学校
12	2019/5/15	打合せ(NAGANO SDGsプロジェクト)	西, 水谷, 本間, 大山, 北島	アドバイザー	2		信州大学教育学部
13	2019/5/24	学校支援(附属松本中学校)	水谷瑞希	教職員	2	附属松本中学校	志賀高原(総合会館98)
14	2019/5/28	打合せ(NAGANO SDGsプロジェクト)	西, 安達, 水谷, 本間, 大山, 北島	信濃毎日新聞社, アドバイザー	3		信州大学教育学部
15	2019/5/30	打合せ(山ノ内町教育委員会)	水谷瑞希	担当者	1		山ノ内町役場
16	2019/5/30	打合せ(山ノ内中学校)	水谷瑞希	教職員	2		山ノ内中学校
17	2019/6/1	ABMORI2019	水谷瑞希			山ノ内町	志賀高原(蓮池)
18	2019/6/4	学校支援(山ノ内南小学校)	水谷瑞希	教職員	1	山ノ内町南小学校	山ノ内町立南小学校
19	2019/6/13	学校支援(附属松本小学校)	渡辺隆一	ユネスコ委員会	20	附属松本小学校	附属松本小学校
20	2019/6/24	打合せ(志賀高原ガイド組合)	水谷瑞希	ガイド	6		志賀高原(総合会館98)
21	2019/6/24	打合せ(附属松本中学校)	水谷瑞希		1		附属松本中学校
22	2019/6/25	ESD活動支援企画運営会議	水谷瑞希	中部地方ESD活動支援センター		中部地方EDS活動支援センター	中部地方環境事務所
23	2019/6/27	学校支援(山ノ内南小学校)	水谷瑞希	教職員	1		山ノ内町立南小学校
24	2019/7/1	校内研究会(山ノ内南小学校)	水谷瑞希	教職員	6		山ノ内町立南小学校
25	2019/7/2	教頭マネジメント研修	安達仁美	教職員	80	長野市教育センター	大豆島公民館
26	2019/7/4	ユネスコエコパークの自慢探し(志賀高原研修旅行)	水谷瑞希	山ノ内中学校1年生	23	山ノ内中学校	志賀施設
27	2019/7/10	学校支援(長野市立信里小学校)	渡辺隆一	教職員	15	長野市立信里小学校	長野市立信里小学校
28	2019/7/17	高原宿泊学習(附属松本中学校)	水谷瑞希	附属松本中学校1年生156人	156	附属松本中学校	志賀高原

29	2019/7/17	ESD学習会	安達仁美	ユネスコ協会, 市民	30	諏訪ユネスコ協会	茅野市役所大会議室
30	2019/7/24	日本ユネスコエコパークネットワーク(JBRN)総会	水谷瑞希	各BR関係者ほか		主催: JBRN	大手門タワーJXビル
31	2019/7/25	打合せ(立教大学)	水谷瑞希	阿部治先生	1		立教大学
32	2019/7/25	学校支援(安曇野市豊科南小学校)	渡辺隆一	教職員およびPTA役員	25	安曇野市立豊科南小学校	安曇野市立豊科南小学校
33	2019/7/26	学校支援(飯田市遠山地区夏季研修会)	渡辺隆一	遠山小中3校教職員	30	飯田市遠山地区3校	遠山郷土館
34	2019/8/1	山ノ内町教職員ESD野外研修会	渡辺隆一 水谷瑞希	山ノ内町教職員	25	山ノ内町教育委員会	志賀施設
35	2019/8/8	北信越ユネスコスクール交流会	水谷瑞希	北陸3県, 長野県, 新潟県及び東海地域のユネスコスクール及びユネスコスクール関係者		主催: 北信越ユネスコスクール交流会 in 金沢2019実行委員会(北陸ESD推進コンソーシアム, 中部地方ESD活動支援センター, 石川県ユネスコ協会) 後援: ユネスコスクール支援大学間ネットワーク, 信州ESDコンソーシアム, 金沢市教育委員会, 富山市教育委員会	金沢勤労者プラザ(金沢市)
36	2019/08/22	学校支援(山ノ内南小学校)	水谷瑞希	教職員	2	山ノ内町南小学校	山ノ内町立南小学校
37	2019/08/26	総合学習・ESDについての打合せ(山ノ内南小)	水谷瑞希	長野県北信建設事務所(3), 南小教職員	4		北信合同庁舎
38	2019/08/26	打合せ(山ノ内町教育委員会)	水谷瑞希	教職員	1		山ノ内町役場
39	2019/08/28	事業説明(飯田市)	水谷瑞希	EPO中部(3), 飯田市(3)	6		飯田市役所
40	2019/9/17	校内研究会(山ノ内南小学校)	水谷瑞希	教職員	5	山ノ内町南小学校	山ノ内町立南小学校
41	2019/09/25	東条小学校ESD/SDGs研修会(学校研修会)	水谷瑞希	東条小学校教員12名, 長野市教育委員会1名	13	長野市立東条小学校	長野市立東条小学校
42	2019/10/02	長野信金との打合せ	水谷瑞希		4		長野信用金庫本店
43	2019/11/6	地域づくり推進研修	安達仁美	教職員及び行政職員	60	長野県生涯学習推進センター	長野県生涯学習推進センター
44	2019/11/16	ESDダイアログ in 信州	水谷瑞希		36	主催: 中部地方ESD活動支援センター 共催: 飯田市, 信州ESDコンソーシアム 後援: 南アルプス自然環境保全活用連携協議会, 飯田市教育委員会	飯田市役所
45	2019/11/30	ユネスコスクール全国大会	水谷瑞希 安達仁美	ESD関係者	12	主催: 文部科学省, 日本ユネスコ国内委員会 共催: NPO法人日本持続発展教育推進フォーラム, 福山市, 福山市教育委員会, 広島県ユネスコスクール連絡協議会, (公財)ユネスコ・アジア文化センター, (公社)日本ユネスコ協会連盟	福山市立大学
46	2019/12/20-21	ESD推進ネットワーク全国フォーラム2019	水谷瑞希	ESD関係者		主催: ESD活動支援センター, 文部科学省, 環境省 後援: 日本ユネスコ国内委員会	国立オリンピック記念青少年総合センター
47	2019/12/25	ユネスコエコパーク・ESD・総合的な学習の時間研修会(山ノ内町立西小学校)	水谷瑞希 渡辺隆一 加藤隆弘(金沢大)	西小学校ほか山ノ内町教員		主催: 山ノ内町立西小学校 共催: 信州ESDコンソーシアム	山ノ内町立西小学校
48	2020/2/1	成果発表&交流会	及川幸彦 安田昌則 阿部 治	コンソーシアム構成団体, 長野県内学校関係者(教員・児童・生徒・保護者)等	269	主催: 信州ESDコンソーシアム 後援: 信州大学教育学部, 長野県教育委員会, ESD活動支援センター, 長野県ユネスコ連絡協議会, (一社)長野県環境保全協会	信州大学国際科学イノベーションセンター2階セミナースペース
49	2020/2/13	「北信まちづくりプラットフォーム」第1回連絡会議	水谷瑞希	長野信金, 北信地域市町村	45	長野信用金庫	長野信用金庫本部
50	2020/2/8	ESD/ユネスコスクール・東北コンソーシアム2019年度第4回学びあいセミナー, 日本ESD学会第2回東北地方研究大会	渡辺隆一	東北コンソーシアム関係者他	50	主催: ESD/ユネスコスクール・東北コンソーシアム	宮城教育大学(仙台)



通常総会

令和元年度 信州 ESD コンソーシアム通常総会

日 時 令和元年8月24日(土) 13時00分～
場 所 信州大学教育学部 中校舎2階 第1会議室
次 第

1. 開会挨拶

信州 ESD コンソーシアム運営委員長
信州大学教育学部副学部長 西 一夫

2. 基調講演

「新学習指導要領に即して ESD の授業実践を展開する」
奈良教育大学次世代教員養成センター
准教授 中澤 静男 先生

3. 総会

(1) 議長選出

(2) 協議

- 役員の選出について
- 事業報告について
- 事業計画について
- その他

(3) 報告

- 加盟団体活動紹介
- その他

4. 意見交換

5. 閉会挨拶

信州 ESD コンソーシアム通常総会 出席者

(令和元年8月24日(土) 信州大学教育学部 第1会議室)

敬称略、順不同

奈良教育大学	中澤 静男
山ノ内町教育委員会	柴草 隆
(一社)長野県環境保全協会	宮島 和雄
長野県ユネスコ連絡協議会	中野 清史
(公社)日本ユネスコ協会連盟	古澤 真理子
EPO 中部/中部地方 ESD 活動支援センター	原 理史
諏訪ユネスコ協会	矢崎 靖雄
諏訪ユネスコ協会	田村 満理
諏訪ユネスコ協会	深井 恵子
信州大学教育学部附属幼稚園	中村 絢子
高山村立高山小学校	加藤 敦子
山ノ内町立西小学校	小野 光太郎
山ノ内町立南小学校	菅原 勇介
長野市立東条小学校	武居 和紀
信州大学教育学部附属長野小学校	小田切 亮
信州大学教育学部附属松本小学校	中村 祐介
いいづな学園 グリーン・ヒルズ小学校	太田 隆雄
いいづな学園 グリーン・ヒルズ小学校	直江 鉄平
山ノ内町立山ノ内中学校	本山 育人
信州大学教育学部附属長野中学校	米山 聡
信州大学教育学部附属松本中学校	須江 直喜
長野県中野西高等学校	小林 尚人
長野県長野西高等学校	堀内 和徳
文化学園長野中学・高等学校	長田 里恵
信州大学教育学部附属特別支援学校	土井田 知広
長野県 NPO センター	山室 秀俊
長野県 NPO センター	小林 達矢
直富商事(株)	三井 正美

オブザーバー

長野県環境政策課	馬島 貴教
長野市教育委員会	直江 将志

信州大学

教育学部長	宮崎 樹夫
コーディネーター	西 一夫
コーディネーター	渡辺 隆一
コーディネーター	安達 仁美
コーディネーター	水谷 瑞希
URA	本間 喜子
事務長	酒井 清
ESD 事務局長	古澤 和孝
ESD 事務局員	清水 英俊
ESD 事務局員	高橋 美晴



基調講演 中澤静男氏(奈良教育大学)

信州ESDコンソーシアム令和元年度通常総会

新学習指導要領に即してESDの授業実践を展開する

奈良教育大学 中澤 静男

ESDって、何？

Education for Sustainable Development

持続可能な開発のための教育(持続発展教育)
持続可能な社会づくりの担い手を育成する教育

目標: 人々の持続可能性に関する価値観(感性・意識)と行動の変革を促す

推進機関: ユネスコ

ESDの3つの流れ
環境教育+開発教育+人権・平和教育=ESD

1960年代~70年代
先進国をおそった公害問題

1960年~1975年

もうひとつの背景

1972年 ストックホルム会議:「環境教育」概念の提起
先進国・環境保全 × 途上国・経済開発 の対立

1987年 ブントラント委員会
これからは持続可能な開発でなければならない
持続可能な開発の定義
「将来の世代のニーズを満たす能力を損なうことなく、今日の世代のニーズを満たすような開発」

◎世代内の公正と世代間の公正

国際自然保護連合・国連環境計画・世界自然保護基金
「人間を支える生態系が有する能力の範囲内で楽しみながら、人間の生活の質を向上させること。」

1992年 地球サミット(リオデジャネイロ)
持続可能な開発についての行動計画

持続可能な社会の実現における教育の重要性が指摘される → ESD

1997年 テサロニキ会議
「環境教育を『環境と持続可能性のための教育』と表現してもかまわない」

2002年 ヨハネスブルグサミット

※2005年~2014年を国連ESDの10年として推進していくことを決定。

2014年
ESDに関するユネスコ世界会議

2015年 持続可能な開発サミット

目標1: 貧困の撲滅	目標12: 生産と消費
目標2: 飢餓の解消	目標13: 気候変動
目標3: 健康・福祉	目標14: 海洋資源
目標4: 教育	目標15: 陸上資源
目標5: ジェンダー平等	目標16: 平和・公正
目標6: 水と衛生	目標17: グローバル・パートナーシップ
目標7: エネルギー	
目標8: 経済成長と雇用	
目標9: インフラ	
目標10: 不平等解消	
目標11: まちづくり	

ミレニアム開発目標

(2015年までに達成する8つの目標)
(途上国の生活環境の改善を先進国が支援する)

ミレニアム開発目標

1. 極度の貧困と飢餓の撲滅
2. 初等教育の完全普及の達成
3. ジェンダー平等推進と女性の地位向上
4. 乳幼児死亡率の削減
5. 妊産婦の健康の改善
6. エイズ、マラリア、その他の疾病のまん延防止
7. 環境の持続可能性確保
8. グローバルなパートナーシップの推進

残された課題

- ・約8億人が極度の貧困状態
- ・経済格差の拡大
- ・男女間の不平等(特に意思決定に関して)
- ・地球温暖化、生物多様性の保全
- ・戦争・紛争により毎日42000人が難民となっている
- ・その他

SDGsを分類しましょう

- (1)特に環境問題に関するゴール(4つ)
- (2)特に経済問題に関するゴール(3つ)
- (3)SDGsの17のゴールの①~⑥は、MDGsの①~⑥を引き継いだゴールです。その他に社会問題に関するゴール(3つ)

SDGsを分類しましょう

- (1)特に環境問題に関するゴール(4つ)
⑦エネルギー、⑬気候変動、⑭海洋資源
⑮陸上資源
- (2)特に経済問題に関するゴール(3つ)
⑧経済成長と雇用、⑨インフラ、⑫生産と消費
- (3)SDGsの17のゴールの①~⑥は、MDGsの①~⑥を引き継いだゴールです。その他に社会問題に関するゴール(3つ)
⑩不平等解消、⑪まちづくり、⑯平和・公正

持続可能な社会とは

◇17のゴールが達成された社会

17もあるから大変だ!

でも、大丈夫

目標どうつながっているから、一つの目標の達成に取り組んでいると、他の目標にもいい影響を及ぼすことができます。

◎問い: たとえほどのゴールとどのゴールがつながっているのでしょうか? 複数のゴールをつなげて、その理由を書いてください。

新学習指導要領とESD

2017年3月告示
前文:「持続可能な社会の創り手となることができるようにすることが求められる。」

幼稚園総則: 持続可能な社会の創り手となることができるようにするための基礎を培うことが求められる。

小中学校総則: 豊かな創造性を備え持続可能な社会の創り手となることが期待される児童・生徒に、生きる力を育むことを目指す。

高等学校総則: 一人一人が持続可能な社会の担い手として、その多様性を原動力とし、質的な豊かさを伴った個人と社会の成長につながる新たな価値を生み出していくことが期待される。

新学習指導要領改訂の趣旨

→ 新学習指導要領の基盤としてESDの理念が組み入れられた

→ よりよい学校教育を通じて、よりよい社会を創るという発想

①教育を通して地域(地球)の課題解決を図る
SDGsの達成(持続可能な社会の実現)に貢献する人材を育成する

教育の役割: 社会的側面>個人的側面

新学習指導要領とESD
2016年12月21日中央教育審議会答申
「生きる力」を構成する3つの構成要素

①教科等の枠組の中で育てる資質・能力
②全ての学習の基盤としての資質・能力
言語能力、情報活用能力、クリティカルシンキング、問題発見・解決能力、体験から学び実践する力、多様な他者と協働する力、見通し振り返る力

③現代的な諸課題に対応できるように必要な力

現代的・地球的課題にはどのようなものがあるでしょうか?5つ書いて下さい。

現代的・地球的な課題に対応するために必要な力

◇ESDの価値観に関連する
ソマティック・マーカー

◇ESDで育てたい価値観
◇ESDの視点(見方・考え方)
◇ESDで育てたい資質・能力

ESDを通して身に付けたい資質・能力

- ・クリティカルシンキング (物事を問い直し、新たな方法を見いだす力)
- ・システムズシンキング (物事を総合的・構造的にとらえる力)
- ・長期的思考力(先のことを考える力)
- ・コミュニケーション力 (意見を聞いたり、発信したりする力)
- ・協働的問題解決力 (他の人と協力して最後まで取り組む力)

新学習指導要領に則ってESD授業実践を展開する2つの方向性

1. 総合的な学習の時間
2. 教科学習

総合的な学習の時間の学習スタイル

- ・探究心: 探究することの楽しさを伝える
- ・学び方: 課題の発見 → 仮説をつくる → 仮説に基づく調査・整理 → 結果に基づく話し合い → 課題解決・学習のまとめ → 発信・行動化

◇身近なこと・もの(地域素材)から地域人材と連携しながら課題解決型の学習を展開する
◇体験や五感を通じた理解を大切に

ESD教材開発をするために必要なソマティック・マーカー(信号)

- ・身の回りのこと・もの・人をスルーせずに「ん?」と立ち止まることが教材開発のスタートポイント(脳にある種の信号が発せられている): 直観
- ◇ 生存にかかわる直観
- ◇ 選択に関わる直観
- (多くの大人が身に付けているのは、「経済」「損得」に関わるソマティック・マーカー)

ESDの価値観に基づくソマティック・マーカーを手に入れよう

このチラシを見て、買わない方がいいものは? 例え

このチラシを受け取って「これはアカンやる?」と気づくことができますか?

総合的な学習の時間等とESD①

対象: 小学校低学年～中学年
ねらい: 地域のよいところを学んで、地域に対する愛着を育てる

◇地域住民が地域に愛着を持ち、地域の活動に参加する自治体は持続可能である(環境自治体会議)

◇ESDの視点(多様性・相互性・有限性)を用いて、地域の自然環境や社会環境・産業・行事・食糧・地域遺産などで子どもにそのよさを伝えたいものを教材開発する。
※今は失われてしまったものでも可(空間軸+時間軸)

◇ESDの視点(公平性・連携性・責任性)を用いて、地域の先人などで子どもたちに伝えたい人目を教材開発する。

総合的な学習の時間とESD②

対象: 小学校高学年から
SDGsの目標を手掛かりに地域の課題を見出し、問題解決型の学習を展開する。

ねらい: ESDの価値観、ソマティック・マーカー、視点、資質能力を育てる。

事例: 理論
地域の課題をつきつめて、突き抜け、普遍的な課題に展開していく(タテ展開) 例: 耕作放棄地 → 持続可能な農業 SDGsの他の目標に展開していく(ヨコ展開)
持続可能な農業(目標②) → 生産と消費③・陸上資源⑤・人間居住⑧

自分にできることを考え、行動化しようとする子どもを育てる

私自身の自分事化
(自分にできることを考え、行動化する)
耕作放棄地の草刈り

われ窓理論・ニューヨークの地下鉄の応用
ゴミ捨てがなくなりました!

ESDを通して身に付けたい価値観(感性)

- ①世代間の公正を意識できる
- ②世代内の公正を意識できる
- ③自然環境や生態系の保全を重視する
- ④人権・文化を尊重する
- ⑤幸福感を重視する

①世代間の公正を意識できる

過去 現代 未来

◇過去の先人の苦勞や努力に感謝する
◇これからは自分たちだという当事者意識をもつ
◇将来世代の人のことも考えて行動する

教材開発の手順

- ①ソマティック・マーカーでピンと来たものを調べる
 - ・文献調査(インターネットだけでなく)
 - ・現地調査(五感を使って)
 - ・インタビュー調査(現地の人に聞いて発見)
- ②先生自身が「おもしろい!」と思ったものだけが子どもを揺さぶる「授業」になる。
- ③子どもの関心を高める導入を工夫する。
- ④ゲストティーチャーなどを依頼する。

教材開発と授業化の手順

- ⑤単元を通して身に付けることができそうな「資質能力」「見方・考え方」「価値観」を明確にする。これが明確になっていると、子どもへのアドバイスの仕方が変わります。
- ⑥事前のアンケートを作成し、実施する。(事前の評価)
- ⑦問題解決型の授業を展開
 - 導入→課題の作成→仮説の作成→仮説を検証するための調査活動→調査結果に基づき話し合い→学習のまとめ→行動化
- ⑧事後のアンケート実施し、事前と事後の子どもの変容を把握する。

子どもの意識と学習の流れ(アクティブ・ラーニング)

導入: ソマティック・マーカー
「なんだか腑に落ちない、気持ちが悪い。」

課題発見: クリティカルシンキング
◇課題設定と仮説の作成

調査活動(グループ学習):
コミュニケーション力・協働的問題解決力
話し合いと考察
長期的思考力・システムズシンキング
コミュニケーション力

②世代内の公正を意識できる

◇同じ時代を生きる途上国の人のことも意識して行動できる
◇同じ時代を生きる弱い立場の人のことも意識して行動できる

③自然環境や生態系保全生態系とは

消費者
生産者
分解者

人間の命を支える生態系サービス

②教科教育におけるESD

- ・教科教育では学習内容の概要が学習指導要領に規定されている。
- ・教科学習にはその教科の内容と目的があり、授業はまず教科学習として成立していることが必須。
→ 教科教育においてESDで育てたい価値観や見方・考え方、資質・能力を育てるためには、教科書や学習指導要領などをESDの視点から解釈する力が教員に求められる。
- ・少なくとも資質・能力を意識して授業を組み立てる(ESDの資質・能力はキー・コンピテンシーと同じ、これからの時代に必要国際標準の学力)

資質・能力の育成に関して

「教科の学力だけでなく、ESDの資質・能力も育てなければならぬのですか?」

「その通りです。でも、資質・能力の育成は授業のしかた次第です。ESDの学習内容を取り扱っていても、一問一答型の一斉授業では、ESDの資質・能力を育てることは難しいでしょう。何かを付け加えるのではなく、授業スタイルを改善することをお勧めします。」

持続可能な社会の創り方

- ①技術開発
- ②持続可能性に貢献する政策(システムの構築)
- ③人々の意識の変容とライフスタイルの変革を促す(教育: ESD)

知らない間に貢献している持続可能な社会創りに貢献している

人々はそれが持続可能な社会創りに貢献することになっていると思っって行動している

④人権・文化を尊重する

◇基本的人権の尊重(ジェンダー平等、差別を許さない)
◇平和な社会をつくる
◇異なる文化的背景の人々の行動を理解する
◇伝統文化を尊重する
◇様々な文化(文化的多様性)を尊重する

⑤幸福感を重視する

- ・「与える喜び」と「獲得する喜び」
- ・利他の幸福感
- ・人との交歓
- ・自然との交歓

地域資源(こと・もの・人)を教材(ネタ)化する「ESDの視点」

見方・考え方	身の回りでのよき見つけ方	課題の見つけ方
①多様性	色々なものがある方がいい	多様性に乏しいものは問題だ
②相互性	つながっている方がいい	孤立しているのは問題だ・循環していないのは問題だ
③有限性	ものには限りがある	もったいないのは問題だ
④公平性	世代内と世代間が考えられている	不公平なのは問題だ
⑤連携性	なかまはずれをつくっていない	何かを排除(はいじょ)しているのは問題だ
⑥責任性	協力がある・やりとげしている	責任転嫁、やりっ放し、言いつ放しは問題だ

持続可能な社会の創り方

- ①技術開発
- ②持続可能性に貢献する政策(システムの構築)
- ③人々の意識の変容とライフスタイルの変革(教育: ESD)

但し①の技術を開発するのでも、②の政策を提案するのでも「人」、また、その政策を支援する(政治家に投票する)のでも「人」、技術を選択して使用することで開発された技術を支えるのも「人」。

人々の意識を変え、行動の変革を促す
それがESDという「教育」

最後のメッセージ

・新しい世界をつくるための活動は、それ自体心が躍るものでなければならない。楽しいものでなければならない。その活動を生きたということが、それ自体として充実した、悔いのないものでなければならない。(見田宗介: 社会学者)

ESDには、探究の楽しさ、社会や人の役に立つという楽しさがあります。この楽しさを子どもたちに伝えてあげてください。

問いA. あなたの出身地を

- ①多様性、②相互性、③有限性の観点で見直し、①②③のどれかでよさをアピールして下さい。

問いB. あなたの知り合いで

- ④公平性、⑤連携性、⑥責任性の面で素晴らしい人を紹介して下さい。

ESDで育てたい見方・考え方(ESDの視点)

- ①多様性、②相互性、③有限性は、自然環境や社会環境をみるときの視点です。
- ④公平性、⑤連携性、⑥責任性は、人や集団の行動や意思決定を評価するときの視点です。

信州ESDコンソーシアム令和元年度通常総会
「新学習指導要領に即してESDの授業実践を展開する」
 奈良教育大学 中澤 静男

1. ESDについて
 (1) ESDの概要
Education for Sustainable Development 「持続可能な開発のための教育」
 目的：持続可能な社会づくりの担い手を育成する
持続可能性に関する価値観と行動の変革を促す
 ESDの推進機関がユネスコです。
 ESDの3つの流れ 環境教育+開発教育+人権・平和教育＝ESD
 (2) ESDのこれまで
 1972年 ストックホルム会議 「環境教育」概念の提起
 1987年 ブルントラント委員会 これからの開発は「持続可能な開発」でなければならない
 持続可能な開発の定義
 「将来の世代のニーズを満たす能力を損なうことなく、今日の世代のニーズを満たすような開発」
 ◎世代間の公正と世代内の公正
 1992年 地球サミット（リオデジャネイロサミット）
 アジェンダ21 持続可能な社会の実現における教育の重要性を指摘：ESD
 1997年 テサロニキ会議
 「環境教育を『環境と持続可能性のための教育』と表現してもかまわない」
 2002年 ヨハネスブルクサミット
 ※2005年～2014年を関連ESDの10年として推進していくことを決定。
 2014年 ESDの関するユネスコ世界会議
 2015年 国連持続可能な開発目標（SDGs）の採択 17の目標と169のターゲット
 2017年 3月 新学習指導要領の告示
 前文「持続可能な社会の創り手となることができるようにすることが求められる。」
 幼稚園総則：「持続可能な社会の創り手となることができるようにするための基礎を培うことが求められる。」
 小・中学校総則：「豊かな創造性を備え持続可能な社会の創り手となることが期待される児童・生徒に、生きる力を育むことを目指す」
 高等学校総則：「一人一人が持続可能な社会の担い手として、その多様性を原動力とし、質的な豊かさを
 伴った個人と社会の成長につながる新たな価値を生み出していくことが期待される」

2. 新学習指導要領とESD
 (1) 新学習指導要領改訂の趣旨
 → 新学習指導要領の基盤としてESDの理念が組み入れられた
 → よりよい学校教育を通じて、よりよい社会を創るという発想
 ①教育を通して地域（地球）の課題解決を図る
 SDGsの達成（持続可能な社会の実現）に貢献する人材を育成する
 教育の役割： 社会的側面＞個人的側面

1

②先行き不透明な時代を生きる児童生徒に、どのような状況下でも自己実現できる資質・能力を育成する。**社会に適応できる力の育成というよりは、社会を創る力の育成**
 「生きる力」の育成は変わらない

(2) 生きる力の構成要素
 ①教科等で養う資質・能力
 ②全ての教科の基盤となる資質・能力
 ③現代的課題に対応できる力
 現代的・地球的課題にはどのようなものがあるでしょうか？5つ書いて下さい。

(3) 見方・考え方の育成
 ①知識を構造化する（因果関係で結び付ける）過程で養われる教科特有の見方・考え方
 ②教科横断的な学習による、見方・考え方の融合・洗練化
 ③実社会を教材にした学習による社会で役立つ見方・考え方への洗練化
 社会に開かれた教育課程

(4) ESDで育てたい見方・考え方（ESDの視点）
 地域に内在する課題を見いだしたり、地域のよさを再発見したりするときの目の付け所。

見方・考え方	身の回りでよさの見つけ方	課題の見つけ方
①多様性	色々なものがある方がいい	多様性に乏しいのは問題だ
②相互性	つながっている方がいい	孤立している・循環していないのは問題だ
③有限性	ものには限りがある	もったいないのは問題だ
④公平性	世代内と世代間が考えられている	不公平なのは問題だ
⑤連携性	なにかはずれをつづけていない	何かを排除しているのは問題だ
⑥責任性	協力がある・やりとげている	責任転嫁、やりっ放し、言いつ放しは問題だ

問いA. あなたの住む町を①多様性、②相互性、③有限性の観点で見直し、①②③のどれかよさをアピールして下さい。

問いB. あなたの知り合いで④公平性、⑤連携性、⑥責任性の面ですばらしい人を紹介して下さい。

◇「多様性」「相互性」「有限性」は社会環境や自然環境を評価する視点です

2

・教科教育では学習内容の概要が学習指導要領に規定されている。
 ・教科学習にはその教科の内容と目的があり、授業はまず教科学習として成立していることが必須。
 → 教科教育においてESDで育てたい価値観や見方・考え方、資質・能力を育てるためには、教科書や学習指導要領などをESDの視点から解釈する力が教員に求められる。
 → 学習内容をESDの視点で捉え直すことで、学ぶ意義を考え、学習意欲が高まる。
 ※ESDの「領域」をつけることで、教科の内容はそのままに、ESDで育てたい資質能力（世界標準の資質能力）を育成する。
 ※ESDの目標は持続可能性に関する「価値観と行動」の変革ですが、それがやりにくい教科もあります。例えば、社会科や生活科は「価値観と行動の変革」を促しやすい教科ですが、算数はやりにくいとよく言われます。算数の場合は、「資質能力」面で、「クリティカルシンキング」の育成などを念頭において授業化することができます。

6. 実践事例・すでにされている実践の検討
 (1) 小学校5年生社会「食料生産単元」
ESDに関することは指導要領には書かれていませんが、**ESD**・社会科に適当な単元です。
 問題点：食料生産にたずさわる人々の工夫や努力について学習することは重要だが、それだけでは、将来食料生産従事する子ども以外は、自分事化しうとしても難しい。
 解決策：農業の多面的機能を学習することで、単なる消費者から、農業を支える消費者へと意識の変革を促す。

農業の多面的機能とは

①

②

③

④

⑤

「消費行動を通して農業を支援する」という発想から、食材を購入するとき、持続可能な農業システムのために、自分ができることを考え、行動化することを促す。
 学習活動を資質能力・見方・考え方で検討する

主な学習活動	ESDで育てたい資質能力	ESDの視点
①日本の食料自給率から学習課題をつくる		
②地域の農家に関き取り調査を行う		
③地域の農家の工夫や課題をまとめて発表する		
④農業の多面的機能を考える		
⑤産地地産について考える		
⑥自分に出ることを考え、行動する		

関連するESDの価値観（ ）
 関連するSDGsの目標（ ）

5

持続可能な開発目標（SDGs）
 目標1（貧困）
 あらゆる場所のあらゆる形態の貧困を終わらせる。
 目標2（飢餓）
 飢餓を終わらせ、食料安全保障及び栄養改善を実現し、持続可能な農業を促進する。
 目標3（保健）
 あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を促進する。
 目標4（教育）
 すべての人に包括的かつ公正な質の高い教育を確保し、生涯学習の機会を促進する。
 目標5（ジェンダー）
 ジェンダー平等を達成し、すべての女性及び女児の能力強化を行う。
 目標6（水・衛生）
 すべての人々の水と衛生の利用可能性と持続可能な管理を確保する。
 目標7（エネルギー）
 すべての人々の、安価かつ信頼できる持続可能な近代的エネルギーへのアクセスを確保する。
 目標8（経済成長と雇用）
 包括的かつ持続可能な経済成長及びすべての人々の完全かつ生産的な雇用と働きがいのある人間らしい雇用（ディーセント・ワーク）を促進する。
 目標9（インフラ、産業化、イノベーション）
 強靱（レジリエント）なインフラ構築、包括的かつ持続可能な産業化の促進及びイノベーションの推進を図る。
 目標10（不平等）
 各国内及び各国間の不平等を是正する。
 目標11（持続可能な都市）
 包括的で安全かつ強靱（レジリエント）で持続可能な都市及び人間居住を実現する。
 目標12（持続可能な生産と消費）
 持続可能な生産消費形態を確保する。
 目標13（気候変動）
 気候変動及びその影響を軽減するための緊急対策を講じる。
 目標14（海洋資源）
 持続可能な開発のために海洋・海洋資源を保全し、持続可能な形で利用する。
 目標15（陸上資源）
 陸域生態系の保護、回復、持続可能な利用の促進、持続可能な森林の経営、砂漠化への対処ならびに土地の劣化の阻止・回復及び生物多様性の損失を阻止する。
 目標16（平和）
 持続可能な開発のための平和で包括的な社会を促進し、すべての人々に司法へのアクセスを提供し、あらゆるレベルにおいて効果的で説明責任のある包括的な制度を構築する。
 目標17（実施手段）

6

「公平性」「連携性」「責任性」は人や集団の行動や意思決定を評価する視点です。
 (5) ESDで育てたい価値観と資質・能力
◎価値観
 ①世代間の公正、②世代内の公正、③自然環境・生態系の保全の重視
 ④人権・文化・平和の尊重、⑤幸福感を重視する。
◎資質・能力
 ①クリティカルシンキング（物事を問い直し、新たな方法を見いだす力）
 ②システムズシンキング（物事を総合的にとらえる力）
 ③長期的思考力（先のことを見通す力）
 ④コミュニケーション力（人の意見を聞いたり、自分の意見を発信したりする力）
 ⑤協働的問題解決力（他の人と協力して最後まで取り組む力）

3. SDGs（持続可能な開発目標）について
 (1) MDGs：Millennium Development Goals（ミレニアム開発目標）
 2015年までに達成する8つの目標
 (2) 残された課題
 ・約8億人が極度の貧困状態
 ・経済格差の拡大
 ・男女間の不平等（特に意思決定に関して）
 ・地球温暖化、生物多様性の保全
 ・戦争・紛争により毎日42000人が難民となっている
 (3) SDGs：Sustainable Development Goals（持続可能な開発目標）
 2030年までに達成する17の目標と169のターゲット（資料参照）
 文部科学省はESDをSDGsの達成に貢献する教育と位置づけ推進を図る
 （→ 新学習指導要領の前文への記載）
 (4) SDGsの分類
A：特に環境問題に関するゴール（4つ）
B：特に経済問題に関するゴール（3つ）
C：SDGsの17のゴールの中でMDGsの①～⑥を引き継いだゴール（6つ）
D：C以外で社会問題に関するゴール（3つ）

◇17のゴールが達成された社会
 一つのゴールの達成を目指して取り組むことは、他のゴールにもいい影響を与える。
 ◇問い：たとえばどのゴールとどのゴールがつながっているでしょうか？複数のゴールをつなげて、その理由を書いてください。

3

◇持続可能な社会の作り方
 ①持続可能性に貢献する技術開発
 ②持続可能性に貢献する政策（システムの構築）
 ③人々の意識の変容とライフスタイルの変革を促す

5. ESDの2つの方向性
 (1) 総合的な学習の教材開発と単元構成の手順
 ①ソマティック・マーカーでピンと来たものを調べる
 ・文献調査（インターネットだけでなく）
 ・現地調査（玉感を使つて）
 ・インタビュー調査（現地の人に関して発見）
 ②先生自身が「おもしろい」と思ったものだけが、子どもを揺さぶる「いい授業」になる。
 ③子どもの関心を高める導入を工夫する。
 ④ゲストティーチャー・施設見学などを依頼する。
 ⑤単元を通して身につけることができそうな「資質能力」「見方・考え方」「価値観」を明確にする。
 これが明確になっていると、子どもへのアドバイスの仕方が変わります。
 ⑥事前のアンケートを作成し、実施する。（事前の評価）
 ⑦問題解決型の授業を展開
 導入→課題の作成→仮説の作成→仮説を検証するための調査活動→調査結果に基づく話し合い
 →学習のまとめ→行動化
 ⑧事後のアンケート実施し、事前と事後の子どもの変容を把握する。授業改善につなげる。

※ソマティック・マーカーとは
 ・人は日常生活で直面する多くの出来事を「直感的」に判断している。あるいは、「直感的」に多くの選択肢から限られた数の選択肢を選び出している。ソマティック・マーカーとは立ち止まらせる信号（直観）のようなもの。
 ・直感を育てるものには2つある。
 生存に関わるもの（人間が100万年間という長い年月の中で少しずつ身に付けたもの）
 よりよいものを選択するときにくさんある選択肢をしばる（経験的に身に付けたもの）
 ◇大人は「経済性」「損得」に関わるソマティック・マーカーは身に付けています。先生方は、持続可能性に関わるソマティック・マーカーを身に付けてください。

(2) 総合的な学習の時間におけるESDの内容
 ①地域を教材にする
 小学校中学年まで：まず地域を知り、地域への関心を高める学習
 小学校高学年から：SDGsのGoalから地域の課題や地域のよさを見いだす学習
 地域の課題を解決する学習・地域のよさをより伸ばす学習

(3) 教科教育におけるESD

4

持続可能な開発のための実施手段を強化し、グローバル・パートナーシップを活性化する。

7

令和元年度信州 ESD コンソーシアム 通常総会議事抄録

開催日時	令和元年 8 月 24 日 (土) 13:00~16:00	開催場所	信州大学教育学部中校舎 2F 第 1 会議室
		出席者	26 名 (定足数 22 名)
		欠席者	17 名
議題・報告・連絡事項等	審議・報告・連絡等の概要		
<p>【議題】</p> <p>(1) 議長選出</p> <p>(2) 協議</p> <p>・議員の選出について</p> <p>・事業報告について</p> <p>・事業計画について</p>	<p>宮島副会長により、議長が西委員に指名された。</p> <p>以下、西議長の進行により協議された。</p> <p>西議長より、運営委員長として資料 P5~6 に基づいて説明があった。</p> <p>➤ 拍手を持って承認された。</p> <p>水谷委員より成果報告書 2018 及び資料 P10 に基づき説明があった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 主に、成果報告資料 P10~11 頁（平成 30 年度信州 ESD コンソーシアム事業実績）及び成果報告会について説明された。 <p>➤ 拍手を持って承認された。</p> <p>水谷委員より資料に基づき説明があった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 資料 P19~20 の令和元年度信州 ESD コンソーシアム事業計画 (案) に基づき全体事業計画について説明があった。 ● 資料 P7 に基づき本年度採択事業についての説明があった。これまではユネスコスクール支援が重点的活動で、新事業では BR 関連活動がメインとなるが、引き続き支援活動を行っていく旨が説明された。 ● 資料 P18 に基づき予算についての説明があった。補助事業内での予算であることから申請書内の書類を用いて説明。学内事業費も活用予定である旨説明された。 ● 事業計画については、随時追加される活動もあるため、次年度に全て含めた事業報告を行う旨が伝えられた。 <p>➤ 拍手を持って承認された。</p>		

<p>・その他</p> <p>(3) 報告</p> <p>・加盟団体活動紹介</p>	<p>特になし</p> <p>資料 P21 から及び配布資料等を基に紹介があった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 長野県ユネスコ連絡協議会 <ul style="list-style-type: none"> ・別途資料あり。 ・組織紹介及び活動について紹介（国内外での活動）。 ・SDGs アシストプロジェクト実施予定。11 月ユネスコスクール全国大会にて募集要項配布予定。申請の際は内容を具体的（どんな人を呼ぶのか、どんな活動なのか）に記載すること。 ● 環境省中部環境パートナーシップオフィス（EPO 中部） <ul style="list-style-type: none"> ・別途資料あり。 ・ESD 活動支援センターの地方版として活動について。今後は環境省関連として、企業のための SDGs など実施予定。 ● 山ノ内町立南小学校 <ul style="list-style-type: none"> ・授業研究会や ESD カレンダー作成と見直しについての紹介。 ・課題は内容を固定できないため、担任の色が強く出てしまう点。 ● 山ノ内町立山ノ内中学校 <ul style="list-style-type: none"> ・配布資料 P23 ・ESD の取組は今年で 4 年目であり、価値・資質・能力がどう培われたかの評価の見直しの必要がある。 ● 山ノ内町立西小学校 <ul style="list-style-type: none"> ・自ら感じ、自ら考え、自ら動き出す子どもという目標の下、生活科や総合の時間で実施。子ども自身が発見し、学びを広げている。 ● 特定非営利活動法人長野県 NPO センター <ul style="list-style-type: none"> ・本年度よりコンソーシアム参加し、学校と企業のパートナーシップを結ぶための活動を行う。 ・環境カレッジ、SDGs で地方創生カード WS を 10 月実施予定。高大対象。 ● 諏訪ユネスコ協会 <ul style="list-style-type: none"> ・別途資料あり。 ・学習会で各市町村の教育委員にも ESD 研修を実施し、学校への ESD の普及・紹介を行っている。 ● 長野市立東条小学校 <ul style="list-style-type: none"> ・教職員 ESD 研修実施。生きた ESD 教育を目指し、持続可能な教育を行っていく。 ● 長野県中野西高等学校 <ul style="list-style-type: none"> ・ユネスコスクール 5 年目。
--	---

	<ul style="list-style-type: none"> 環境教育，異文化理解で国際理解を深めること，地域社会との協働，生徒の活躍の発表を行っている。 ● 長野県長野西高等学校 <ul style="list-style-type: none"> 2017年にユネスコスクール加盟。 個々の活動が多いが，今年度は学校としてSDGsと絡めた活動をしたい。 地域との連携や課題探索を行う。 ● 文化学園長野中学・高等学校 <ul style="list-style-type: none"> 別途資料あり。 ユネスコスクール3年目。 行動の変容や海外でのESDの学びからの発展などが見られる。未来の大人会議準備中。 信州つばきプロジェクトやSDGsながのプロジェクト参加。 教員も海外研修に参加し，学びを深めている(資料あり)。 ● いいづな学園 グリーン・ヒルズ小学校 <ul style="list-style-type: none"> 配布資料P21 1～6年生の総合の時間の取組紹介。 ● 附属幼稚園 <ul style="list-style-type: none"> 資源ごみの再利用活動紹介。 ● 附属松本小学校 <ul style="list-style-type: none"> ユネスコ委員会発足し，全校に周知している。ユニクロのリサイクル活動など紹介。 ● 附属松本中学校 <ul style="list-style-type: none"> SDGsの活動は多岐に渡る。 自分達の活動をSDGsと結びつけ(価値づけ)，各クラス単位で総合の時間を実施。 ● 附属長野中学校 <ul style="list-style-type: none"> 総合の時間の中で，7月実施の「ヒューマンウィーク」を実施。SDGsの視点や目標と結びつけるため，学び方を学ぶところからスタートする。 成果は発表などし，具体的な活動ができるようになってきた。 ● 附属特別支援学校 <ul style="list-style-type: none"> 地域，小学校，中学校と連携や花や物品の販売，公民館活動などを通して子どもたちの姿を発信している。 ● 直富商事 <ul style="list-style-type: none"> 工場見学や市場での受け入れで学校と連携したい。 ● 長野県環境政策課
--	--

	<ul style="list-style-type: none"> 環境カレッジ紹介。今後，講座拡充していく。 ● 長野市教育委員会 <ul style="list-style-type: none"> 市でも協力していく。 <p>特になし</p> <p>総会終了</p> <p>基調講演講師の奈良教育大学中澤静男先生より各団体の活動紹介を受けた講評をいただいた。</p> <ul style="list-style-type: none"> 形骸化の弊害を防ぐための検証が重要(どこに力を入れていくべきかなど)。 子どもの意欲，行動変容について，マズローの欲求5段階説をベースに考えてみる。自己実現欲求を持たせるためには，承認欲求を満たすことが必要。つまり，地域への発信とフィードバックを得ることが大事である。 共に実施していく人を増やす。実践や発表の機会をつくり，ヒトと人との交流を増やしていく。 山ノ内の委員会を作るとするのは良い。部活と結びつけるなどもあり。 生徒が地域に何ができるかを考えると，学校と地域の結びつきが考えられる。 <p style="text-align: right;">以上</p>
--	--

4. 意見交換

・その他

【信州 ESD コンソーシアム総会資料】

2019年8月24日
学校法人いいづな学園グリーン・ヒルズ小学校
教諭：直江 鉄平・尾形 望

1 グリーン・ヒルズ小学校(担当者：尾形【080-1676-9223】)
本校は，長野市にある飯綱高原の豊かな自然の中で，「関係性を基盤に自律性を育む」という教育目標のもと，対話とプロジェクトを特徴とする私立の小学校です。

2 本校における ESD 活動の概要
【りんご園プロジェクト】
(1) 活動の経緯と目標
○活動の経緯
2015年度より，本校保護者から紹介されたりんご農家と出会い，りんご栽培に興味をもった子どもたちが栽培や収穫の体験をした。2017年度から，豊かな自然体験と農業体験を通して，自ら考え，仲間と話し合い，社会とつながり，協力を体験していく子どもの姿を願い，小学校全体で年間を通して行うプロジェクトを始めた。りんご畑を農家の方にお借りし，学校独自の自然体験・農業体験活動として，本校の教育活動に位置付けている。

○プロジェクトの活動の目標
①自然体験，農業体験を通して，自然と親しみ，自ら社会とつながることのできる子どもを育てる
②広い視野で自ら課題を見つけ，深く追究できる探究心と行動力のある子どもを育てる

(2) 本年度の活動目標

活動目標	活動重点
①子どもたちがりんご園プロジェクトの活動に対して，自ら考え，自ら行動できるような仕組みを作る	<ul style="list-style-type: none"> 道具の管理場所を整理して子どもに示し，自ら準備できるようにする 月間の見通しを盛り込んだ計画表を提示する これまでの活動の記録を，いつでも見られるように掲示場所を整理し，活用する
②新たな仲間を迎え，認め合い，働き合える関係性を作る	<ul style="list-style-type: none"> 「りんご会議」の場を最大限に生かし，1～6年生が一緒に話し合い，参加者意識を持てる場を設定・工夫する トレーニングサークルを活用した機動的な活動のふり返りなどを通して，互いに聴き合い，がんばりを認め合える場づくりを継続する
③子どもたちの深い思考と追究を促すよう，支援の充実と環境の工夫をする	<ul style="list-style-type: none"> 「りんご学習」の深まりを目指す。学年や発達に応じた知識・思考・技能・探究の能力を育むテーマの教材研究と実践に取り組む

3 ESDに取り組みによる主な成果と課題

(1) 成果
＜プロジェクトの活動の目標①に関わって＞
・地域の農家の方をはじめ，パライシエや広告代理店など，地域の人材としてのプロフェッショナルの方とつながってその仕事に触れることができた
・自分たちが苦労して育てたりんごに対する愛着と誇りをもち，販売までの一連の活動を体験して自己有用感が高まった
・一つのプロジェクトを小学生全員で行い，学年を超えて支え合う豊かな関係性を築くことができた

＜プロジェクトの活動の目標②に関わって＞
・「りんご」という題材からテーマを多岐に広げ，教科横断的な活動を1年間通して行うことができた
・継続的に活動をふり返ることを通して，自己評価の力，メタ認知力の育成につなげることができた
・農業や販売活動について，活動をより良くしようと意見を出して行動する子どもの態度を育むことができた

(2) 課題
・年間指導計画の改善
・農作業の充実(保護者の力を借りて効率化)
・アドバイザー農家や近隣農家との連携の充実
・スタッフの研究(農業・その他体験活動・教材における授業)
・資金運用の効率化
・農作業用の備品の充実と管理の徹底
・活動とESDとの関連の明確化。他校の実践を学び，交流を通して本校の実践を向上させる

信州ESDコンソーシアム 令和元年度通常総会 資料 R1.8.24.
山ノ内中学校 ESD 推進の内容及び思い・能力について 山ノ内中学校 本山 育人

1 持続可能な開発のための教育(ESD:Education for Sustainable Development)の視点から考えた本校の目標

本校では、ESDを「自分たちの町を持続的に発展させていくためには何をすべきか」と考え、全教育活動の中核に据えている。町の抱える諸問題に対し、中学生として、また卒業してからも、何が出来るのかを考え、地域や町当局に発信し、自らもできることをやろうとする中学生を育成することが目標である。

地域活性化のために自分たちが出来ることをやる

2 今年度の活動計画

学年	1学年	2学年	3学年
学年目標	○3年間の課題意識と意欲を持つ。	○課題解決に向けての意欲と方向性を持つ。	○山ノ内町の持続発展に自分が関わり、地域、他地域に発信する。
つきたい力	○情報を集め、取捨選択し、課題を見いだす力	○他と比較し、課題解決の方法を考える力	○情報をまとめた、発信し、行動する力
中心活動	○3年間ESDの活動をしていた「基盤作り」として「山ノ内を知る」ことを活動の中心におく。	○「他地域の取り組みを参考に」する目的で、「草津研修旅行」を活動の中心におく。	○研修旅行を含め、「魅力ある山ノ内」をどのように地域や、他地域の人に発信するかを考え、実践する。
STEP1	○志賀高原研修旅行 ①志賀高原ユネスコエコパーク環境学習 ②志賀高原魅力探し研修	○草津研修旅行 ①課題別グループによる調査項目検討 ②調査活動	○研修旅行での発信 ①課題別グループ研修 ②観光大使になって山ノ内町の魅力をPR
STEP2	○志賀高原研修旅行学習発表 ①研修内容とSDGsとの関連を考える ②白樺祭でのポスターセッション	○草津研修旅行学習発表 ①調査別グループによる調査報告書作成 ②白樺祭でのパワーポイントによる対話型発表	○中学生が夢みる町づくり計画(7月) ①提案事例の基礎調査 ②町理事者、団体との討論会
STEP3	○地域自慢探し(10月～11月) ①地域自慢の旅 ②地域自慢ガイドブック作成	○職業体験学習(11月) ①事前連絡、A取り等のコミュニティ学習 ②職業体験	○中学生のお薦め「山ノ内町パンフレット」づくり ①山ノ内の魅力をパンフレットにまとめ発信
STEP4	ESDコンソーシアム(信州大学)での活動報告	○研修旅行に向けて ①草津研修旅行で学んだ手法で、京都2日目の活動報告 ②町の観光大使としての魅力発信について	○夢みる町づくり実現プロジェクト ①自分の提案した事業の仮具現化(模型や論文等)

- 1 -

3 それぞれの活動に対する、振り返りの検討
国立教育政策研究所教育課程研究センター「ESDの学習指導過程を構想し展開するために必要な枠組み」より、評価規程を検討していきたい。

①持続可能な社会づくりに関わる以下の6つの構成概念 概念内容例

構成概念	内容
1 多様性	○社会は多種多様な物事から成り立ち、多種多様な現象が起きていること。
2 相互性	○社会は互いに働き掛け合うシステムであり、物質等が循環し、人と人が互いに関わり合っていること。
3 有限性	○社会を成り立たせている、資源やエネルギーには限りがあること。
4 公平性	○持続可能な社会には、基本的な権利の保障などが地域や世代を渡って、公平・公正・平等であることが大切であること。
5 連携性	○持続可能な社会は、多様な主体が状況などに応じて、順応・調和し、互いに連携・協力することにより構築されること。
6 責任性	○持続可能な社会は、多様な主体が将来像に対する責任あるビジョンを持ち、それに向かって変容・改革することにより構築されること。

② ESDの課題を解決するために必要な4つの力と3つの能力 求められる力

能力・態度	1 批判的に考える力	2 未来像を予測して計画を立てる力	3 多面的、総合的に考える力	4 協力を進める力	5 協力を進める力	6 協力を進める力	7 協力を進める力
1 批判的に考える力	○合理的、客観的な情報や公平な判断に基づいて本質を見抜き、もとのことを深く、建設的、協力的、代替的に思考・判断する力。	○過去や現在に基づき、あるべき未来像(ビジョン)を予想・予測して計画を立てる力。期待し、それを他者と共有しながら物事を計画する力。	○人・もの・こと・社会・自然などのつながり、かわり・ひろがり(システム)を理解し、それらを多面的、総合的に考える力。	○自分の気持ちや考えを伝え、他者の気持ちや考えを尊重し、積極的にコミュニケーションを行う力。	○他者の立場に立ち、他者の考えや行動に共感するとともに、他者と協力・協働してものごとを進めようとする態度。	○人・もの・こと・社会・自然などと自分とのつながり、かわりに関心をもち、それらを尊重し、大切にしようとする態度。	○集団や社会における自分の発言や行動に責任をもち、自分の役割を理解するとともに、ものごとに主体的に参加しようとする態度。

③ ESD視点による目標・評価一覧表(例)

単元名	学習内容・活動	ESDの視点に立った学習指導での能力・態度
内	I 多相性 II 相互性 III 有限性 IV 公平性 V 連携性 VI 責任性	① 批判的に考える力 ② 未来像を予測して計画を立てる力 ③ 多面的、総合的に考える力 ④ 協力を進める力 ⑤ 協力を進める力 ⑥ 協力を進める力 ⑦ 協力を進める力
略	[評] [他] [協] [公] [連] [担] [他] [未] [多] [協] [他] [他] [他]	[他] [未] [多] [協] [他] [他] [他] [他]

- 2 -

JICA東京主催
令和元年度教師海外研修
帰国報告会(パラグアイ派遣)

8月24日
文化学園長野中学・高等学校
長田 里恵

本研修の目的

(1) パラグアイ共和国における開発ニーズや現状、協力案件(過去に実施された案件含む。)における関連性を提示する。
(2) パラグアイ共和国の開発途上国としての側面、中進国入り後の発展状況両方を見てもらい、パラグアイの現状を把握する。
(3) 日系移住地を訪問し、関係先視察・関係者との意見交換を行うことで、日本との繋がり、多文化共生、日系移住地の主に農業経済への貢献について理解する。
(4) 教育関係ボランティアの裾裾先を訪問し、現地の教育事情、課題を把握する。

途上国としての課題と中進国としての発展

①高い食料自給率と農業の発展
②次世代育成
③社会的インフラの整備

中進国としての課題

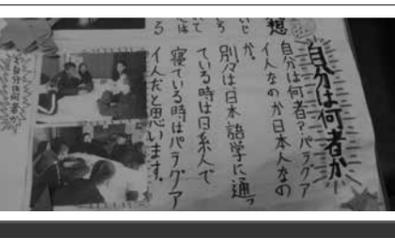
産業の発達と雇用機会の増加

都市と農村の格差を抱えた発展

→都市内の格差(カテウラ地区の事例)

(3) 日系移住地の訪問から見る、日本との繋がり、多文化共生、農業経済への貢献。

8月8～9日ラ・パス移住地訪問
ラ・パス日本人会、移住資料館
ラ・パス農協
日系スーパーマーケット
日系農家
ラ・パス日本語学校



3 志賀高原研修旅行でのESD評価とSDGsとの関連について(昨年の活動から)

各活動と環境教育・SDGsとの関連

1 志賀高原トレッキング

志賀高原ガイド組合ガイドによるトレッキング
①志賀高原の地形
②志賀高原の動物
③志賀高原の植物
④志賀高原の気候
⑤環境保全のあり方

単元名	学習内容・活動	持続可能な社会づくりの構成概念	ESDの視点に立った学習指導での能力・態度
略	[評] [他] [協] [公] [連] [担] [他] [未] [多] [協] [他] [他] [他]	[他] [未] [多] [協] [他] [他] [他] [他]	

各活動と環境教育・SDGsとの関連

3 動物の生態

信州大学水谷先生による定点観察カメラに登場する動物の生態についての講義(信大志賀自然園にて)
①核心地域と緩衝地域と動物の出現率をグラフ化する。
②出現率の比較を通して、自然界における動物の行動様式を推察する。
③人と動物が共存できる環境のあり方を考える。

単元名	学習内容・活動	持続可能な社会づくりの構成概念	ESDの視点に立った学習指導での能力・態度
略	[評] [他] [協] [公] [連] [担] [他] [未] [多] [協] [他] [他] [他]	[他] [未] [多] [協] [他] [他] [他] [他]	

- 3 -

*参考までに SDGsを意識した志賀高原研修旅行の振り返りの方法

1 テーマ
「志賀高原学習で学んだことの意義を、SDGsのゴール目標で考えよう」

2 内容 「マングラート方式でSDGsのゴール目標を考えよう」

(1) マングラートとは
マングラートは、仏教に登場する曼荼羅模様由来のもので、曼荼羅模様を似たマス目アイデアを書き込んでいくことで自然にアイデアを広げていくことができる技法のことです。曼荼羅+アートという造語でマングラートと名づけられました。
1テーブル8人ぐらいて一つのテーマを追究する。

(2) マスを埋めることで発想が広がる
◎第1段階15分
マングラートは仏教の曼荼羅のように、正方形を9分割したマス目の中で思考を広げていきます。
【志賀高原学習で学んだこと】

トレッキング	キャンプファイヤー	ユネスコエコパーク
本工でプランターケース作り	志賀高原	スキー場
山菜を使った郷土料理	観光パンフレット作り	豊かな自然

◎第2段階25分
④1枚目の外側のマスからさらに詳しく追究しようとする項目を一つ選び、2枚目の中央に書きます。(例「豊かな自然」)
⑤中心のテーマについて、人と自然が共存するために必要なことを周りの8マスに書きます。具体的な内容を付箋紙に書きます。
⑥全部のマスが埋まったら、関係があると考えられるSDGsのシールをその箇所に貼り、考えた理由を述べる。

登山道整備	植林作業	間伐材の利用
車規制	豊かな自然	観光客を呼ぶ
河川の清掃	環境トレイルの整備	動物の保護と駆逐

◎第3段階(15分×2回)
全体でシェアします。
ワールドカフェ方式で、前後半に分け、他の班に出かける人と、自分の所にくる人に説明する人に分けます。
このようにして、自分の学習や活動が、SDGsのどの目標やターゲットと関係する人か認識することによって、子どもたちに持続可能な取り組みへの意識が身につくと考えます。

- 4 -

①日本語教育・日本文化継承の難しさ。

・思春期にアイデンティティに悩む。
・スペイン語学校では「もっとスペイン語を勉強しなさい」と言われる。
→習得のメリット・モチベーションが低い。

②パラグアイを知らなすぎる日本人。

・対パラグアイ経済協力実績は1・2位を保っているが、日本ではパラグアイの情報が手に入らない。
→親日感情を持つ中進国パラグアイと双方向的な関係を築くことが大切。

③美化された日本と、現実。

遠くにいるからこそ、日本が美化されている。(動船、約束を守る、豊かで便利、おしゃれ)
日本に出稼ぎに来た人がすぐ帰国してしまう。(狭い、天井が低い、せかせかしている、儲からない)
日本の住み続けられる街づくりのために？

2. 多文化共生

①受け入れ国の「寛容性」。
②文化の持続可能性への疑問。
③多文化共生から多文化融合へ。

①受け入れ国の「寛容性」。

パラグアイではマイノリティである日系人も、生かされている。

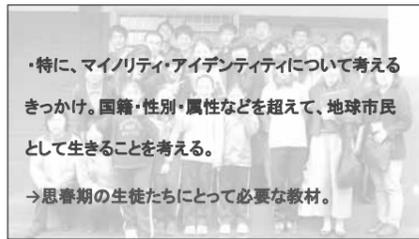
②文化の持続可能性への疑問。

日パラ双方の文化を残す難しさ。
→大事なもの、失いたくないものは持続する。日本の心を共通して持ち、共感しながら日パラがつながることがポイント。

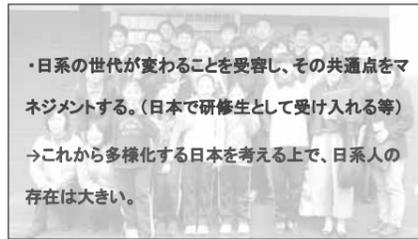


③多文化共生から多文化融合へ。

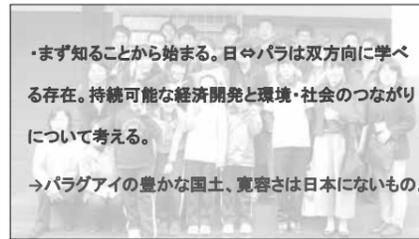
パラグアイ流の内弁当・鯉の皮海苔巻き
→パラグアイ文化・日本文化との融合。



・特に、マイノリティ・アイデンティティについて考える
きっかけ。国籍・性別・属性などを超えて、地球市民
として生きることを考える。
→思春期の生徒たちにとって必要な教材。



・日系の世代が変わることを受け入れ、その共通点をマ
ネジメントする。(日本で研修生として受け入れる等)
→これから多様化する日本を考える上で、日系人の
存在は大きい。



・まず知ることから始まる。日⇄パラは双方向に学べ
る存在。持続可能な経済開発と環境・社会のつながり
について考える。
→パラグアイの豊かな国土、寛容さは日本にないもの。

教育事情と課題

○課題
・児童が授業で使う持ち物を揃えることが
できない。
・教師主体の授業のため、体験的な活動
が取り入れにくい。

教育事情と課題

○課題
・貧困地域
→学校に行くこともままならない
→学校に必要なものを揃えられない
→トイレ(ペーパーなし 水圧弱い)
・家庭環境
→お風呂に入っていない子どもや服が
汚れたままの子どもの姿

教育事情と課題

○課題
1. 日本政府からの支援がない
2. 日本の教材・教具の不足
3. 教育の担い手不足
4. 児童生徒の日本語を学ぶ意欲の低下

III

成果発表 & 交流会

平成31年度
SDGs達成の担い手育成
(ESD)推進事業

文部科学省
MEXT
MINISTRY OF EDUCATION,
CULTURE, SPORTS,
SCIENCE AND TECHNOLOGY

信州ESDコンソーシアム 成果発表&交流会

日時: **2月1日(土)**
9:55~16:00

会場: 信州大学
国際科学イノベーションセンター
(AICS)2階
[信州大学長野(工学)キャンパス内]

参加費 無料
事前申込み不要・当日参加可

9:55~10:00 開会挨拶
10:00~12:15 ● 成果発表 (前半の部)
12:15~12:30 講 評
12:30~13:45 ● 交流会
13:45~15:40 ● 成果発表 (後半の部)
15:40~15:55 講 評
15:55~16:00 閉会挨拶

主催: 信州ESDコンソーシアム

後 援: 信州大学教育学部 長野県教育委員会
ESD活動支援センター 中部地方ESD活動支援センター
長野県ユネスコ連絡協議会 一般社団法人 長野県環境保全協会
ユネスコスクール支援大学間ネットワーク (ASPUivNet)

お問い合わせ 信州大学教育学部
信州ESDコンソーシアム事務局(担当:高橋・清水)
〒380-8544 長野市西長野6-口

TEL: 026-238-4034
E-mail: kyoesd@shinshu-u.ac.jp
特別な配慮が必要な方は、上記連絡先にあらかじめご連絡ください。

信州ESDコンソーシアム成果発表会 & 交流会

開催日時: 令和元年2月1日(土) 9:55~16:00

会場: 信州大学 国際科学イノベーションセンター (AICS) 2階

参加者: 小、中、高等学校の児童生徒、教員、保護者、コンソーシアム関係者 269名

当日の様子





山ノ内町立西小学校

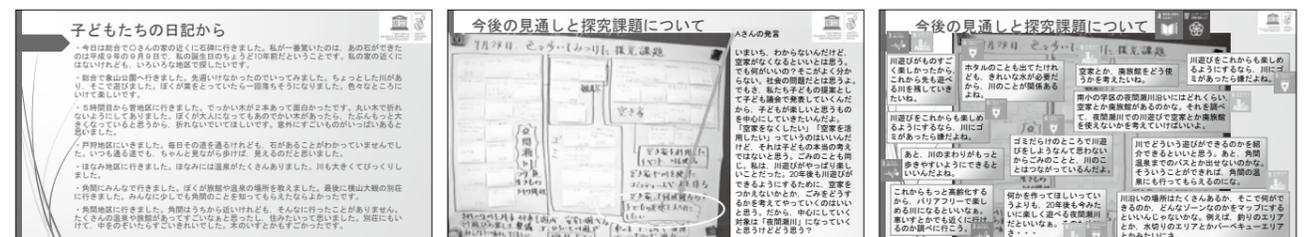
山ノ内町立西小学校2年生
「しろとめぐるとぼくたち」



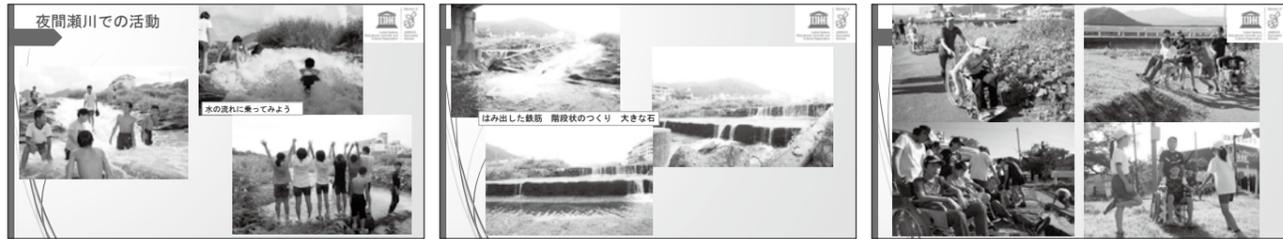
山ノ内町立東小学校



山ノ内町立南小学校



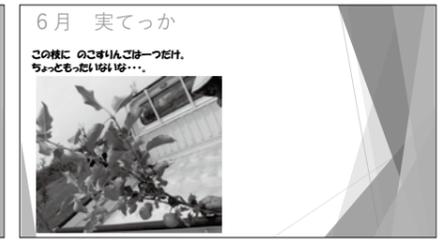
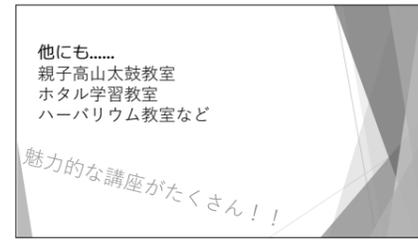
高山村立高山小学校



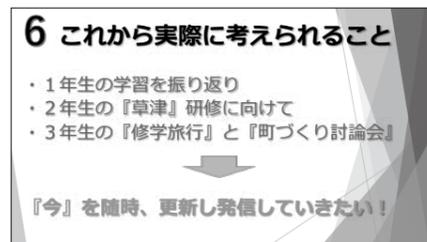
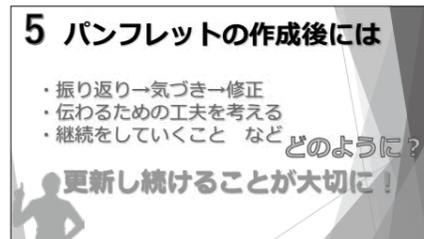
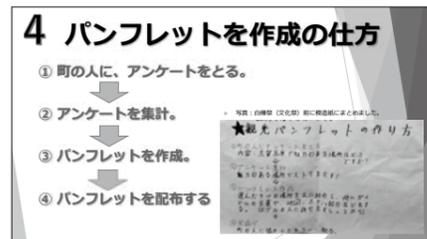
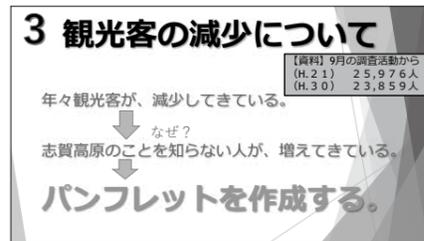
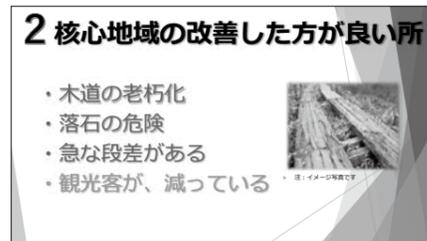
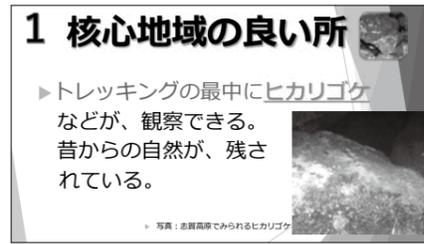
講座名	開催日時	講師	会場	参加人数
公民館や文化協会の講座とPTA主催の講座を一体化し、それらの中から自分がやってみたい講座を選びます。				



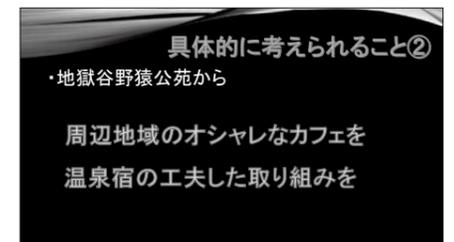
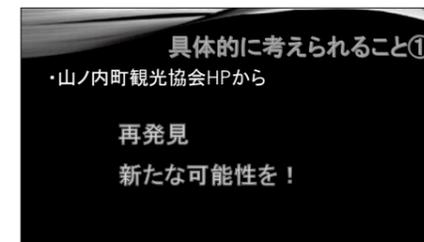
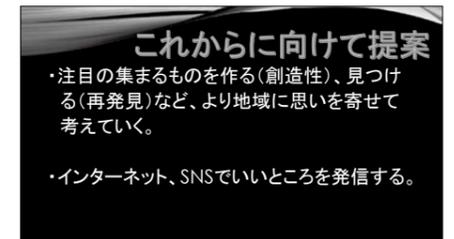
- 発表のまとめ
- ① 私たちが住む地域には気が付いていないだけで温泉、川、歴史的なものなど多くのおもしろいものがある。
 - ② 廃旅館や空き家など地域の課題もたくさんある。
 - ③ 夜間瀬川はとても楽しい場所だけれども残していきたい場所。その場所を守るためにバリアフリーや防災などやらなくちゃいけないことがたくさんある。そして、たくさんの方が夜間瀬川に関わっている。
 - ④ 総合でみんなで取り組むことはおもしろい。



山ノ内町立山ノ内中学校①



山ノ内町立山ノ内中学校②



山ノ内町立山ノ内中学校③

サルによる被害について



山ノ内中学校
湯本 花凛
成澤 心那

問題の所在

●観光客(女性)
サル4匹に囲まれそのうち1匹に右肩を噛まれ軽傷を負った。

→ 続くと、町の評判が悪くなり
観光客が減っていってしまう!?

提案①

①ホテルのドアをオートロックにすること

猿の被害で鍵のかかっていない部屋に入ってくるというものがあったため。

提案②

②犬の鳴き声を録音して流す

猿の被害でおみやげの入ったビニール袋が破られたりひたついたりするというものがあったため。



まとめ

サルは、観光客に人気があります。ですが、このような被害が起きてしまうことがあります。その責任は私たち人間にもあると思います。

なので、私たちの方から、猿に歩み寄ることがこのような被害を減らす第一歩だと思います。

熊による被害について



山ノ内中学校
佐藤 和樹
中田 大貴

実際にあった事例

- 農作物被害について
畑をあらされる
鶏50羽を殺される 等
- 人身被害について
山から下りてきたクマによる被害
山に入った人が襲われる



熊に人が襲われる理由

- 一つ目
その年の食べ物が不作だった
- 二つ目
クマと人の生活圏が隣り合わせになりつつある
- 三つ目
人もクマの棲むエリアに入るようになった。

提案

- 人身被害を防ぐには
 - うかつに山に入らない
 - 山の入るときは鈴などをつける
- 農作物被害を防ぐには
 - 電気柵の設置
 - 不要な果実の伐採
 - 放棄作物の除去

写真 Wikipedia <https://ja.wikipedia.org/wiki/>

高山村立高山中学校

ESDの取り組み

高山村立高山中学校

井ノ浦隆朗 根岸優夢 黒岩大陽 関谷和香 丸山知英

高山中学校の総合的な学習

全校テーマ「故郷 高山村と私」

↓
各学年でテーマを設定

↓
高山村での学習
他地域での学習

↓
中学生議会



1年生の活動「故郷 高山を知り、自己を見つめる」
高山村の特産物「ワインぶどう」

飯綱町 サンクゼール「ワイナリー、ぶどう農園見学」

高山村 角藤農園「除葉作業」



1年生の学習「故郷 高山村を知る」
学校林での活動「きのこ栽培」

シタケ、ナメコの駒打ち

学校林にて本伏せ



2年生の学習「ユネスコエコパークの自然を体験、知る」
志賀高原自然散策

志賀高原の自然を体験

湧温泉の散策



2年生の学習「ユネスコエコパークの自然を体験、知る」
志賀高原自然散策

高山村産業振興課の職員の方を招き高山村の観光について知る

高山村の観光について考える

文化祭でこれまでの学習を発表
高山村の観光について提案




故郷 高山を知り、自己を見つめる



信州大学教育学部附属松本中学校

信州ESDコンソーシアム成果発表

本日の発表

- 1 学校紹介
- 1 ESDの実践
- 1 志賀高原宿泊体験学習
- 1 1年C組の活動とESDとのかかわり
- 1 まとめ

学校紹介

2020.2.1

学校名 信州大学教育学部附属松本中学校

生徒数 476名
1学年 4クラス
2学年 4クラス
3学年 4クラス

通学区
茅野 諏訪 岡谷
塩尻 松本 安曇野

2011年6月
県下初の
ユネスコスクールに認定

ESDの実践

2020.2.1

ESDの基本的な考え方や知識、技能、態度、行動力、国際理解、持続可能な開発目標、SDGs、環境教育、生涯学習、職業教育、社会教育、生涯学習、職業教育、社会教育、生涯学習、職業教育、社会教育

地熱利用
志賀高原宿泊体験学習
ESDの基本的な考え方や知識、技能、態度、行動力、国際理解、持続可能な開発目標、SDGs、環境教育、生涯学習、職業教育、社会教育、生涯学習、職業教育、社会教育

遠隔温泉活性化
松本城清掃
国際交流

志賀高原宿泊体験学習

2020.2.1

志賀高原宿泊体験学習の様子

志賀高原宿泊体験学習の様子

志賀高原宿泊体験学習の様子

1年C組の活動

2020.2.1

1年C組の活動の様子

私たちの活動とESDとの関わり

2020.2.1

私たちの活動とESDとの関わり

私たちの活動とESDとの関わり

2020.2.1

私たちの活動とESDとの関わり

環境保全 = 地熱

一人当たりのCO₂の排出量が減る！

いちごハウスを温める

温泉

遠隔温泉活性化

二酸化炭素の軽減（発電なし）

私たちの活動とESDとの関わり

2020.2.1

私たちの活動とESDとの関わり

ホテル玉の湯で宴会の片付け

=食品ロスの大切さ

3010運動へ

まとめ

2020.2.1

ESDの視点から考えるこれからの私たちの活動

- ・イベントの企画や活動する際に、ESDの視点をもって活動していきたい。
- ・地熱の利用について、さらに活用できないかを追究していきたい。

最後に

2020.2.1

遠隔温泉の活動をESDの視点で振り返ったクラスメイトの言葉です。

私には、昔から疑問がありました。なぜ人間は生まれてきたのか。二酸化炭素を出しまくっているだけの無意味な存在の価値なんてあるのか。私は全ての命に意味があると思っています。その答えは、今は「愛することができること」だと思っています。人間が本当の意味で愛することができるなら、地球を守れると思います。私たちが今、遠隔温泉にもっている思いを外に広げていければ、他の人の心も動かせると思います。

まとめ

2020.2.1

「愛することができる」ってどういうことなのだろう

ご清聴ありがとうございました。

長野市立東条小学校

ホタルが飛ぶふるさと 東条 ～ホタルぴっかり 大作戦！～

令和2年2月1日（土） 長野市立東条小学校 3年

東条小学校

長野市松代東条地区

あんず ながいも

温泉

「オオムラサキ」って何？

「オオムラサキ」とは

- ・日本の国蝶
- ・準絶滅危惧種
- ・オスとメスで色が違う
- ・（オスは光沢のある青紫色、メスはこげ茶色）

オオムラサキ観察会

ホタル

ホタルについて

【ホタルの生態】

- ① たまご・幼虫・さなぎ・成虫と成長する。
- ② きれいな川にすむと言われている。
- ③ 約1年かけて成長し、成虫となって生きる ことができるのは、10日くらい。
- ④ 結婚相手をさがすために光る。
「わたしは、ここにいます！」

東条 ホタルの数調査

～6月 ホタル観察会～

第1位 大日池西側の川

102匹

東条 ホタルの数調査

～6月 ホタル観察会～

第2位 瀬関

81匹

茅野市立永明小学校

ホタルがたくさんいる川と
いない川の違って何？

川調査に行こ

川調査の項目

・水温 ・深さ ・流れのはやさ ・よごれ ・コケの有無
・土のやわらかさ ・他生物の有無 ・カワニナの

川調査のけっか

調査項目	水温	流れの速さ	深さ	水質	ゴミ(バケツ・杯)
ホタル水路(0区)	13.14℃	14秒	24cm	pH7.0	落ち葉
学校裏側水路(21区)	13.8℃	8秒	15cm	pH7.5	落ち葉
保育園西側(0区)	14.28℃	28秒	19cm	pH6.5	人工的(1杯)
大日池東側(54区)	11.18℃	18秒	30cm	pH5.8	人工的(COD4杯)
大日池西側(102区)	10.856℃	8.56秒	9cm	pH6.5	人工的(2杯)
瀬田(61区)	10.231℃	23.1秒	10cm	pH6.5	人工的(2杯)

11月 台風19号

自然の中で ホタルが幸せに
今よりたくさん飛ぶように...

ホタルぴっかり大作戦！！

東条小に關係するホタル

今のホタル水路

設計図作り

「こんなホタル水路にしたい」
ホタルが喜ぶ環境にするために...

- ・土をやわらかくする
- ・木を植える。
- ・カワニナをとってきて川に放す。
- ・看板を立てる。
- ・川の中に落ち葉や石を入れる。
- ・土手の石にコケをつける。
- ・コケをしめらせる。

ご静聴 ありがとうございます

PSP (ピース・スマイル・プロジェクト)
2年間の歩み

茅野市立永明小学校 6年 陸奥 学

簡単な自己紹介

今まで取り組んできた活動を振り返る

H20 飯山市立飯山小学校・・・牛乳パックの回収
H23 中野市立延徳小学校・・・アースレンジャー

H24.25 山ノ内町立南小学校・・・山ノ内町改造計画
H28 辰野町立辰野南小学校・・・きぼうから平和を
H30.R1 茅野市立永明小学校・・・PSP(平和活動)

私が大切に考えてきたこと

自分ごととして捉えられること...知る、身近なもの・こと・人にかかわる人とのつながり...その人の思いに触れる

自分にできること...今の自分ができていることに気づき人へ繋がっていく...

結果として「持続可能な開発のための教育」になっている

PSPのはじまり

5年生の夏。図書館の読み聞かせでこの本と出会います。司書の先生には、担任からこの絵本の読み聞かせを依頼しました。

6年生の「永明の日」

自分たちのやってきた2年間の活動を自分たちの言葉で振り返りました

1945年8月6日 午前8時15分 広島・原爆投下

つるを折り続けました

12才で亡くなりました

白血病で入院した佐々木禎子さん

5年生の永明の日

忘れてはいけない5つの日

3月10日 東京大空襲

6月23日 沖縄占領

8月6日 広島原爆

8月9日 長崎原爆

8月15日 終戦

アメリカ軍の捕虜となった少年兵

一人が一つ作った千羽づる

信州大学教育学部附属長野小学校



私が大切に考えてきたこと
自分ごととして捉えられること…
知る、身近なもの・こと・人にかかわる
人とのつながり…その人の思いに触れる
自分にできること…今の自分ができていることに気づく

私が大切に考えてきたこと ①
自分ごととして捉えられること…
知る、身近なもの・こと・人にかかわる
2年間、私は平和の活動をして感じたのは、「平和のはじまりは知ることから」ということです。5年生、活動をはじめたころは、「平和なんてあたりまえ。意識しなくてもできること」だと思っていました。もちろん、世界は平和のほうがいいけれど、ずっと意識することなんてそんなに必要じゃないんじゃないかと思っていました。(中略)自分が知った原爆、戦争のおそろしさ。人に伝えたいし、私ももっと知りたい、そう思いました。
ぼくは、PSPの活動を2年間やって、2年前は戦争のことはほとんど知らずに、広島に原爆が落ちたくらいしか知りませんでした。PSPの活動です。日本で起きた戦争のことについて調べて、ぼくは広島原爆について調べて、犠牲者やいつ落ちたかなど詳しく知ること、戦争の悲惨さや苦しさを少しでも知ることができたのでよかったです。(中略)学校を卒業して中学生、高校生になって大人になってPSPの活動で学んだことを絶対に忘れないようにしたいと思いました。

私が大切に考えてきたこと ②
人とのつながり…その人の思いに触れる
5年生のとき、原さんという人に出会いました。原爆の火をどうやって持ってきたのかなどをお話してもらうために学校にきました。私は、福岡まで行って広島に火を持って来たことを知り、とてもおろそかでした。その他にも、平和祈念式実行委員長の品川さん、平和のどうのそうじで知った辺見さんなども出会いました。
6年生になって、活動をしていると、たくさんの人が平和への思いを強くもっていることをよく感じます。それは、きっとあの戦争のひどさを知っているからだ、私は思いました。
私はPSPを2年間行って、戦争を反対している人が身の回りにたくさんいることが分かりました。(中略)平和祈念式では、お年寄りの方だけでなく、中学生もスピーチをしていたことから、さまざまな年齢の人たちが平和を願っていることが分かりました。私たちが年齢に近い中学生も平和を願い、戦争を反対していることを知ってとても嬉しかったです。

私が大切に考えてきたこと ③
自分にできること…今の自分ができていることに気づく
2年間調べてきた平和は、とても身近なところにあると思いました。学校に来て、クラスに集まっていることが平和だと感じる。少しでも、うれしいなと思いました。当たり前のことですが、けんかをしない、家族を大切にすること、そういうことが平和につながるんだと思います。友達にありがとうやごめんなさい、同じ地区の人にあいさつをしたり、友達と協力してがんばったりすることを知りました。そして、私は中学生と大きくなくても、身近な平和を増やして、世界が少しでも平和になってくれたらいいなと思いました。
私は、このPSPという活動を行ってきましたが、その後どのようなことに活かしていくか、どのようなことをすればいいかを考えました。まず、身の回りのことから考えました。当たり前のことですが、けんかをしない、家族を大切にすること、そういうことが平和につながるんだと思います。8月6日に、運動公園の原爆の塔で平和祈念式が行われています。私は今年、その式に初めて参加しました。中学生のお話を聞いて、中学生も平和への思いをちゃんと持っているんだなと思いました。今度は私が他の人に伝えるような人になりたいです。日本、そして世界も、戦争のない平和の世界になってほしいです。



きょうどりょうり
郷土料理とは
旬の食材とその保存・活用などにより、その土地で培われた伝統的な調理法で調理された、それぞれの土地の自慢の味。

農林水産省 「郷土料理百選」
～食べてみたい！食べさせたい！ふるさとの味～
○どういう視点で選ばれたのか
1. 料理としての地域性や独自性、歴史的意義があるか。
2. 郷土料理の保存・継承への努力がなされているか。
3. 地元の食材が活用されているか。
4. 地域住民に自慢（じまん）の味として知られているか。
5. 都市との交流や地域振興に活用されているか。



長野県中野西高等学校

自家製 野沢菜漬け

自家製 切り干し大根

【小川の庄】さんで おやき作りを学ぶ

小川の庄さんで作られている焼きおやきは、西山地域（長野市中条・信州新町・七二会、小川村などの地域）で生まれた。

ほうろく

おやきは どうやって生まれたの？

おやきは、山間地が多く、稲作が難しい地域で、米があまり手に入らない中で、小麦粉の生地で作る米の代わりの食事として親しまれてきた

いりりで炭焼きおやきをつくる 小川村の家庭の様子（昭和18年）

小川の庄さん 「古い時代の生活の知恵。そのおいしさをそのまま伝えていきたいです。」

作っている人の思い

ふきっこおやきさん 「おやきをもっと身近に感じてほしい。そのために工夫を重ねました。」

どうしたら伝統を受けついでいけるのかな？

「“おやきのおいしさを伝えたい” そういった思いをこめて作ること」

自分達で作った切り干し大根のおやき

おやきは長野県の自慢の味！！

信州大学教育学部附属長野小学校4年2組の発表を終わります。ありがとうございました！！

中野西高校 コーヒー倶楽部

2年 東谷 裕大
澁谷 圭佑
1年 小林 哲輝

児童労働

構成

- ・1年生～3年生の有志（1年生8名、2年生3名、3年生6名）
- ・学習班、販売班の2種類の活動がある。

はじめに

- ・「バレンタイン一揆」→児童労働やフェアトレードを学ぶ
- ・自分たちにできることはないか？→中西バレンタイン一揆
- ・丸山珈琲「つながりをもたらす最高の一杯」講演会
- ・中西オリジナルの物はないか？→オリジナルズーヒー

目的

- ・フェアトレードについてより多くの人に知ってもらう
- ・児童労働を無くすために自分たちにできる取り組みをする
- ・世界に視野を広げ、理解を深める

本年度の学習

- ・フェアトレードの仕組み

フェアトレードの種類

①承認型…マークが付いている。第三者機関が審査一公正に取引されている製品と承認

②直接提携型…マークが付いていない。企業や団体が独自の基準を設定して生産者と直接取引・支援

丸山珈琲さんはこの方法！

直接！

第三者を介さない！

十木もれ陽ブレンド

ベストフレンド・ベストブレンド

販売班の活動

- ・校内 文化祭、文化展、入学式、卒業式
- ・校外 ショーンション祭り、おごっそフェア、ジャズ喫茶

おごっそフェア

↓ ショーンション祭り

ジャズ喫茶

ボランティア活動

- ・台風19号 農業ボランティアにて無償提供

収益より

- ・台風19号 豊野みなみ保育園へ寄付
- ・ユニセフへの寄付

長野県長野西高等学校①

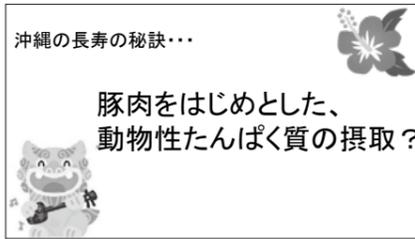
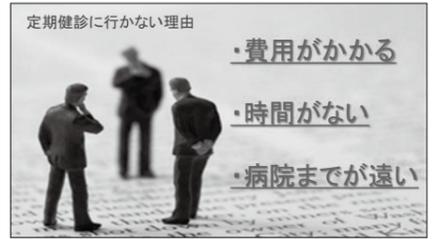
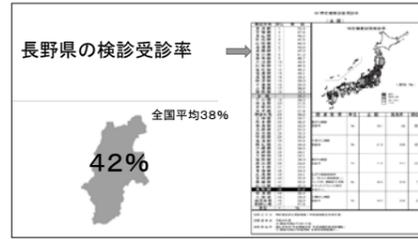


SDGs 3 すべての人に健康と福祉を
あらゆる年齢の全ての人々の
健康的な生活を確保し
福祉を推進する

3 すべての人に健康と福祉を

平均寿命は

男性			女性		
順位	都道府県	平均寿命	順位	都道府県	平均寿命
1	滋賀	81.78	1	長野	87.675
2	長野	81.75	2	岡山	87.673
3	京都	81.40	3	鳥根	87.64
4	奈良	81.36	4	滋賀	87.57



そんな沖縄もついに・・・

平均寿命はトップクラスだったが、トップクラスの“肥満の割合が高い県”となってしまった。

現在の状況

会社の定期健診がある人は定期健診を受けられているが自営業の人や、主婦の人は自分で病院に行かなければ、健診を受けることができない。

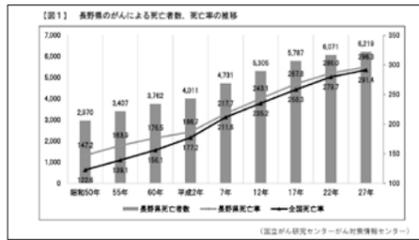


ところが・・・健康寿命は？

順位	都道府県	健康寿命
1	山梨	73.21
2	埼玉	73.10
3	愛知	73.06
4	岐阜	72.89
5	石川	72.67
6	静岡	72.63
7	山形	72.61
8	富山	72.58

女性

順位	都道府県	健康寿命
1	愛知	76.32
2	三重	76.30
3	山梨	76.22
4	富山	75.77
5	鳥根	75.74
6	栃木	75.73
7	岐阜	75.65
8	茨城	75.52
9	鹿児島	75.51
10	沖縄	75.46
11	新潟	75.44
12	大分	75.38
13	福岡	75.37



大きな特徴

- ・受診者の負担が減る
- ・拘束時間が短く、手軽に受けられる

しかし、

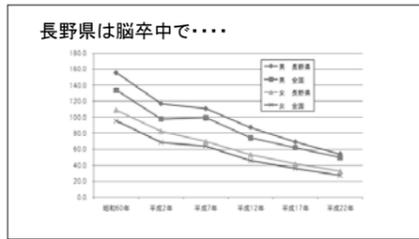
- ・普通だったら2万円ほどかかる健診を500円で受けられるようにすること。

・1回では見落としもあるかもだから何回も受けなければ・・・

ワンコイン健診を実施した地域では

- ・健診受診率が上がった
- ・運動や食事を見直す人が増えた

実施した地域には受診者の、健康への意識が向上した。



私たちができること

- ・呼びかけ
- ・イベントの実施
- ・ポスター制作

ワンコイン健診を行うことで

健やかに毎日を過ごしていくことができ、のびのびと仕事や趣味、子育てに取り組むことができる。

そして、地域の活性化の第一歩を踏み出せることでしょう。

長野県はもともとは健康県ではなかった！？

雪が多い長野県ではかつて冬に野菜が取れず保存できる漬物が欠かせなかった。そのため塩分をとりすぎていた。

そんな長野県を救ったのは・・・

“減塩Gメン”と呼ばれる住民ボランティア

“野菜王国”と呼ばれるほどの強みである野菜生産量に救われた



ご清聴ありがとうございました。

Thank you!!

長野県長野西高等学校②

**THINK GLOBALLY
ACT LOCALLY**
地球規模で考えて、地域で行動しよう！

ユネスコスクール特別委員会

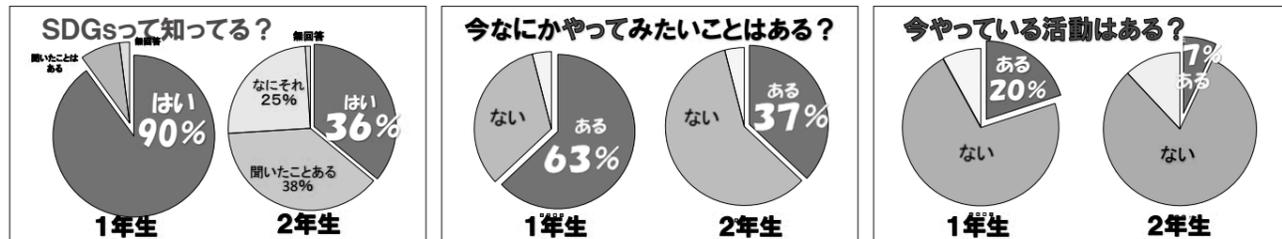
皆さんはSDGsを
どのくらい知っていますか？



ユネスコスクールとして

N A S U
～長野市内の高校生の集い～

**Thank you
for listening!**



①キャンパスSDGs
②フェアトレードチョコレートをあげよう！
③活動の計画を立てる
④小さなことに取り組む

①キャンパスSDGs



②フェアトレードチョコレートをあげよう



～バレンタイン～
3人の女子高校生が見る児童労働の現状を知るためにガーナを訪れる物語

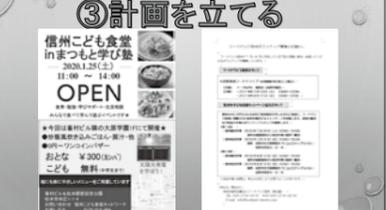
児童労働

- ・教育を妨げる労働
- ・健康的な発達を妨げる労働
- ・心身に有害、危険な労働
- ・自由を奪う労働

フェアトレード

安定した収入 → 教育の浸透 → 産業の発展

③計画を立てる



④小さなことに取り組む

- ・私のSDGs宣言
- ・節電、節水
- ・クラスで目標を立てる

①キャンパスSDGs
②フェアトレードチョコレートをあげよう！
③活動の計画を立てる
④小さなことに取り組む

これらをやっていきます！！

長野県長野西高等学校

ユネスコスクール特別委員会からのアンケート

SDGs 認知度アンケート 丸つけてください→ 先生・生徒 ____年

エス・ディー・ジーズ
S D G s

(1) 今話題になっている (Sustainable Development Goals, 国連加盟国 193 カ国が 2016-2030 年の 15 年間で達成するための目標) を知っていますか？

[知っている・聞いたことはある・なにそれ]

(2) 今世界や日本で話題になっている問題(地球温暖化、子供の貧困、超高齢化、再生可能エネルギー、AI、LGBT、震災、プラスチックゴミ、フードロスなど)に関心はある方ですか？

[結構ある・まあある・ふつう・全然ない]

(3) 長野西高校がユネスコスクールだということを知っていますか？

[知っている・知らなかった]

(4) 長野西高校がユネスコスクールとして活動している活動は何か思い浮かびますか？

[] ・全然思いつかない]

(5) SDGs カードゲーム体験に参加したことはありますか？またする予定ですか？

[したことある・する予定・したことない]

(6) SDGs カードゲーム体験をやってみようと思いますか？

[はい・いいえ]

(7) 自分でなにか新しい活動をしてみたい、自分のやりたいことについて活動をしたいと思うことはありますか？(ボランティア、マイプロジェクトなど)

[はい・いいえ]

アンケートへのご協力本当にありがとうございました。

ユネスコスクール特別委員会は、今年新設された産まれたてピチピチの特別委員会です。SDGs 目標達成の 2030 年になると、生徒のみなさんは 26、27、28 歳ですね！学校での SDGs への学びが、私たちの将来に活かされるように

ユネスコスクール特別委員会は、あんなに遠くにある問題も、いま隣の人が抱えている問題も、全て、「じぶんごと」として考えられるような、そんな活動を一生懸命考えて行なっていきます。

文化学園長野中学・高等学校

何を継続し・持続していくか

未来の大人会議に向けて

私たちが考える「継続し・持続したいこと」

- ①国際キャンペーン
- ②文化祭
- ③SDGs探究とその先

①国際キャンペーン

(1) SDGs × 長野

「誰とでも子ども食堂」 (長野市 高田)

高橋さんが活動
・1食300円
使う食材はほとんどが寄付

(1) SDGs × 台湾

孤食の子供だけが集まる場所

↓

1人暮らしのお年寄りの方々も集まる
地域のコミュニケーションの場でもあった

(2) SDGs × 台湾

5 ジェンダー平等を実現しよう

信州つばさプロジェクト × SDGs ツアー in 台湾

国際キャンペーンとは?

各委員会ごとSDGs宣言をし、アクションプランを立てて実行!

こと

=私

“誰一人取り残さない”
私もあなたも、誰一人残さない
社会

「価値観」について考える座談会を実施

座談会の様子

(2) SDGs × 台湾

実際に企業を訪問して働く女性の話を聞くことができた

公共の場に授乳室がないと法律で罰せられるといった環境が整っていた

現地の学校に訪問して台湾の生徒と授業を受ける車に泊まる

(2) SDGs × 台湾

- ①仕事に関する価値観
- ②女性が働きやすい環境が整っていること
- ③男女がとても仲がいいこと

男女が参画できる社会が創り上げられている

(3) SDGs × ハリ・ドイ

4 質の高い教育をみんなに

SDGs達成に向けた次世代育第9回ESD国際交流プログラム

ユネスコスクールと持続可能な開発のための教育(ESD)普及を目的としたプログラム

自己有用感を高める

「あなたにも楽しんでほしい」

互いを承認しあう行為

活動の質や効率を上げる

協調性を生む

②文化祭

文化祭でSDGs活動を実施!

ユネスコスクール活動を多くの人に知ってもらうためにユネスココーナーをはじめとしたさまざまな活動を実施!

(3) SDGs × ハリ・ドイ

UNESCO フランスパリ本部

SDGs目標4 「質の高い教育をみんなに」の質とは何か?

質の高い教育とは

や、教科書や文房具、それらが揃って質の高い教育だと言える国もあるし、に就ける勉強が出来れば、質の高い教育だと言える国もある。それぞれの国や地域で「質の高い教育とはこうだ。」と一概には言えないが皆さんのように、問題について、考えることこそ質の高い教育といえるのではないかな。

長野県高等学校弁論大会 出場

「地球を救う治療薬」
1年 山田純音 優秀賞

「性別関係なく活躍できる社会に」
2年 金川ゆうか 優良賞

「終点」
2年 坂野志希 最優秀賞

文化祭活動の様子

アルミ缶アート

台風19号の義援金 約100,000円

世界は広い!

だからこそ、世界に数多くある問題を私たちがピックアップして解決に向けた活動をこれからも継続していきたい!

信州つばさプロジェクトSDGs ツアー一期・二期

- ・カンボジア3人
- ・オーストラリア1人
- ・台湾1人
- ・韓国1人

2020年 派遣決定

持続可能な社会へ

「未来の大人会議」

- ・未来の大人とは、私たち子どものこと
- ・未来の大人たちが将来より良い社会で共存し合えるように話しあう会議
- ・ワークショップなどを通して世界や地域の問題と向き合い解決していく

③SDGs探究とその先

何を考え

どんな活動をし

そして今後何を継続し・持続していくか

(1) SDGs × 長野

2 質の高い教育をみんなに

子ども食堂

みなさんも

未来の大人会議

参加しませんか

NPO法人長野県NPOセンター ユースリーチ

ユースリーチとは？

長野を、少しずつ、もっとよくする
～ユースリーチという活動を通じて～

青木萌珠、中澤賢太

令和2年2月1日 信州ESDコンソーシアム成果発表会

長野の高校生・大学生が主体
(学年の枠を超えて) ※25歳未満の学生が対象

「長野を少しずつもっとよくする！」

自己実現 × 仲間づくり × 社会問題解決

「やりたい！」 × 参加・協力する × 社会・地域を変える

メンターNPO・企業 (アドバイス・資源提供)

4月21日(日) 新学期応援フェス開催！

5月 テーマごとのフィールドワーク

6月15日(土)予定 企画会議開催！

6月～12月 アクションプラン実施

12月(日)予定 最終報告会

条件に合う場所がなかなか見つからない、ここで気付く

交流って場所決めなくてもできるよね！

月に1回のイベントを始めました、

『高校生未来サミット信州』

活動が安定し始めたと思ったその時、未曾有の大災害が起きました。

今こそ高大学生の力を結集する時！

FourthPlaceは震災の3日後から復興支援活動をスタートしました。

震災の日からNPOの活動の中心である災害情報共有会議が行われていました。

大人は大勢いるものの、高大学生の姿が見られない！

大人からは高大学生を復興支援に巻き込みたいと相談をされ、高大学生からはやってみたくは何をしらいいかわからないと相談されていました。

学生発・SDGs実現 ユースリーチの目指す姿“コラボカ”

突然ですが、、、

皆さんにとって高校生って

どういう時期ですか？

リア充になれそう！ 勉強大変そう

縛りが無い！ 縛りに遊べて楽しそう！

中学生100人にアンケートを取ってみました！

高大学生のための **高大学生災害情報共有会議**を開催し始めました！

なんとこれが全国初の取り組みでした！

実際に現地で活動している方のお話を聞いたり

自分のアイデアを共有しました！

居場所つながりで11月から継続的に子供支援に参画しています。

災害によって平時の活動がストップしていたわけではありません！

8ヶ月の活動の末、12月中旬に私達の居場所となる場所が決定しました！

3月のオープンに向けて準備を進めています！

楽しそう！

勉強も大変そうだけども

中学の頃はそう思っていた。

でも高校生になってみたら、、、

起床 朝食 登校 授業 部活 下校 夕食 課題 就寝

高校生になって

親とバトルを繰り返す回数が増えた。お金の制約が中学より軽くなった 時間の制約が中学より軽くなった

これなのに さっきの生活サイクルじゃ中学と変わらないじゃん！

信州高大学生 応援フェス2020

SHINSHU STUDENTS SUPPORT FEST

最後に、、、

今年度の活動の集大成としてイベントを実施します！

考えてるだけじゃ、始まらない！

信州高大学生 応援フェス2020

SDGs実現のためのアクションの成果も皆さんにお届けします！

ありがとうございました！

FOURTHPLACE.44

NAGANO SDGs PROJECT

東京都文京区に行けば、中高生の秘密基地がある！

文京区 × NPO 4thPlace

b-lab = bunkyo laboratory

ダンスの発表会をやったり、語り合ったり！

バンドの演奏会をやったり、餅のほりを作ったり、浴衣の講座をやったり！

では、長野で高校生が沢山いる場所って？

長野市まんげんふら屋
長野市東豊イーストプラザ
長野県立図書館

じゃあ長野県は？

自習室は沢山ある！

でもとにかく勉強するためのスペースそこでコミュニティって広がるのかな？それを求める高校生は沢山いるのに！

居場所がないなら作っちゃえ！

FourthPlace という名前、

空き家を使う。

国中でピアリングも行いました！



IV

ユネスコスクール全国大会参加

ブース展示ポスター(信州ESDコンソーシアム)

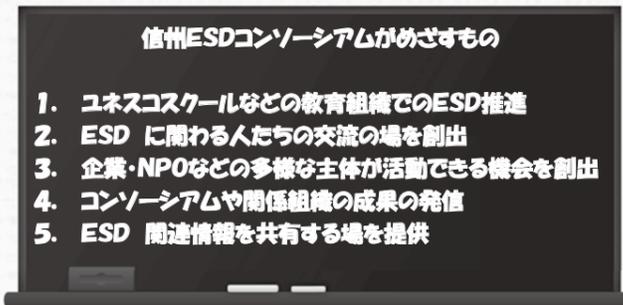


信州ESDコンソーシアム



信州ESDコンソーシアムとは

- 信州ESDコンソーシアムは、文部科学省「グローバル人材の育成に向けたESDの推進事業」の採択を受け、平成29年2月に正式に発足しました。
- 長野県におけるESDの普及と定着を図るため、以下の活動を展開しています。



信州ESDコンソーシアムの活動

各種研修会

- ACCU、ESD活動支援センター・地方センターなどと協力して、学校関係者のほか、企業、NPO、各種団体、行政など、ESDにかかわる様々なステークホルダーを対象とした**ESD研修会を開催**しています。
- **学校現場に向いて**全ての教員を対象に、学校教育にESDの視点を取り入れるための実践的な研修会を実施しています。



教員・指導者の育成

- 信州大学教育学部では**環境マインド**を持った人材育成に取り組んでいます。**必修の授業科目『環境教育』**でESDについて取り上げ、その実践に積極的に取り組むことができる教員・人材の育成を行っています。
- **社会教育主事講習**では、4日間にわたりESDに関する講義・演習を展開しました。



成果発表会

- 児童・生徒が一堂に集まり、日頃のESD活動の発表と交流を行います。
- 平成28年度には100名以上、平成29年度には200名以上の児童・生徒などが信州大学長野(教育)キャンパスに集い、交流を深めました。平成30年度はさらに規模を拡大し、**松本・長野の2会場**での開催となりました。



県内におけるユネスコスクールとESDの現状

- 美しい自然環境に恵まれた長野県では、従来から学校現場で学校登山をはじめとする**自然体験学習**や**環境教育**、そして「ふるさと学習」などの**地域学習**が盛んに行われてきました。
- 一方で、ESDの概念はまだあまり普及していません。県内620校以上の小・中・高校のうち、ユネスコスクールに登録されている学校は15校に留まっています。
- **持続可能な「しあわせ信州」**を創造していく上で、ESDの県内への普及と推進は、必須の課題となっています。

校種	校名	校種	校名
幼稚園(1校)	信州大学教育学部附属幼稚園	中学校(4校)	信州大学教育学部附属松本中学校
小学校(7校)	山ノ内町立東小学校 高山村立高山小学校 山ノ内町立西小学校 山ノ内町立南小学校		山ノ内町立山ノ内中学校 高山村立高山中学校 信州大学教育学部附属長野中学校
	茅野市立永明小学校	一貫校等(1校)	文化学園長野中学・高等学校
	信州大学教育学部附属長野小学校	高等学校(2校)	長野県中野西高等学校 長野県長野西高等学校
	信州大学教育学部附属松本小学校	特別支援学校(1校)	信州大学教育学部附属特別支援学校

長野県内のユネスコスクール加盟校(2018年10月現在)

ユネスコスクールでの学び

- 県内のユネスコスクールでは、学校ごとに地域の特色を活かした様々なESDの学びが展開されています。これらの学校は、今後県内でESDが普及していく中で、他校のモデルとなることが期待されます。
- **信州大学教育学部附属松本中学校**では、ESDで育まれる能力や態度を視点として、教科横断的なカリキュラムを全教科で構想し、教科の枠にとらわれない多面的・多角的な学びを実践しています。
- **山ノ内西小学校**では、地域の支援を受けながら、子どもたちがリング栽培に取り組んでいます。子どもたちの発案で、リングを地獄谷野猿公苑などに訪れるインバウンド観光客に販売するなど、「予定調和的でない学び」が展開されています。
- **中野西高等学校**では、1月末の一週間、ユネスコに関連する活動に集中的に取り組む「ユネスコウィーク」を設けています。最初の年の企画は教員や地域のステークホルダーが中心でしたが、2年目からは、生徒たちの自主的な取り組みも目立ち始めています。



ユネスコエコパークとESD

- **ユネスコエコパーク(BR)**は、豊かな自然環境や生態系を守りながら、その自然を有効活用し、地域や人間社会が発展することを目的とした「**自然と人間社会の共生**」を実現するモデル地域です。
- ユネスコエコパークにはESDの学びの資源が豊富にあり、またESD自体がユネスコエコパークの理念を実現する手段でもあることから、その実践による相乗効果が期待されています。
- **志賀高原BR**では**移行地域のすべての学校がユネスコスクールに登録されており**、多様な主体によるESD実践が展開されています。信州ESDコンソーシアムではこの取り組みを起点に、実践事例の収集やBR間の交流と学びあいや実践の共有など通じて、BRを活かしたESD/SDGsの普及と深化の促進に取り組んでいます※。



※平成31年度SDGs達成の担い手育成(ESD)推進事業(文部科学省)採択「ユネスコエコパークを活用した学校教育におけるESD/SDGsの普及・深化と実践モデルの開発(国立大学法人信州大学)」

ユネスコスクール全国大会参加者の報告書

いづな学園グリーン・ヒルズ小学校

1. 参加者名・職名・担当

・尾形望(おがたのぞみ)／小学校教諭／1・2年クラス担任

2. 参加のねらい

全国の多様なESD／SDGs実践を行っている学校、団体、個人の方々から日々の実践をどのように創り上げているか、子どもたちとどう学んでいるか、その実践をどう組み立てているのか、などを見聞きし、本校の今後の学習に結びつける。また、全国大会後には、学校スタッフとの情報共有に努め、一人ではなく、学校全体としてESD／SDGsの取り組みがどのように進めていけるかを考える。

3. 得られた成果

「ESD」の学びによって、子どもたちにどんな力をつけていけばよいか、ということを分科会の中で話し合いました。そこでは、民間団体、行政、学校それぞれの立場から実践を行う方々の多様な意見を聞くことができました。その中で、いかに教師自身、私自身がいま世界で起きている様々な出来事について「自分事」として捉え、その状況を変えるために行動しているか、ということを問われました。子どもたちの学びをつくっていくと同時に、私たち大人も学び続け、行動を起こし続け、世界を変える一員である意識をもつ必要がある、そしてその大人の姿はどんな言葉を語るよりも子どもたちに伝わるのだという認識を新たにすることができました。

4. 今後取り組んで行きたいこと

ランチオンセッションでは、住友林業様のお話を聞かせていただき、本校周辺の台風で倒木してしまった木々の活用について、更地になってしまった土地への植樹についてなど、持続可能な飯綱高原の森を育てるにはどうすればよいか、など考えを巡らせることができました。また、岐阜市立島小学校の実践発表の中では、ルーティン化している毎年の活動(枝豆を軸に全学年が取り組むもの)について、その年の子どもたちの興味関心などから、どのようにアレンジし、「活動ありき」ではない実践ができるか課題をいただきました。本校もコンテンツベースにならない、コンピテンベースの活動を目指して計画していきます。

5. コンソーシアムに期待すること

すでに計画が立ち上がっている、「信州ESD コンソーシアム研究会」なるものへの参加と、そこで出会い、共に学びあえる先生、個人のみなさんとの密な連携、自身の教育活動のブラッシュアップが図れることを期待しています。また、個人としては、「ESDコーディネーター」のような、学校現場のことについても、地域のことについてもよく知って協力できるような役割の方の発掘、共に研究できる機会があるといいなと思いました。大学生や一般社会人、民間企業、NPO・NGO団体など多様な個人の集まりの中でそのような取り組みができることを期待しています。(もちろんその場のデザイン、コーディネートは大変かと思いますが)

茅野市立永明小学校

1. 参加者名・職名・担当

教諭・福島佳之・研究主任

2. 参加のねらい

ESDおよびSDGsの理念、および、ESD実践の具体について研修する。

3. 得られた成果

以下のことを研修することができた。

- 基調講演「ESD・学校教育における実践の展望」(見上一幸 前宮城教育大学学長)より
 - ・「SDGsに学ぶ」、から「SDGsについて行動する」へ学習活動を移行していくとき。
 - ・2030に向けてこれからの10年、新学習指導要領の結果を出す時である。
 - 特別講演「ユネスコの理念とESD」(平川理恵 広島県教育長)より
 - ・個別最適化の教育を進めるにあたって、異才の子ども『一つのことを探求したい子ども』は不登校の子の中にはたくさんいる。
 - ・スペシャルサポートルーム 「週休二日制がきつい」という子に対して、「どんなペースで出勤しますか?」「月、水、金出勤します」そう自分で決めるときちゃんと登校してくる。将来、毎日会社に行っていれば給料をもらえる時代ではない。自分に合う「働き方」で食っていけるように。
 - ・日本初の公立小学校イェナプランカリキュラム、123学年と456年の異年齢学級の学校を開校させるが、「社会は異年齢なのに学校は同年齢」という違和感に注目したい。社会に出た時に愉快的な人生を送ってほしいとすることが学校の役目であるのだから、社会同様に生活し学ぶことが自然である。
 - ・1対多数の一斉授業でなく子供が子供を教えていく。もともと子供はシステム思考。システム的に考えて解決できる力をもっている。
 - ・「受験のための勉強」と「そうでないこと」を切り分けてしまう。そのような中、社会と同じような異年齢集団で納得解を見出す学習を進める。民主的に話し合う練習を学校で担保する、それがESDであり学校教育である。
 - 「ESDで学ぶ平和 ～広島の中高生が学び、語る平和の在り方～」より
 - ワールドピースゲームに参加した中高生より、次のような思いを聞いた。
 - ・これまでは高い位置の人が決めて周りが従って平和をつくると考えていた。一人が平和のために動いても周りが動かないと続かない。
 - ・協力することで相手が知らないことが伝わったり、自分の知らないことがわかったりできる。そして関係が深まる。
 - ・取引、交渉の難しさ。意見を伝えながら行動していくことの大切さ。
 - ・平和の実現には協調性。協調性を高めれば危機を回避できる。「ミサイルをとばしてみたかった」、「クーデターを起こしてみたかった」でもそうしなかったのは、みんなのことを考えたらできなかった。
- これらのことを、ゲームを通して生徒たちが学び取っていることに感銘を受けた。「ワールドピースゲーム」を知りその様子を実際に参加した生徒たちから聞いたことは貴重な研修となった。

4. 今後取り組んで行きたいこと

現在本校では、昨年度末までに「ESDカレンダー」を作成しSDGsと関連させた教科学習のありかたについて、および、「縄文科学習」によるESD実践のあり方について、実践を通して研究しようとしている。しかし、「ユネスコ理念」、「SDGs」、「ESD」について研修が必要であり、その必要感をどう醸成するか思案している現状がある。

そこで、来年度次のように展開できないか思案している。

- ・「縄文科学習」を中心に合科的な学習を実現させるカリキュラムマネジメントについて、校務分掌上の研究グループを立ち上げ、ESD実践の中核となることを目指す。
- ・実践発表の機会を設ける。
- ・全ての職員が必要感をもってESD実践を行えることを目指して、「ユネスコ理念」、「SDGs」、「ESD」について校内研修を行う。
- ・自分のクラスで「ワールドピースゲーム」を実践し保護者へ公開する。
- ・これら現実的に可能となるための業務精選を行う。

5. コンソーシアムに期待すること

新学習指導要領にも「持続可能な社会の作り手を育む」という内容の文言が盛り込まれるなど、ESD実践の必要性は高まっているが、現場教員への浸透については課題がある。働き方改革が進められる中で新たなことを始めることの困難さもある。

そこで、学校としてのESD実践の成功例を紹介していただいたり、校内研修の講師として来ていただいたりするとありがたい。

高山村立高山小学校

1. 参加者名・職名・担当

松澤裕子・教頭・ESD、ユネスコスクール担当

2. 参加のねらい

ユネスコスクールとして、ESD及びSDGsについての全国的な動向及び実践を研修し、新学習指導要領におけるカリキュラムマネジメントを校内で推進していくための具体的取り組みについて学ぶため。

3. 得られた成果

開会式からパネルディスカッションでは、ESDやユネスコスクールの理念、新学習指導要領実施に向けて、「社会に開かれた教育課程」を実現していくためのSDGs17について、とても良く分かりました。教育活動を「持続可能性」という視点から捉え直し、「やらされる」から自ら「やりたい」へ変容していくために、感動のある実体験があり、何のために学び、どう生きるか、社会に貢献するかについて「ESDの質の向上」をはかっていくことが大切であることを感じました。また、広島県のすべての子供のための「学びの変革プラン」としてのSSRや個別最適な学び担当、イェナプラン教育校設置等についてもとても参考になりました。特に、「ワールドピースゲーム」の動画や意見交換では、中高生が話すことの大切さ、協調性、相手の意見の尊重等について熱い思いで交流している様子がとても印象的でした。

ワークショップ「ESDを軸としたカリキュラムマネジメント」(手島利夫 ESD学会副会長)では、新学習指導要領に盛り込まれたESDの理念やカリキュラムマネジメントについて楽しく参加することができました。「これからの時代、どのように学校教育を進めていけばいいだろうか」についてのグループワーク及び伝え合いは授業でとても有効だと思いました。ホールスクールアプローチの重要性を感じました。

4. 今後取り組んで行きたいこと

今回、全国大会に参加させていただいて、ユネスコスクールとしてESDを軸とした学校教育及び教育活動を意識して学校全体で取り組んでいきたいと思えます。現在、ESDカレンダーの見直し、地域との連携を継続して取り組んできています。カリキュラムがあるからではなく、児童が主体的・対話的な学習づくりをしていくために、教師自らが問いを持ち主体的に取り組むことを授業改善も含め教育活動の中で行っていきたいと思えます。そのためまずは、先生方が主体的になれるコミュニケーションづくり、職員室づくり、チームづくり、ESDが具体的行動になっていくための研修を行っていきたいと思えます。

5. コンソーシアムに期待すること

ユネスコスクールやESD及びSDGsについて、学校として「持続可能性」を持ち推進していくために、ESDについての認識や具体的取り組みについての研修等や他校の取り組みの紹介等も情報発信していただけると有難いので、よろしくお願ひします。

山ノ内町立西小学校

1. 参加者名・職名・担当

教頭 堀内 寛子

2. 参加のねらい

- ・ESDについての全国の状況を知り、情報や資料を持ち帰ること
- ・山ノ内町内でも話題となっている「学校種間の連携」について、先進事例を知ること

3. 得られた成果

- ・見上先生のESDについての基調提案は、新しい学習指導要領での位置づけや、各校でESDをどのように捉えて実施していけばよいのかなど、基本的な考え方をわかりやすくお話しいただけました。特に、実施上の教師の負担感や不安を理解した上でのお話でしたので、心にすっと入っていききました。
- ・たくさんの団体や企業や参加者から情報を得ることができ、自分がイメージしていたESDの理解浅さに気づきました。

4. 今後取り組んで行きたいこと

- ・たくさんの有用な資料をいただきましたが、特に、「ユネスコスクールで目指すSDGs 持続可能な開発のための教育」の冊子が、ESDやユネスコスクールについて共通理解するベースとなると思いましたので、全教職員に配付したいと考えています。
- ・年次報告書の作成に向け、ESD担当係と連携して、各学級の取り組みの整理を手伝っていきます。
- ・次年度の校務分掌や教育計画の立案時に、教職員がESDについての共通理解を図っていけるよう、教務会で検討していきます。

5. コンソーシアムに期待すること

- ・これまでも町内の各学校は、コンソーシアムの支援を受けることにより、充実した学びが生まれています。児童の活動に心を寄せていただいていることも含め、心より感謝しております。
- ・私自身が不勉強なこと、既に支援をいただいていることなどから、さらにコンソーシアムに何を願っていいかがよくわかっておりません。これまでのように連携を継続していただければと思います。

山ノ内町立南小学校

1. 参加者名・職名・担当

菅原 勇介(教諭・6年・ESD推進担当)

2. 参加のねらい

全国のユネスコスクールの方と交流しネットワークを広げる。
SDGs、ESD、ユネスコスクールを取り巻く最新の動向を把握し、勤務校での実践に生かす。

3. 得られた成果

基調講演では、学校でも問題と感じていることを改めて見上先生が話してくださったという印象だ。地域の課題も取り込んだ形でのSDGs+ α という考え方は新しい視点だった。教師の役割や学力観、子ども観、授業観といったものを変革していく必要を改めて感じさせられた。

特別講演では、広島県の激しい教育改革については前日に訪問した久松台小学校の清水校長先生からも伺っていたが、教育長の話をお聞きし、大変なスピード感をもって実行されていると知った。現場レベルは大変だと思うが、今後の社会でどのように生きるのかということの本気で考え実行する広島県の教育に学ぶべきところは非常に多いと感じた。

パネルディスカッションでは、どの子も自分の言葉で感じたことを語る姿に圧倒された。このセッションの最初に、ユースの会議に参加したという高校生、大学院生が登壇したが、共通して、日本の若い世代と他国の若い世代の意識の高まりの差を語っていたが、登壇した4名はどの子も、高い意識をもち今日的な課題と自分のあり方を本気になって考えていたことに驚かされた。

分科会では、6人グループになってこれからの学校に必要なものについて出し合い、グループの考えを模造紙にまとめた。参加したグループでは体験、実社会、学校の在り方、教師の在り方、一人一人の学び、授業観の変革などがキーワードして出された。それぞれが独立したものではなく、つながり合っているものであり、そのことを教師が踏まえることの大切さを考え合った。

その考えたことを、他のグループの人に説明する役を私が行ったが、90秒で話すということは難しかった。一方で何度も説明をする必要があったので、そのたびに説明をしながら自分の考えがクリアに整理されていくことも実感した。教室でも取り入れられることだと感じた。日本では説明をすることが大事だと言われるが、アメリカではそれ以上にプレゼンをすることが大事だと言われる。

最後に、大会を通して大変に強く印象に残った言葉
「主体的な学びを子どもに求めているが、そんなことは主体的な教師のもとでしか育つはずがない。主体的な教師になりましょう。自己開示できる、自己表現できる職員室の学校、職員集団のもとでしか表現できる子どもは育っていないのではないのでしょうか」
自分はどうかだろうと考えさせられた。

4. 今後取り組んで行きたいこと

基調講演の中で話題になっていたが、学校はSDGsにプラスして、地域の課題にも取り組む。SDGs+ α ということが印象的だった。改めて本校の地域的課題は何かを見つめ直し、地域と共に考えあうことができる課題と子どもたちが出会い、地域社会の当事者となるべく活動を検討したい。

5. コンソーシアムに期待すること

これまでと変わらない現場に支援をお願いしたい。また、学校現場の活動に研究の側面から助言をいただきたい。さらに、最新の動向や実践を学べる機会を提供していただきたい。
県内のユネスコスクールをつなぐ役割を期待しています。

長野県中野西高等学校

1. 参加者名・職名・担当

片岡 めぐみ・教諭・校内ユネスコ委員会/ESD倶楽部顧問/生徒会主任

2. 参加のねらい

ユネスコスクールの取り組みにおいて、特に地域とのつながりをテーマにしたもので持続していくためにどのような工夫が必要か。教科における位置づけやESD活動を持続させるために学校全体でおこなっている方法を知る。イベントで終わらせないために、学校行事の中でどのように取り入れているか参考にしたい。

3. 得られた成果

- ・学校の分掌にESD活動推進委員会なるものをいれていく。また、校長先生が校外の団体などつなげる努力をすることで、職員もやらねばならないという雰囲気が出る。これは、義務教育だからトップダウンで出来ることであって高校では難しいのでは無いかと感じた。
- ・若い職員集団がいると『まずはやってみよう』という前向きな空気がうまれて、失敗を恐れずできる。
- ・グローバル化・国際化などにとらわれ、根拠も目的もなくとりあえず他国の交流をする前に、身近な自分たちの地域に目を向けて課題を考え取り組む事が大切だと感じた。

4. 今後取り組んで行きたいこと

校内での教育課程委員会や将来構想委員会などと連携して学校行事の中にESD活動を取り込んでいく仕組みを作らなければならない。進路や将来生きる上でESDの取り組みが大切である事を生徒だけでなく教員にも知ってもらう。教員間に持続不可能な考えをなくすよう働きかける。

5. コンソーシアムに期待すること

ESD活動というと小学校が主に取り組みやすい印象があるが、高校だからこそ出来ることがある。
職員の異動で、ユネスコスクールでない学校にいくとESDの活動や教育的な継続が途絶えてしまう。しかし、この活動はこれらの教育の軸となるものであると考えるならば、ユネスコスクールに関係なくESDの考えに関心の

ある教員の交流の場をもっとつくり、長野県どの学校へいっても当たり前前にESD活動に取り組めるようになったらいい。特に、高校間のつながりが薄いのでまずは高校間で交流できるイベントを企画してください。

信州大学教育学部附属松本小学校

1. 参加者名・職名・担当

中村 祐介・主幹教諭・ユネスコ委員会(児童会)

2. 参加のねらい

- ①全国の学校や企業等の取り組みを知るため。
- ②ESDに関わる最新の状況を把握するため。

3. 得られた成果

- ①に関わって
 - ・中高生によるパネルディスカッションは、とても見応えがあり、中高生たちの取り込みや語りに感動した。ワールドピースゲームの学び方はもとより、資質・能力の育成の考え方は大いに参考になった。本校の『3つの力』とも照らし合わせて検討・吟味していきたい。また、ランチョンセッションでは、各企業の取り組みも紹介していただき、活動理念の部分にとっても共感をもつことができた。
- ②に関わって
 - ・基調講演や特別講演で、ESDの背景や今後の方向等、具体的な事例等を含めて説明していただき、大変参考になった。「愛の反対は憎しみではなく、無知と無関心」という言葉が強烈に印象に残った。本校でESDに取り組むにあたっての土台となる部分を知ることができた。

4. 今後取り組んで行きたいこと

本校で取り組んでいる活動を、ESDの視点で振り返ったり、価値付けたりしながら、取り組みと学びをさらに充実したものとしていきたい。また、幼小中で、それぞれのESDの活動を共有する等、さらに連携を図り、幼小中一貫の取り組みを目指していきたい。

5. コンソーシアムに期待すること

活動を始めたばかりの学校にとっては、様々な活動を知る機会がたくさんあるので、とてもありがたい。今後、自校の取り組みを見ていただき、ESDの視点から本校の取り組みを意味付けていただいたり、改善点等をアドバイスいただけたりするとありがたい。

信州大学教育学部附属長野小学校

1. 参加者名・職名・担当

齊藤 隆・教育学部附属長野小学校・教頭

2. 参加のねらい

全国のユネスコスクール、ESD,SDGsの取り組みから、本校での取り組みの進め方のヒントを得る。

3. 得られた成果

改めて今後の学校教育で、世界とのつながりを意識した「持続可能な開発のための教育」は必須であることを感じた。すべての物事にはプラスの面とマイナスの面があり、科学技術や社会システムが地球の環境悪化を食い止めることができているものもあるが、その技術やシステムすら、それが実用化されるまでに自然環境に与えた負荷は相当なものであるだろう。かといって産業革命前の生活に戻せば良いかというと、実際にはできない。実際にできる事の中で、マイナス面を極力最小限度にとどめつつ、もしくは排除しながら技術やシステムを向上させていく事ができるようにするか、犠牲を払いつつマイナス面を凌駕する持続可能な開発を進めるか、いつれにしる世界中の1人でも多くの力を結集して、見方、考え方、意識を変えていかなくてはならないと思った。これも、パネルディスカッションを体験した高校生の言葉通り、現象は単独で存在していないため、一つを動かすには、そこにつながるすべてのものにESD意識した取り組みをしなければならぬ。それに対処するには知識、理解の力、表現して伝える力、処理する力、柔軟な思考、考え方、そしてなにより関心、意欲を、次世代を担う子どもたちが持てる教育をすること。本校に照らせば、教育目標に向かいながら、今後の歩みをどう進めて行くのか、カリキュラム等に反映させなくてはと思った。刺激を得たことに一つに、小学校ではそのままつかえないであろうが、WPGプログラムの紹介、そして参加した中高生の声を聞いたことは大変参考になった。持ち帰り、教職員と大会で得た情報を共有することから始めたい。

4. 今後取り組んで行きたいこと

- ①大会で得たESDの情報、各学校、企業などの取り組みを職員間で共有
- ②カリキュラムの見直し、マネジメントへの意識向上(本校の長年培われてきた伝統を含む研究、育目標、教育理念に沿いながら、しかし、そこからESDにつなげられないからと短絡的に「できない」で終わらせないよう、「できない」からスタートすること)
- ③メールやホームページなどからの情報を有効に活用し、他の学校、組織等の活動が本校の活動とも関連させて連携、取り組みが仕組めないかを見ていく。

5. コンソーシアムに期待すること

これまで通り、情報提供、情報交換の場の企画運営、推進のアドバイス等をいただければと思います。

信州大学教育学部附属長野中学校

1. 参加者名・職名・担当

大野高志・教諭・環境教育(1学年)

2. 参加のねらい

- ・他校の先進的な取組から、この先の自校の取組を再考するため。
- ・1学年の総合的な学習の窓口としたSDGsの教材開発について、様々な実践を知ることを通して、今後の学習の進め方を改良するため。
- ・教科と総合的な学習との関係性を考えたり、教科を横断して大切にすべき「学びに向かう力」について考えを深めたりするため。

3. 得られた成果

- ・ESDやSDGsと聞き、新しい取組を始めるというイメージが強かったが、自校の取組の良さをリフレーミングすることから始めるべきであるということ学んだ。
- ・教科で習得した知識や技能の活用場として総合的な学習を考えた時、生徒にとって「やりたい」と思える学習をデザインする必要がある。その必要感を考えた時、今我々が直面している課題や問題を取り上げる価値を再確認することができた。

4. 今後取り組んで行きたいこと

- ・生徒の学びを地域とつなげていくこと。
- ・「持続可能な社会の創り手」を育成するために、総合的な学習を軸としたカリキュラムづくりについて、更に学びたい。
- ・学校行事や生徒会活動等の外部との接点となる場について、その価値をESDや総合的な学習とのつながりから再考してみたい。

5. コンソーシアムに期待すること

- ・教材ルールのさらなる充実をお願いしたい。
- ・ホームページの分かりやすい場所に、他校の取組が掲載されるとよい。
- ・学校間の交流のマッチングに加え、今回ランチセッションで交流することができた企業とのつながりもマッチングして下さると嬉しい。

文化学園長野中学・高等学校

1. 参加者名・職名・担当

松澤千晶・常勤講師・国際理解教育委員会

2. 参加のねらい

- ・他校が実践しているESD・SDGsに関する取り組みを、より詳しく知るため。
- ・学校同士のつながりを得たいと感じたから。

3. 得られた成果

本校にはないアイデア(地域コミュニティの活用等)が多くあり、まだまだ幅の広い探究ができることを痛感した。特に、基調講演・特別講演の中から得られた高校での実践の意義というものを、本校の教員間で再共有し、質を向上させることが必要だと感じた。

4. 今後取り組んで行きたいこと

- ・長野県の企業や大学 ⇄ 文化学園長野中学・高等学校 での活動の確立と継続
- ・教員一人ひとりが生徒の良き相談役・ファシリテーターとして、主体的な活動を支援する
- ・教科横断的な「総合的な探究」の充実 学んだことを考え、行動し、活用する力の育成
- ・ワールドピースゲームの企画・運営

5. コンソーシアムに期待すること

学校側でも能動的に行わないといけませんが、学校同士のつながりを持ちたい。そんな機会があれば是非とも参加したい。



長野県内のユネスコスクール年次報告

信州大学教育学部附属幼稚園

加盟年:2018年

1 2019年度活動分野

環境

2 2019年度活動の概要

本園は、「自然環境を大切にすることを育む」を活動テーマとして、ESDを学びの場と捉え、ESDの実践を通して資源の再利用を通じた環境保全を主体的に進めようとする力の育成を目標とした。

具体的には、資源回収、資源の分別、資源の再利用を柱に、①資源回収に係わる活動、②再生資源を使った遊びに係わる教育、③資源に係わる学習、④環境に係わる学習を行った。

- ①資源回収に係わる活動:本園では、家庭で捨てられてしまうトイレトペーパーの芯や牛乳パック、空き箱、ヨーグルトの容器等を集めていただき、幼稚園の回収箱へ分別していただいている。幼稚園の回収箱は、中身が見える透明な箱に「ひらがな」で明記し、保護者だけでなく子どもたち自身も分別できるようにしている。最近では、幼稚園以外の地域の方にも協力いただけるようになってきた。
- ②再生資源を使った遊びに係わる教育:資源回収で集まった素材を物によって洗浄・消毒し、子どもたちの創作活動や遊びに自由に使える素材として提供している。子どもたちは、トイレトペーパーの芯やヨーグルトカップ、空き箱などを使って武器や動物などをつくって遊ぶことを通して、物をゴミとして簡単に捨ててしまうのではなく、資源として生かすという考えが自然と身に付いてきている。
- ③環境に係わる学習:「環境」については、帰りの会などに担任の先生が紙芝居を使ってお話しをする機会を設けた。子どもたちの中には、それをきっかけにして家庭に帰っても保護者と「環境に関する話をする園児も見られた。また、副園長の講話などの機会を使って環境を大切にすることを話す機会を設けた。
- ④資源に係わる学習:年に4回、本の読み聞かせ同好会の方をお呼びし、子どもたちに読み聞かせをしていただいている。その中で、年少、年中、年長に合った「資源」や「リサイクル」に係わる内容の絵本の読み聞かせをお願いし、お話しを楽しみながら資源を大切にしようとする気持ちを育ててきた。

3 2020年度の活動計画

令和2年度は、県内の国公立幼稚園に職員が出向き、家庭からでた資源を使った遊びをその園の子どもや職員に伝えていく。また、幼稚園を公開する際には、本園の回収ボックスや、素材置き場も公開し、他園の幼稚園の職員にも本園の回収方法やリサイクルの仕方を広め、環境問題について共に考える活動を展開していきたい。

また、PTAや地域住民に子どもたちと協力を願い、幼稚園だけでなく、地域にも広く資源の再利用を呼びかけ、幼稚園とPTA、地域住民で協働した資源再利用の取組をさらに進めていきたい。

加えて、絵本の読み聞かせ同好会によるお話や、観劇会、信州大学教育学部の先生のお話等、地域の方にもご協力いただき、地球環境に関する子どもたちの発達段階にあったお話を聞く機会をつくっていきたい。

茅野市立永明小学校

加盟年:2017年

1 2019年度活動分野

世界遺産・地域の文化財等／国際理解／平和／人権

2 2019年度活動の概要

本校は2017年度にユネスコスクールとなった。学校目標は『ともに拓く』～なかよく・かしく・たくましく～。今までの教育活動をESDの視点で捉え直し、「つむぎ合い」を中心にすえて取り組んできた。

具体的には、①書き損じはがき集めに係わる活動、②「縄文科」学習、③「全校つむぎ合い講座」の講演による「平和」学習を行った。

①書き損じはがき集めに係わる活動

回収ボックスを昇降口に置き、2月初旬まで回収する。世界寺子屋運動のDVDを全校児童が視聴し、世界には公的教育を受けられない小学生がいる事実を知り、自分ができることから行動に移そうとする姿を育めた。

②茅野市では二体の国宝土偶が出土していることから、市内全小中学校で「縄文科」学習に取り組んでいる。

本校では3学年で、「縄文人は火を使っていた」ことから班ごとに火起こしに取り組んだ。火を着けることは簡単ではないこと、協力や協働なくしては着けられないことを知り、縄文人も力を合わせて生活していたことを体感した。4学年では、自らの手で火おこしの道具を製作し、縄文人の知恵や工夫に思いを馳せた。5学年では、「縄文人はドングリを食べていた」ことから学びを深めた。ドングリの灰汁をどうやって抜いて食べていたかを、様々な角度からアプローチして、ドングリを食べられるように加工した。このようにして、縄文人の生き方を学び、年月がたっても大切にすべきことは何かを考えることができた。

③「全校つむぎ合い講座」の講演

長崎市出身の保護者から講演をしていただいた。長崎に落とされた原爆の被害について。長崎市の学校は8月9日は登校日で、平和について学習すること。夏休み帳には原爆や平和にかかわるページがあることなどの話から、長崎の子どもたちは小さい頃から「平和」について学んでいることを知った。そして、戦争の悲惨さや原爆の恐ろしさ、平和の尊さについて考える機会になった。

3 2020年度の活動計画

全学年が縄文科の学習を通して、縄文土器や土偶に興味をもったり、どんな暮らしをしていたのか思いを馳せたりする。知恵を働かせ、協力して生活していた素晴らしさについて、体験を通して学ぶ。

ESDの理念や「接続可能な開発目標(SDGs)」を職員に周知し、学習活動や行事のねらいを角度づけしていく。具体的には、学年別指導計画をSDGsの視点がねらいとなっているものを、シンボルマークで示す。また、生活科および総合的な学習の時間を学級の中核活動にすえ、各教科横断的なつながりを付け加え、ESDカレンダーを作成し、SDGsを意識して授業を展開する。

諸外国について学ぶ機会を、講演会や社会の授業、平和学習などを通して行っていきたい。ユネスコ協会の取り組みとして行っている書き損じはがき回収に引き続き協力していく。

高山村立高山小学校

加盟年:2016年

1 2019年度活動分野

生物多様性／減災・防災／環境／文化多様性／世界遺産・地域の文化財等／国際理解／人権

2 2019年度活動の概要

高山小学校のユネスコスクールの活動は、「日本でもっとも美しい村でのふるさと学習」を基本に学習を進めている。具体的な取り組みとしては、①学校・PTA・公民館が共催する親子体験ふれあい体験講座「わくわく村」②生活科・総合的な学習の時間を中心とした地域に学ぶふるさと学習③学校支援ボランティア 3本の矢として考え取り組んでいる。また、その成果の発表として「しらかば学習発表会」を位置づけ、地域にも発信している。

①学校・PTA・公民館が力を合わせた「わくわく村」講座の取組み:

親子ふれあい体験講座である「わくわく村」は本年度も計20講座開設した。親子のふれあいだけでなく、地域の人々との交流・自然環境のすばらしさに触れたり、歴史や文化といった風土にも学んだりして、その魅力を肌で感じる事ができた。

＜今年度開設された講座の一部＞

- ・親子木工教室「木を使った作品作り 游Youランドのベンチ作り」・古道を歩こう「高山村の古道を歩く」
- ・山田牧場自然探検教室「山田牧場の自然観察と体験」
- ・綿作りとラベンダーの匂い袋教室「綿の成長を観察し、ラベンダーで匂い袋を作ろう」
- ・太田堰・湯倉洞窟へ行ってみよう「縄文人が住んでいたという湯倉洞窟へ行って歴史学習」
- ・わら細工作り体験教室「荒なわで鍋敷を作ろう」 等20講座

②生活科・総合的な学習の時間を中心とした地域に学ぶ体験学習:

生活科・総合的な学習の時間の活動では、地域に学ぶ学習を行い11月の発表会で地域に発信する取り組みを行っ

ている。

各学年の主な取り組み

1年生 「秋探しに行こう!」:高山村の観光施設であるYOU游ランドの公園施設でドングリ拾いや落ち葉拾いをし、生活科でドングリを使った学習を行い、作品づくりをして地域の方にも紹介した。

2年生 「大豆づくり～味噌造り」「前田牧場へ行こう」:学校の畑で大豆を育て、1つの豆の粒がたくさん大豆になるまでを学習した。大豆がたくさんの食品に生まれ変わり、私たちの食生活を支えていることを学び、実際に味噌づくりを体験することで、日本食に興味をもった。毎日の給食にも出され、周辺地域からもおいしいと評判の「こだわり牛乳」。その牛乳を生産している前田牧場に行き、牛を見学したり牛乳になるまでの話を聞いたりして、生産者の方の思いに触れた。

3年生 「りんご収穫体験」「共同選果場見学」:高山村の特産品のりんご「ふじ」の木を借り、1年間を通して美味しいりんごを作るには、どうしたらよいかを学習してきた。児童たちは、農薬の問題や、色づきや味を良くするための工夫などについて体験を通して学んだ。学んだことを図や絵などを工夫して発表した。

4年生 「地域のワイナリー見学」「ワインぶどう収穫体験」:高山村の特産品となっているワインぶどうは、全国でも指折りの品質を誇るといわれている。高山村をワインの産地として成長させようとしている方々から話を聞いて、その熱意に触れたり、ワインぶどうの栽培の様子の見学や収穫体験をしたりして、郷土に対する理解を深めた。

5年生 「米作り体験」:地域の方に田んぼを借りて、実際に米作りを体験し、日本人の生活に古代より根づいている米作りの苦勞に触れたり、日本の食料生産の問題について考えたりすることができた。まとめとして、おはぎ作りを体験する中で、郷土食について地域のボランティアの方から学んだ。

6年生 「地域の魅力を発信しよう。」:地域の農業・観光など様々な魅力を調べ、地域のよさを伝えるCMを作ったりして紹介した。また、地域の歴史と他地域の歴史と比較したりしながら地域の特長や長く続いてきた文化に触れることができた。

- ③学校支援ボランティアの方の活用による活動:子ども達が村の大人と関わることで、村との絆を強めたり感謝の気持ちを高めたりする事が出来た。

〈今年行われた主なボランティア活動〉

朝顔のリース作り(1年)大豆作り(2年)りんごの学習(3年)

書写指導(3,4,5,6年)調理実習(5,6年)読み聞かせ(全学年)

地域への発信

11月9日(土)「しらかば学習発表会」

主に総合的な学習の時間に取り組んできた学習や「わくわく村」で学んだことについて、保護者・地域の方を招いて発表会を行った。体育館での全体発表と各教室を使ったクラス発表、展示による発表に分かれている。

多くのクラスが、地域の特徴や魅力を知り、地域の環境や地域の未来、自分たちの果たす役割について考えることができた。

2月上旬 「信州大学コンソーシアム実践発表会」への参加

地域のコンソーシアムで自校の実践を発表するとともに、近隣の学校の取り組みを知ったり、交流をしたりしている。

3 2020年度の活動計画

令和2年度高山小学校のユネスコスクールの活動計画は、本年度同様、「日本でもっとも美しい村でのふるさと学習」を基本に、①学校・PTA・公民館が共催する親子体験ふれあい体験講座「わくわく村」のさらなる充実。②生活科・総合的な学習の時間を中心にした地域に学ぶふるさと学習を各学年のESDカレンダーを基に進めていく。決められたことをやるのではなく、児童の思いを大切に活動にしていく。③学校支援ボランティアを有効に活用し、地域の素材と共に地域の人と関わりを深めていく。

2 2019年度活動の概要

本校は、「よく考えて行う子、なかよく力を合わせる子、気力にあふれやりぬく子」を学校目標とし、ESDを「自ら考え、自ら行い、自らを高める活動」と捉え、「E…いいと思うことを S…進んで D…できる子」の育成を目指している。具体的な取り組みとして、環境に係わる活動を柱に、故郷山ノ内町の自然や文化的財産に係わる活動、地域の人と関わる活動、生き物とのくらしをつくる活動などを行っている。

- ①環境に係わる活動:毎年志賀高原で行われている「ABIMORI～いのちを守る森作り～」の環境保護活動に、全校児童が関わっている。1・2年生は、どんぐりをプランターに播き苗木を育て、3年生は、植樹の苗木になるコマツガを志賀高原の森林から採取した。5・6年生は、全国各地、地域のみなさんと共に、スキー場跡地が再生するように植樹作業を行った。4年生は、遠足で焼額山に登りガイドの方から志賀高原の動植物について教えてもらい、志賀高原の現状や課題について考えるきっかけとなった。自分たちの活動が自然を守ることに繋がっていると実感し、志賀高原への愛着や今ある自然を未来につなげていきたいという気持ちが育まれつつあると思われる。また、道徳や社会科の授業で、「ABMORIの活動と同じだね」「山ノ内町だったらどうかな」などと、自分たちの生活や地域と関連させて考える児童の姿が見られ、活動が子どもたちの中に根付いている。

- ②持続可能な生産と消費に係わる活動:かつて山ノ内町の山間地域で盛んに行われていた炭焼きを、「自然破壊はしないで、利用されていない木を再利用したい」という願いで昨年度から継続して活動している6年生。地域や町の協力を得て、台風などの被害で倒れた竹や間伐材を頂き材料を集めた。山から竹を切り出し運ぶ作業、釜となるドラム缶を埋めるための穴を掘る作業、ドラム缶を密閉させるために粘土をはって行く作業など、友だちと力を合わせる場面がたくさんあり、楽しいことも大変なこともみんなで分かち合うことができた。捨てられてしまう物に目を向け、体験を通して炭の温かさや価値に気づき、バザーで炭を販売することで、家族や地域の方に炭の良さを伝えることができた。

- ③地域の素材を生かした学習:「2年生の時に作った温泉まんじゅうを、今年は自分たちで育てた小豆を使ってまんじゅうを作りたい」という願いをもち、小豆の栽培を始めた3年生。春に種まきをした小豆をサルや台風から守り、秋には5キロ程の収穫が得られた。児童は、本で調べて餡作りを行った。しかし、自分たちで作った小豆の餡は美味しかったけれど、おまんじゅう屋さんの餡とは違った。もっと美味しい餡にするために、地元のおまんじゅう屋さんから餡の作り方を教えてもらい、おまんじゅう屋さんは、手間をかけて餡作りをしていることや砂糖だけでなく塩をほんのわずか入れることで甘さが引き立ち美味しくなることを知った。また、湯田中の喫茶店と協力して、餡を使ったスイーツの商品開発を行ってきた。山ノ内町の特産物を生かし、山ノ内町を訪れる観光客や地元のみなさんに食べてもらえるようなスイーツにしたいと願い試作を重ねた。児童は、町探検や社会科見学、リンゴ栽培活動など今までの経験から感じたことがスイーツ作りにつながっている。

- ④地域の人やものに関わる学習:山ノ内町で生まれ、志賀高原の間伐材で作られている楽器「コカリナ」の学習に取り組んだ4年生。コカリナ誕生に大きくかわり現在コカリナを製作しているOさんと出会いコカリナに込められた願いを知り、コカリナの仕上げをすることで自分のコカリナに愛着をもつことができた。地元でコカリナの普及に努めているK先生にコカリナを教えてもらい練習に励み、志賀高原遠足や音楽会、交流の場でコカリナを吹き身近な楽器の一つとなった。また、「地域の方に音楽を届けて楽しい時間を過ごしてほしい」と願って、ディサービスで地域の方と交流する機会をいただいた。地域の方とふれ合うことで、相手のことを考えて行動したり自分たちにできそうなことを考えたりする姿が見られ、自分たちも温かな気持ちになり共に楽しむことができた。

3 2020年度の活動計画

「ABIMORI～いのちを守る森作り～」に係わる活動や志賀高原遠足(地獄谷野猿公苑、自然教育園、コマツガ採取、焼額山登山)、高原学習(志賀山登山)、コカリナなど、志賀高原ユネスコエコパークに係わる活動を柱に、地域の人やものに関わり合いながら、各学級で活動を進めていきたい。自分たちの学習や活動がSDGsとどうつながっているのか活動を振り返ったり、関連させて考えたり、自分たちの活動を工夫したりして、活動の原動力を耕していきたいと思う。

山ノ内町立東小学校

加盟年:2014年

1 2019年度活動分野

生物多様性／環境／福祉／持続可能な生産と消費

山ノ内町立西小学校

加盟年:2017年

1 2019年度活動分野

生物多様性／減災・防災／エネルギー／環境／世界遺産・地域の文化財等／国際理解／福祉／持続可能な生産と消費

2 2019年度活動の概要

本校では、対象と子どもと教師が一体となって“くらし”を創り、よりよい“くらし”を求めていくなかで、対象から教科の枠を超えた事柄を総合的に学び、友だちの大切さや自分自身のあり方を見つめ直していく活動をESDの理念で意味づけている。地域の自然や歴史、文化に包まれながら、充実した毎日を過ごす中で、本物に触れる活動を大切にしていきたいと考えている。生活科や総合的な学習の時間に限らず、日常の授業においても教師が教え、与える授業から、子どもの力を引き出す授業への転換を図り、自立し自律した子どもの育成を目指している。また、本校独自のESDカレンダーも作成しているが、主たるねらいは各学級で活動を立ち上げる際のヒントであり、それに縛られるような位置づけはしていない。

活動の具体として、ここでは、①「動物とのくらしをつくる活動」(1・2年)②町名産のリンゴ作りと販売をする活動(3年)③福祉に関する学習(4年)④食育に関する学習(5年)⑤「ふるさとの山『高社山』から学ぼう」を取り上げる。

①動物とのくらしをつくる活動(1年・2年)

1年生は、10月より羊の飼育を始めた。「ゆき」と名付けられた子羊と過ごす中で、ゆきに心を寄せ、ゆきとのくらしを創っていく子どもたちと教師の生活が始まった。毎朝小屋の周りに落ちている動物の糞や掘られた穴が話題になったときは、大学の先生を講師に招き、夜間のセンサーカメラを周辺に取り付け、その正体を突き止めることになった。すると、毎日のようにキツネやハクビシン、テンなどが小屋の周りに現れていることがわかった。子どもたちは「罠を仕掛けて、捕まえて、山奥へ置いてこよう」と話していた。しかし、図書館司書の読み聞かせ、椋鳩十の「きつねものがたり」を聞いた子どもたちは、きつねの側に心を傾けていった。「きつねには、きつねの世界があり、縄張りがある」そう考え始めた子どもたちは、きつねを駆除する方法ではなく、夜中にきつねが現れても羊(ゆき)が安心して過ごすことができる小屋の改修の活動に広がっていった。

2年生は昨年度からヤギと共に生活している。7月に出産予定の母ヤギ(しろ)と、生まれてくる赤ちゃんのため、昨年度作った柵の中に小屋作りを行った。「しろが安心して赤ちゃんを産むことができる小屋を作りたい」と願った子どもたちは、試行錯誤しながら自分らがイメージする小屋を作り出した。しかし、思い通りに小屋作りができずに行き詰まる子どもたちであった。そこで、建設関係のお仕事をされている保護者の方の援助を依頼し、その設計図をもとに自分たちがイメージする立派な小屋を作ることができた。また、毎日のお世話を通し、2匹のヤギに心を寄せ、思いを深めていった子どもたちは、音楽会でしろとめぐるとの生活を歌にし、全校児童や保護者に向けて発表した。

②町名産のリンゴ作りと販売をする活動(3年)

3年生は、学校の敷地内にあるリンゴ畑でリンゴの栽培を行っている。リンゴの観察や調べ学習、摘花、葉摘、玉回し、収穫などを、地域のリンゴ栽培支援者の方々に教わりながら行ってきた。支援者の方々との関わりの中で「どうしてこの地域はリンゴ栽培が盛んなのか」「栽培者の方々は、どんな思いをもってリンゴを栽培しているのか」などの問いが生まれ、学習を広げていった。最後には、自分たちが実らせたリンゴを近隣の観光地で外国の方々に、学んだ英語を使いながら売る活動へと発展していった。

③福祉に関する学習(4年)

4年生は、国語「だれもが関わり合えるように」の学習から「目が見えない人は、実際にどのような生活をしているのだろう」という問いを持った。そこで、地域にお住まいの視覚障害者のTさんとの交流が始まった。その交流を深めていく中から点字の学習へ発展していく。そして「音楽が好きなTさんを、音楽会に招待したい」という願いを持った子どもたちは、地域の「点字友の会」の方々から点字を教わり、その点字で招待状を書き、Tさんを招いての音楽会が実現する。「耳も不自由なTさんが、自分たちの音楽会を楽しんでくれるにはどうすればいいのか」Tさんの側に立ち、自分たちの音楽会を創りだし、Tさんを喜んでいただくことができた。

④食育に関する学習(5年)

5年生は、年度当初から「自分たちで米作りをしたい」という願いを持っていた。社会科「米作りがさかんな地域」の学習では、よい米を育てるための工夫や努力を学んだ。そして、校内にある水田を利用し、自分たちの米作りの活動が始まった。「活動の最後は、自分たちが育て、収穫したものでおはぎを作って収穫祭をしたい」と願った子どもたちは、学級園で大豆(きな粉)小豆(あんこ)ゴマの栽培を始めた。収穫祭を終えた子どもたちは「農家の方の工夫や苦労、食べる事への喜びや感謝の気持ちを実感することができた」と語っていた。

⑤「ふるさとの山『高社山』から学ぼう」(6年生)

6年生は、理科「大地のつくりと変化」の学習で、ふるさとの山「高社山」を取り上げて学習を進めてきた。実際に現地に赴き、崖や切通しなどの土地の構成物を観察し、複数地点の地層を相互に関係付けて考えてきた。学習が進む中で「高社山は火山だったのかな」とう問いを持った子どもたちは、採取してきた土地の構造物に着目した。そこから、火山灰や多くの穴をもつ石が含まれていることから地層が火山の噴火によってできたことが分かった。さらに、火山の噴火や地震によって土地が大きく変化することを、自然災害と関係付けながら過去に起こった変化から推論するとともに、将来も起こる可能性を考えて土地の変化をとらえていった。特に山ノ内町は志賀高原を始め、西小学区では高社山という火山が身近にあり、自分たちの土地の様子と結びついていくことに関心を持ちこの単元の学習を展開していった。

3 2020年度の活動計画

令和2年度は、本校の目指す子ども像「自ら感じ 自ら考え 自ら動き出す子ども」を念頭に、児童と教師はもちろん、保護者、地域の方々と共にESDの推進を図っていきたい。それには、子どもと教師がくらしを創る生活科や総合的な学習の時間をベースに、子どもたちの主体的な学びを日々の授業実践として積み重ねていく。それに加え、地域・保護者への発信や、町内の他校との連携や研修の機会を増やしていきたい。また、ESD教育に関わる先進的な取り組みをしている学校への視察研修なども視野に入れながら計画を立てていきたいと考えている。

山ノ内町立南小学校

加盟年:2017年

1 2019年度活動分野

減災・防災／環境／世界遺産・地域の文化財等／福祉／持続可能な生産と消費／その他関連分野

2 2019年度活動の概要

当校は、「素直に思いをかわし合うこと」を研究テーマとして、これまでの教育活動をESDの視点で捉え直し、再編成していこうと考え、ESDの実践を通して、自らの思いを表出し表現していく力、多様な見方・考え方、批判的思考力の育成を目標とした。ESDでは「つなぎたい私たちの町のもの・ひと・こと」を全体テーマとし、2019年度は、生活科や総合的な学習の時間を柱に、①町に点在する共同浴場の魅力を見つめ直す学習、②地域を流れる「夜間瀬川」におけるコミュニティ作りや防災に関わる活動、③大根の栽培と利用から自他の健康について考える学習、④野菜づくりから始まった他学年と交流を深める学習などを行った。

①町に点在する共同浴場(温泉)の魅力を見つめ直す学習(5年)

5年生は子どもたちが「共同浴場(温泉)」を担任に紹介し、自慢の場所なのにどんな場所かよく分からないという現実気づいたことで学習が始まった。子どもたちは何度も共同浴場に入り、共同浴場の「話しやすく楽しい場所」という価値に気づいた。地域の方は、共同浴場をどうとらえているのか知りたいと考えた子どもたちは、保護者や地域住民にアンケートを実施した。結果を分析し、共同浴場が利用され続ける理由は、「人との関わりが生まれる場であるから」と結論付けたが、共同浴場を維持・管理する困難さとも直面した。今後は、アンケート結果を発信し、自分たちの考えたことを多くの方に伝える活動をすすめる。そして、どうすれば共同浴場が持続可能な地域資源となるか追究していく。

②地域を流れる「夜間瀬川」におけるコミュニティ作りや防災に関わる活動(6年)

6年生は4月から地域を巡った。そこで子どもたちは、空き家、廃旅館など地域の現実と出会った。探究課題について話し合った子どもたちは、地域巡りの中で触れた「夜間瀬川」を決めだし、「大人になっても地域の人が集まる夜間瀬川」を実現したいと考え、「高齢者」「堤防のつくり」を問題として、建設事務所、社会福祉協議会、信州大学などの協力を得て問題について考えを深めた。町子ども議会では「堤防へのベンチの設置」「花壇・プランターの整備」がコミュニティの場としての夜間瀬川の実現につながると提言した。管理面などで堤防へのベンチの設置が難しいという現実と直面した子どもたちは、話しやすい環境を整えることは、川に限らずどこでも大切だと考え、学校にベンチを置きたいと考え活動を始めた。

③大根を栽培・調理し栄養素の働きから自他の健康について考える学習(3年)

3年生は飼育しているウサギのえさ代をまかなうために野菜を栽培し、販売する活動、その野菜を調理する活動を展開した。1、2年時に大根を通して動植物の連鎖について目をむけた子どもたちは、収穫した大根でサラダや味噌汁を作ろうと計画した。調理に使う食材を決定するにあたり「栄養素の3つの働き」について学習した。

食品の組み合わせを決める場面では、一人ひとりが食生活や栄養素や家族のことを考えて食材を決め、これからの食生活に生かそうという意欲を高めた。

④野菜作りから始まった他学年との交流を深める学習(1年)

1年生は色々な野菜(じゃがいも・ポップコーン・大根など)を栽培した。収穫をすると日頃一緒に遊んでくれる6年生や他の学年の友だちにも食べてほしいと考え、ポップコーン屋さんを開き、全校にプレゼントしたいと願った。ポップコーンの作り方を2年生に教えてもらい自信が持てた子どもたちは、店の開店に向けて、包装紙、チラシ、引換券などを作り、各学年の教室を訪問して宣伝をした。当日は元気な声で呼び込み、活動を楽しんだ。活動後に届いたお礼の言葉を読み、喜んでもらったことを実感し活動に手ごたえを感じた。

3 2020年度の活動計画

2020年度は、SDGsとのかかわりを見通した活動を展開したい。そのために、ランドデザインや年間指導計画、ESDカレンダーの中にSDGsのどの目標につながる内容であることを示していけるようにする。さらに、「ホールスクールアプローチ」が実現できるようにしていきたい。そのために学級での活動にとどまらず、児童会の環境美化委員会をESDの推進に児童が主体的にかかわるための委員会として設置し、収集活動や地域の清掃活動をする予定である。また、これまで以上にコミュニティスクール運営協議会との関連を強め、SDGsに加え地域の課題を見つめる活動(SDGs+α)という考え方で学習をすすみたい。また、職員にも子どもたちにもユネスコスクールの役割やとりくみが分かりやすい形で示せるよう検討している。

信州大学教育学部附属長野小学校

加盟年:2018年

1 2019年度活動分野

人権／福祉／持続可能な生産と消費

2 2019年度活動の概要

本校は、人間愛と共生の心に基づき、教師と子どもが「共に在る」を教育理念として、ESDを「『ひと、もの、こと』とのつながりのなかにある、かけがえない命・わたしとあなた」と捉え、ESDの実践を通して問題発見、課題解決、対話的で深い学びの力の育成を目標とした。

今年度、具体的には総合的な学習の時間を柱に、①人権・福祉に係わる活動、学習 ②食糧生産に係わる活動、学習 ③生物多様性と地域産業に係わる教育、学習を行った。

①人権・福祉に関わる活動、学習(5年)

～「交流会」をやりたいんじゃない。友達になりたいんだ～

特別支援学校の小学部との「交流」。昨年、障がい者福祉施設へ勤労体験学習に行き、自分たちが障がいのある方への偏った見方をしていることに気づく。障がいのある方をもっとわかりたいと願う中で、「交流会」というイベントをしたいのではなく、小学部のみんなと友達になりたい、と願いながら、「障がいのある〇〇さんと友だちになる」ってどういうことだろう。〇〇さんはわたしのことをどう思っているのだろう。」という問いを深め、考え続けながら交流は続いている。

②食糧生産に係わる活動、学習(5年生)

～口に入るまでを自分たちで作る、味わう・「食」への感謝～

4年生の頃から「給食プロジェクト」という活動で「食」について考えた。その中で「自分たちで作って、それを食べたらずごくおいしそう。そういうことも給食プロジェクトとして伝えていこうよ」と米作りに挑戦。活動で得たことは、「稲を育てるには、自分たちが苗に合わせた動きをする」ということ。

③生物多様性と地域産業に係わる学習(4年生)

～人は他の生き物の命をもらいながら、その生き物の命をつないで生きていく～

カイコの飼育。失われつつある養蚕の実態を調べ、実際に150頭のカイコを飼育しはじめた。毎日世話をし、繭をつくる糸にするのか、採卵してさらに増やして買い続けるのかの選択に迫られてわかったことは、人は、幼虫を病気や事故から守ることでカイコの種と命を大切に繋ぎ、見返りとして繭から糸を繰ることで、カイコと我々人間が共存してきたということ。絹糸にすることは、カイコの命を粗末にしていることではないとわかった。

3 2020年度の活動計画

動物飼育(生物多様性)に係わる学習:ヤギ、ヒツジなどの家畜動物を飼育する。自分たちで小屋を建て、餌を確保し、衛生に気をつけ病気を防ぎ、健康や安全に配慮しながら大切に育て、どのように別れを迎えるか。「健康」、「食」、「命」に向き合う中で学んでいく。

減災・防災に係わる学習:ハザードマップでは本校は浸水10m地域となっている。すぐ隣の地区が台風19号で被災したことから、被害状況、復興に向き合う被災者の姿を見つめて、災害が起きたとき私はどうするか、災害が起きないようにするため、私たちにはどんな備えができるのか、災害対策や防災に関わる仕事をされている方、信州大学の先生にお話を聞くなどして、意識を高める学習、活動に取り組む。

環境(食育)に係わる学習:野菜作りを土作りから始めて、種まきから収穫まで自分たちの手で行う。収穫したものは最もおいしく食べられる調理法を調べて試して調理し、残さず食べ、調理過程で出た不可食部分も堆肥化して、食を巡る循環を体験する。

信州大学教育学部附属松本小学校

加盟年:2018年

1 2019年度活動分野

生物多様性／環境／国際理解

2 2019年度活動の概要

本校は、「心身ともにたくましく心豊かな真の地球市民の育成と、国際的・地球的視野から崇高な生命と地球を保全し、社会と人類の幸福に貢献することのできる児童の発達に寄与すること」をねらいとして、活動を行っている。具体的には、①地球規模の問題に対する国連システム②人権、民主主義の理解と促進③“暮らす”④“食べる”⑤“生きる”の観点に係わる学習を行った。委員会および各学級で取り組んだが、代表的な委員会での活動は以下の通り。

①地球規模の問題に対する国連システムに係わる学習

ユネスコスクールの認定を受け、本年より活動をはじめたユネスコ委員会への支援を依頼し、信州ESDコンソーシアムのコーディネーターとして、信州大学の渡辺隆一先生を小学校にお招きした。ユネスコの学習が進んでいない委員会にUNESCOの意味を紹介してもらった。UNは国連で、先の世界大戦の反省から、戦争をしない、させないことを目的とした組織で、その中にある機関の一つがユネスコで教育、科学、文化を担当している。普段、何のために勉強しているか考えることは少ないかもしれないが、最終的には世界中が仲良く、協力して戦争のない平和を作ることにつながっている。そのためのユネスコスクールであり、そのために活動出来る委員会であればよいというお話をいただいた。

②人権、民主主義の理解と促進に係わる学習

今年度の新しい取り組みとして、児童会本部と、ユネスコ委員会が協同でユニクロの「服のチカラプロジェクト」に参加した。

服のチカラプロジェクトとは、子どもたちが主体となって、不要になった子ども服を回収して、難民の方々など世界中で服を本当に必要としている人々に届ける活動である。この活動を通じて、次世代を担う子どもたちが国際問題や環境問題に関心をもつだけでなく、服のチカラを知り、自分にもできる社会貢献があると気づくねらいがある。

活動のはじめに、ユニクロ・ジーユーの社員の方に講師として服のチカラについて出張授業をしていただいた。現在世界には「難民」と呼ばれる、今住んでいる場所がとても危険になったので、家をはなれ、にげることになった人々が約6850万人以上いると言われていています。そして、その半数以上は子どもだということです。その子ども達への支援として、服を届けるプロジェクトであるという説明を受けた。

子ども達は、ユニクロの方の説明を受け、全校や各家庭に放送や手紙を通じて、服の収集を呼びかけた。ポスターをつくったり、校内のあちこちに集めるためのボックスぼいたり、校内のバザーや参観日の折にも呼びかけを行い、服の収集を行った。その結果、段ボールにして約15箱分、重量として約380kgの洋服を集めることができた。

3 2020年度の活動計画

- 児童は、自然や生き物、環境のことに興味を持ち、主体的に取り組むことができているので、次年度も各学級での取り組みは継続したい。
- 保護者や地域の方々にも理解・協力していただいている活動(エコキャップ集め、アルミ缶回収、リサイクルバザーなど)も子どもたちと相談しながら次年度も継続する。
- 新しい学習指導要領には、持続可能な社会の構築の観点が盛り込まれているので、ESDの考え方を念頭に置きながら教育を実施していきたい。(特に、社会科、理科、生活科、家庭科)
- 昨年から発足したユネスコ委員会での活動が学校でも定着しつつある。さらに子どもたちの課題意識、学習意欲に寄り添いながら積極的に活動を進めていきたい。

高山村立高山中学校

加盟年:2017年

1 2019年度活動分野

環境／持続可能な生産と消費／その他関連分野

2 2019年度活動の概要

本校は、「自ら学び高めゆく」を学校理念とし、ESDを「地域のもの・ひと・こと」との関わりのなかで自分と他者が繋がることができる活動と捉え、ESDの実践を通して地域に学ぶ学習と発信する力を育むことを目標としている。具体的には、「ふるさと高山村とわたし」を活動テーマに、①高山村を知る活動、②高山村の人々から学ぶ活動、③高山村の将来を考える活動を主に行った。

- ①ふるさと高山村を知る活動
年々注目度が増し発展している高山村のワインに視点をおき、高山村の地形や気候が美味しいワインブドウが育つために好条件であること、長期的な展望をもって計画的にワインブドウを栽培およびワインづくりを行っていることなどを、ワインブドウの除葉作業の体験をしながら学習した。
- ②地域の人々から学ぶ活動
40年も前から強い信念をもってワインブドウづくりに携わってきているワインブドウ農家の方の熱意やここに至るまでの工夫や努力、高山村と山ノ内町の観光を比較する活動のなかで目の当たりにした、地域のよさを知ってもらい集客するために訪れる方の立場に立ったおもてなしを工夫し続けている方の姿から、地域に根ざし地域のために働く方々への敬意や働くことのよさを感じとることができた。
- ③高山村の将来を考える活動
人口減少や増加する空き家、荒れ地に着目し、空き家を古民家としてリフォームし地域のコミュニティにして人の集まる場所にしたり、荒れ地を向日葵畑等にして有効利用したり高山村の魅力を多くの人々に発信するにはどのようにしたらよいか等、地域活性化のための方策を考え、中学生議会で高山村に提案した。

3 2020年度の活動計画

総合的な学習の時間を中心に各学年で中核になるテーマを掲げ課題解決学習をしていく。

今後は、

- 持続可能なエネルギー(炭のチップ)の有効利用
- 「アンチエイジングの里」として宣伝をしている高山村の取り組みを知る活動と今後の展望
- 高山村のワインに付随する地産地消の取り組み、農業や産業の可能性 等、これらを窓口でESDについて考えていきたい。

山ノ内町立山ノ内中学校

加盟年:2017年

1 2019年度活動分野

生物多様性／減災・防災／エネルギー／環境／文化多様性／世界遺産・地域の文化財等／平和／人権／福祉／持続可能な生産と消費

2 2019年度活動の概要

本校は、ESDを「自分たちの町を持続的に発展させて行くためには何をすべきか」を基本理念とし、全教育活動の中核に据えている。町の抱える諸問題・課題に対し、中学生として、また卒業してからも何が出来るのかを考え、地域や町当局に発信し、自らも出来ることをやろうとする中学生を育成することが目標である。

具体的な中心活動を以下のように据え、3年間を見通した活動を進めてきた。

1学年…3年間のESD活動をしていく基盤作りとした「山ノ内町を知る」

2学年…「他地域の取り組みを参考にする」を目的とした「草津研修旅行」

3学年…「魅力ある山ノ内」をまとめ地域内外にアピールする発信活動。

- ①志賀高原ユネスコエコパークを中心に据えた山ノ内を知る活動…1学年
 - 志賀高原研修旅行「トレッキング・魅力発見学習」7月3日(水)、4日(木)
 - ・ESD活動の中の1学年キャンプとして位置づけ「ユネスコエコパークの魅力を探ろうというテーマのもと、生徒自身が課題を見つけ探求する活動を通して、豊かな町の自然と人間の共生とを考えた活動となった。
 - 地域自慢の旅 10月17日(木)、10月31日(木)、11月7日(木)
 - ・ユネスコエコパークの移行地域である自分たちの住む区域で自分の出身小学校区以外にある場所やものを見学・調査に行き、そこで働く人に話を聞き、町の新たな魅力や特色を知ることができた。
- ②「他地域の取り組みを参考にする」を目的とした草津研修旅行と発表活動…2学年
 - 草津研修旅行 7月3日(水)、7月4日(木)
 - ・「草津町の魅力に学び、わが町の自慢の再発見をしよう」というテーマのもと「食」・「名所」・「宿泊・施設」・「温泉」・「文化・スポーツ施設」の5グループ23班に分かれ、草津温泉を中心に調査活動をした。
 - 白樺祭(学校祭)での発信活動 9月27日(金)
 - ・個人的には、グループ毎にA4サイズのレポートを作成しその拡大コピーを掲示するとともに、各グループでの取り組み結果をパワーポイントにまとめ、全校や参観者にプレゼンテーションを行い、山ノ内町に活かせることを追究することができた。
- ③「魅力ある山ノ内」をまとめ地域内外にアピールする発信活動…3学年
 - 修学旅行先の京都で、山ノ内をPRしよう 4月15日(月)
 - ・1,2学年のESD活動の成果として、魅力ある山ノ内を「魅力ある山ノ内」をまとめ地域内外にアピールする発信活動自分たちの発想でピックアップし4サイズのリーフレットにして、修学旅行二日目のグループ別行動先で山ノ内町のアピール活動を行い、観光客などに山ノ内の紹介をした。
 - 中学生が夢みる町づくり討論会 7月10日(水)
 - ・「自分と町の未来を構想していくことのできる生徒の育成」を目的に、町の理事者や議員、諸団体の代表26名と3年生が4会場に分かれ、各グループから町のため今・将来自分が出来ることを構想し、発信・提案し、その実現に向けて討論をした。討論は保護者、1,2年生公開で、当日は信州ESDコンソーシアムを通して県外からの7名の視察者の参加を得た。この取り組みからは、生徒たちの主体的な取り組みが探求的であり、企画・推進力が身につけていった。
- ④その他の特筆すべき取り組み
 - 「第10期ユネスコスクールSDGsアシストプロジェクト」助成校として
 - ・2019年2月の申請が受理され、3学年の活動として、中学生から見た魅力ある山ノ内町のパンフレット作りを行っており、12月では最終校正を行い、2月初旬に完成の予定。完成後は、町の内外に発信したり、次年度以降3学年の京都でのPR活動の資料に資する予定。
 - 2019年度国際ユース作文コンテストで子どもの部優秀賞受賞
 - ・3年生の山本智也さんの作文、「見える優しさ、見えない優しさ」

3 2020年度の活動計画

持続可能な山ノ内中学校型ESDを目指し、現状の活動に満足することなく、改善を繰り返していく。次年度の計

画は次の通り

- 全 校 ○ESD,SDGs学習オリエンテーションの実施
 ・年度当初に、全校・学年を単位として、ワークグループ方式で学ぶ時間を設定する。
 ・学校祭でのESD発表会バージョンアップ…プレゼンテーションの方法と参加者ブースの改良。
- 1学年 ○志賀高原研修旅行の事前・当日学習バージョンアップ
 ・ユネスコエコパークでの探究的な学習を仕組む
 ・魅力研修講座の検討
- 2学年 ○草津研修旅行でのESD,SDGs視点の明確化
 ・ハンセン病療養施設での学習を追加:SDGs⑩、⑯と関連して
 ○ESDの視点で行う職場体験学習バージョンアップ
 ・「山ノ内町・山ノ内中学校紹介パンフレット2.0」づくり
- 3学年 ○中学生が夢みる町づくり討論会バージョンアップ
 ・メリットとデメリットの両面を踏まえての提案とSDGsに関連付けた提案を仕組む教科連携
 ○ESDカレンダーの実施と修正
 ○ESDを基軸にした学校ランドデザインづくり

信州大学教育学部附属長野中学校

加盟年:2018年

1 2019年度活動分野

環境／人権／平和／健康／福祉

2 2019年度活動の概要

本校は、「ともに学び 一人となる」を学校教育目標のもと、「本質に迫る教科学習の在り方～問題発見・解決の過程における生徒の姿に焦点をあてて～」と研究テーマを据えています。ESDを将来生徒が社会に出てはたらく資質・能力の育成と捉え、ESDの実践を通して、教科を超えて育まれる資質・能力の検証や、学友会活動、日常生活面などの潜在的なカリキュラムの果たす役割について明らかにしようとしています。

具体的には、総合的な学習の時間での、学友会活動を中心に実践を積み重ねています。

①総合的な学習の時間「ヒューマン・ウィーク」7月中旬に総合的な学習の時間をまとめ取りし、5日間社会体験学習等の体験学習を行います。1年生は「身近な地域社会」「将来の社会」をテーマに据え、SDGs(持続可能な世界を実現するための17の国際目標)の課題を窓口とし、講座ごとにワークショップ(調べ学習や調査活動)を行い、個人で追究する課題を決め出しています。2年生では、働くことをテーマとして「14歳の問い」を設定し、地元の企業の協力を得て、社会体験学習を行い、自分の生き方について追究します。3年生では、社会体験学習を行い、問いに対する考えを深めます。社会に出て必要なのはどのような力なのか、どのような人なのか自分と向き合い、自立していく力を養っていきます。

②学友会を通して

○地域の企業との交流と環境美化活動:地元企業であるF株式会社と合同で地域の環境美化活動を行っています。この活動は地域の美化活動を通して近隣地域の一員であるという自覚を高めることを目的に、学友会が企画し、これまで17年間継続して実施しております。

○自分たちの活動をSDGsの視点で見つめ直す:それぞれの委員会ですべてで行って来ている活動は「持続可能」の視点でとらえ直すと、どのような意味があるのか考え、今後の活動の発展を、学習発表会において検討しました。

3 2020年度の活動計画

ユネスコスクールの理念や持続可能な開発目標の視点で、現在行われている本校の教育活動の質を高めるようにしたい。

○総合的な学習の時間「ヒューマン・ウィーク」での問いの設定に対して、「持続可能な社会の創造」の視点を取り入れて、自分の生き方を追究していく。SDGsの視点で3年間のカリキュラムを検討していく。

○特別活動、学友会活動等で、中学生の地道な活動を大切に、環境保全への取り組みの日常化、多様な意見を認

め合う集団づくりを進めていく。

○本校の教育活動を外に向かって発信することを大切にする。そのために、何ができるようになったのか、さらに必要なことは何なのかの視点で活動の振り返りを行っていく。

信州大学教育学部附属松本中学校

加盟年:2011年

1 2019年度活動分野

環境／文化多様性／人権／持続可能な生産と消費

2 2019年度活動の概要

本校は、学校目標「たくましく心豊かな地球市民」の具現を目指し、ESDの活動を据えることを具現のための手がかりと捉え、子どもに内在する自己表現力・課題探究力・社会参画力が発揮されるような実践を目指した。具体的には、教科等の総合化を柱に、環境に関わる活動(①)、持続可能な生産と消費に関わる活動(②)、文化多様性に関わる活動(③)、人権に関わる活動(④)を行った。

①環境に関わる活動

地域の文化財を大切に、郷土を愛する生徒を育むために、国内外からたくさんの観光客が訪れる松本の街のシンボル「国宝松本城」の境内や外堀の落ち葉はきを目玉にしている。また、住みよい環境を持続できる生徒を育むため、生徒会を中心に有志を募り、学校の環境整備、周辺の落ち葉掃きを実施した。

②持続可能な生産と消費に関わる活動

全校生徒がユネスコスクールの生徒であることをさらに自覚できるように、学校の行事や生徒会活動において、SDGsの17の項目とのつながりを意識し、各委員会が主体となって、各種活動を企画・推進した。

③文化多様性に関わる活動

普段の生活が地球規模の問題を捉えるカギであることを実感できるように、学校目標の「地球市民」として、一人一人がかけがえのない存在であり、また、その一人一人の活動が、持続発展可能な社会を創っていることが実感できるよう、生徒集いを重ねてきた。また、文化祭では、各学級が総合的な学習の時間での歩みを発表し、地球市民として、リアルな「もの・ひと・こと」と触れる中で学んだことを共有し、これからの生き方について考える機会とした。

④人権に関わる活動

地球規模の気候変動や普段体験することのできない環境での生態系を学ぶことで、普段の生活について再度感謝の気持ちをもてるように志賀高原ユネスコエコパークへの宿泊学習を実施した。また、パートナーシップをより深めるために、同県のユネスコスクールである附属長野中学校と合唱での交流を行い、お互いの学校のかかわりを深めたり、これからの活動に向けての意欲向上となる活動をおこなったりした。

3 2020年度の活動計画

「たくましく心豊かな地球市民」の具現のために、自己表現力・課題探究力・社会参画力が発揮されるためのカリキュラムの開発を推進する。その際、幼小中一貫教育を展開していることを活かし、学校園としての12年間に渡るカリキュラムマネジメントの視点を大切にしていく。

次年度も、SDGsの17の目標と生徒会活動がどのような関連性があるのかを考え、活動の精選や新たな活動を実践し、17の目標を意識し生活できるようにする。また、1～3年時の宿泊行事の目的の一つにESDの視点を盛り込み、持続発展可能な社会の実現のために系統立てて展開していくようにする。

生徒一人一人がもつ「たくましく心豊かな地球市民」像を具現化できるように、国内外のユネスコスクールとの交流の強化していく。

長野県中野西高等学校

加盟年:2015年

1 2019年度活動分野

生物多様性／環境／国際理解／平和／人権／持続可能な生産と消費／その他関連分野

2 2019年度活動の概要

本校は「教育基本法」の精神にのっとり、平和的な国家・社会の有為な形成者を育成し、敬と愛と信とに満ちた学園を創る」を学校目標としている。ESDの実践を通して、生徒の人間性やコミュニケーション能力をき、「自ら問題意識を持ち、行動できる」生徒を育てること、地域社会や国際社会に目を向け、学校の中にとどまらない幅広い視点で活動することによって、生徒の社会性・国際性を養うことを教育目標としている。

具体的には、環境教育、異文化理解、地域連携を3つの柱とし、①地域の自然環境を保護する活動、全校での地域を学び地域の美化に努める学習、②国際理解を深める学習、③地域社会と協働した活動を中心に行っている。

①地域の自然環境を保護する活動、地域を学び・地域の美化に努める活動

学校近くを流れるホタル川の環境整備と生息地を守る活動、中野市バラ公園の手入れ、山ノ内町志賀高原での植樹活動「ABMORI」と植樹後のモニタリング調査を継続して行っている。特に今年度は「志賀高原学習プログラム」を企画し、認定ガイドの方からユネスコエコパークについて学び、トレッキングによる野外学習を行った。また、全校参加のグリーン・オリエンテーリング(COL:中野市内をゴミ収集しながら、地域の歴史や文化を学ぶ活動)は、創立以来行われている伝統行事である。本年は、拾った空き缶やペットボトルの位置を示した「中野市ごみマップ」を作成し、地理の授業の教材とした。

②国際理解を深める活動

アメリカや台湾からの学校訪問団を受入れ、日本や長野県の風土・文化を紹介することにより、異文化交流の大切さを知る機会としている。例年のチョコレートのフェアトレード学習・販売活動に加え、昨年度からコーヒー豆のフェアトレードについて学び、その豆を使った本校オリジナルコーヒーを開発・販売し、児童労働や公平な貿易についての理解を深めた。また開発したコーヒーは地域のイベントで販売することで、地域への啓発活動としても意義あるものとなった。姉妹校協定を結んだ台湾の高雄市前鎮高級中学が訪日し、12月10日に学校交流を行った。

③地域社会と協働した活動

環境保護教育においては例年行っている活動については定着してきており、引き続き環境保全の大切さへの理解を深めながら参加していく予定である。また地元関係者との地域協働活動においてもボランティアスタッフ・企画運営スタッフ・高校生研究員として継続して関わっていく予定である。フェアトレードコーヒーの活動については有志の輪を広げながら、生産国の情勢を学び、原産地への協力・支援ができる繋がりを持ちたいと考えている。

校内においては、ユネスコウィークでの生徒全員がユネスコについてより理解を深めるための「ユネスコ検定」の実施や生徒の関心を高めるような教科横断型授業やワークショップ型の学びなど学んだことを生徒から生徒へ発信できるよう発表の機会を多く設けたい。来年度からは「総合的な探究(学習)の時間」が全学年で授業時間内に組み込まれることにより、これまで蓄積してきたプログラムを継続しながら、全校にユネスコの精神やESDへの理解が一層充実できるよう計画していく。

3 2020年度の活動計画

環境保護教育においては例年行っている活動については定着してきており、引き続き環境保全の大切さへの理解を深めながら参加していく予定である。また地元関係者との地域協働活動においてもボランティアスタッフ・企画運営スタッフ・高校生研究員として継続して関わっていく予定である。フェアトレードコーヒーの活動については有志の輪を広げながら、生産国の情勢を学び、原産地への協力・支援ができる繋がりを持ちたいと考えている。

校内においては、ユネスコウィークでの生徒全員がユネスコについてより理解を深めるための「ユネスコ検定」の実施や生徒の関心を高めるような教科横断型授業やワークショップ型の学びなど学んだことを生徒から生徒へ発信できるよう発表の機会を多く設けたい。来年度からは「総合的な探究(学習)の時間」が全学年で授業時間内に組み込まれることにより、これまで蓄積してきたプログラムを継続しながら、全校にユネスコの精神やESDへの理解が一層充実できるよう計画していく。

長野県長野西高等学校

加盟年:2017年

1 2019年度活動分野

減災・防災／環境／国際理解／平和／人権／ジェンダー平等

2 2019年度活動の概要

本校は、「社会に奉仕するための資質を養う」を教育目標の1つに掲げている。その目標に基づいた教育活動を行う上で、ESD(持続可能な開発のための教育)を重要な学びと考えている。

ESDを本校における課題解決型探究学習の核と捉え、地域や国際社会の課題を自分のこととして考え、ESDの実践を行う中で、自分で考え、周りと協働し、主体的に行動することを通して、課題を解決に導く力を育成し、広く社会に奉仕する担い手を育てることを目標としている。

2019年度は、「地域や社会とのかかわり・人とのつながり」を柱に、①地域の課題解決に係わる活動、②国際交流・異文化理解に係わる学習、③伝統文化に係わる学習を行った。

生徒会の組織に「ユネスコスクール特別委員会」が発足し、「SDGsカードゲーム」等に取り組み、SDGsへの理解を深めながら、自分たちができる活動に取り組んでいる。

①地域の課題解決に係わる活動

○地域を知る活動の実施

地域を歩き、地域の方から話を聴くことで、地域の歴史・伝統・状況等を知り、文化祭で発表した。後期生徒会よりユネスコスクール特別委員会が発足し、今後は、特別委員会を中心に、地域や社会に貢献するために、自分たちは何ができるのかを考え実践する活動を行っていききたい。

○フードドライブの実施

文化祭において、3年生のクラス企画としてフードドライブを実施した。生徒、保護者、近隣の住民などから寄贈していただき、フードバンク信州へ届ける活動を行った。まだ安全に食べられるにもかかわらず、捨てられてしまう食料を集め、支援を必要としている方に提供するフードバンク活動に参加することで、「持続可能な生産と消費」、「貧困」、「人権・平和」等を考えるとともに、共生社会の必要性についても認識することができた。

②地域と連携した活動

○スポーツレストラン

スポーツレストランとは、3年生の選択体育の受講生徒が店員となり、様々なニュースポーツをメニューとして提供し、地域の皆様にスポーツを楽しんでもらえるように公開している授業。今年度は毎回10～20人の高齢者、女性など、いろいろな年齢層の方々が集まり、生徒とともにニュースポーツを行った。メニューはソフトバレーボール・ボーリング・バタンク・ターゲットバードゴルフ・ビックルボール・バドミントン・卓球などである。

○地域の方々と一緒に行う防災訓練

全校で防災訓練を実施するとともに、避難所となっている本校周辺に住む方々にも避難訓練に参加していただき、有事の際の行動の参考にさせていただいた。

○ボランティア活動

2019年10月の台風19号被害に際し、個人、部活動等で生徒や職員がボランティア活動に参加した。被害を自分のこととして捉え、何か自分にできることはないかと考えボランティアに参加した生徒を誇りに思う。落葉や積雪の際には、生徒会や運動系クラブの生徒が中心となって、学校周辺の落葉履きや雪かきを行い、地域に貢献する活動を行っている。

開かれた学校づくりを行うとともに、地域について学び、地域が必要としていることを考え、行動に移すことで、社会に奉仕する心の育成につながっている。

③国際交流・異文化理解に係わる学習

○長野マラソン国際交流ブースボランティア

国際教養科1年生全員が、長野県観光部国際課のスタッフの皆さんとともに、ブース運営のボランティアに参加した。アメリカ、イギリス、オーストラリア、ベトナム、中国、韓国のブースで、各国のゲームや作業体験の手伝いを行った。来場者の子ども達や、長野県国際化協会のサンタ・プロジェクトの外国籍児童就学支援募金活動の参加など、多くの方々と交流した。

④伝統文化に係わる学習

○信州学、SDGsに関する課題解決型探究学習

信州(長野県)の歴史、文化、伝統、地域のすがたや課題を再発見し、SDGsと関連させながら、さらに深く追及し、自らの知識で何ができるのか、地域とどう関わっていくのかを学ぶ活動を実践し発表会を行う。発表を行った1グループは、信州ESDコンソーシアム成果発表会において、ユネスコスクール特別委員会とともにプレゼンテーションを行う。

3 2020年度の活動計画

2018年3月、当時の本校2年生が第8回ユネスコスクール国際交流プログラムに参加させていただき、その成果発表・報告会を全校生徒が聞くことで、生徒のユネスコスクール、そして、SDGsへの認識と関心が高まり、自分たちに何ができるかを考え行動を始めている。

ユネスコスクール認定4年目となる2020年度は、生徒会のユネスコスクール特別委員会が、地域やNPO等と連携し、SDGsの実現に向けた具体的活動をユネスコスクールとして実践できるようにしたい。

学校としても、ユネスコスクール委員会を中心に、ユネスコスクール特別委員会の活動を支援するとともに、国際教養科を中心とした国際交流事業や、校内ですでに実施している様々な活動が、SDGsの実現に向けたESDであることを認識し、校内の様々な活動を有機的に結び付け、地域や様々な組織と連携して学校全体として組織的にESDの活動を実践していくことが今年度の活動計画である。

③ながの環境フェア活動:

「国際ソロプチミスト長野みずず」とチームになり、地域の子どもに環境紙芝居を行う。

④国際キャンペーン:

県主催Nagano SDGs Project「みんなのSDGs宣言」に参加することで、生徒会として持続可能な世界を築く方策を考え実践し、全県に発信していく。

3 2020年度の活動計画

令和元年10月、台風19号が故郷長野に甚大な被害をもたらした「長野＝災害に強い県」という概念が崩れた。想定を超える事態が次々と起こり、スウェーデンの女子高生グレッタ・トゥーンベリさんの主張はもはや他人事ではないと痛感した一年であった。台風の後、生徒会が中心となり、SDGsと身近な課題をつなげて具体的な行動計画を立て活動できた。身近な災害に対して中学生ができることを考え迅速に行動を起こすこともできた。

令和2年度も継続して上記のような経験知を軸にて「誰一人取り残さない生徒会活動」を目指して委員会の仲間と協働し、地元長野からできることを考え行動を起こし、その結果をNAGANO SDGs PROJECTを利用して全県にそして日本、世界へと発信していく予定である。またユネスコスクール加盟4年目、海外姉妹校提携から、緩やかなつながりを構築していきたい。ビデオ通話・レター等のやり取りを通して、自国と世界の課題を結び協働する活動を積み上げる予定である。そして、知識構成型ジグソー法を通して教科横断的な学習の成果を活かしながら、自分事として意欲的に学び、発信する生徒の育成を引き続き行う。

文化学園長野中学・高等学校

加盟年:2017年

1 2019年度活動分野

減災・防災／気候変動／エネルギー／環境／文化多様性／国際理解／平和／人権／ジェンダー平等

2 2019年度活動の概要

[ねらい]

持続可能な社会の担い手を育てるため、現代の課題を「自分事」として気づき、それを解決していくための手立てを考え、工夫する力や、チームで課題を考えるために創造的なコミュニケーションを図る力の育成を目指す。

[実践内容]

＜(1) 総合的な学習の時間を軸とした教科横断的学習活動＞

①中学3年時のカナダホームステイ研修に向けて(英語科・社会科・家庭科・保健体育科・国語科・理科・数学科)

○1年時:善光寺平の自然風土によって築かれてきた食文化を伝承している「ちょうまの会」の方と箱膳を作る活動を通して、地産地消に関心を持つ。

○2年時:英語授業で無形文化遺産「和食」の魅力を学ぶ。

○3年時:和食のレシピを英語にし、カナダ研修でホームステイする家庭に「和食」及び日本の良さを伝える活動をする。

②高校2年時のイギリスSDGs研修に向けて(英語科・社会科・理科・国語科・芸術科・総合的な探究の時間)

○1年時:英語授業で「フードマイル運動」の課題点をSDGsの観点から考える。地球規模の課題として社会科・理科の観点も取り入れる。更に、総合的探究の時間にSDGsを学び、テーマ設定しグループ学習を深め、プレゼンにもっていく。

○2年時:長野市や身近な地域に視点を置き、世界の諸問題と地域の課題を結ぶ思考力や判断力をつけ、その学びをイギリス研修の現地高校生や大学生とのSDGs交流の中で、論理的に伝え合う活動を展開する。

＜(2) 総合的な学習の時間を軸とした地域連携の生徒主体的活動(生徒会・クラブ活動)＞

①長野マラソン・長野車いすマラソン大会ボランティア活動:

長野冬季オリンピックレガシーを未来へと引継ぎ、地域文化の発展を目的とした長野マラソン大会に、ほぼ全校生徒がボランティアとして活動する。

②インターアクトクラブ活動:

毎年夏、東北被災地研修を行っている。日本人としての自分を深く理解し、今後の日本・世界の諸問題を考える上で何ができるか、具体的な行動を考える機会としている。

VI

ユネスコエコパークに関わる事業

ユネスコエコパークを活用した ESD

1 ユネスコエコパークとは

ユネスコエコパークは、自然環境や生態系を守りながら活用し、地域や社会の発展を目指す、人と自然の共生を実践するモデル地域である。ユネスコエコパークは日本国内でのみ通じる呼称で、正式には生物圏保存地域 (Biosphere Reserve) と呼ばれる、ユネスコ MAB (Man and the Biosphere) 計画の事業の一つである。2020年3月時点で、世界中で124カ国701サイトの生物圏保存地域が登録されており、日本国内には10サイトのユネスコエコパークがある。自然と調和した持続可能な地域を目指すユネスコエコパークは、現在では持続可能な発展のモデルとしても注目されている。

ユネスコエコパークはその理念を実現するために、保全機能、経済・社会の発展、研究・教育という3つの機能を備えることが求められている。そしてこれら3つの機能を発揮するために、核心地域、緩衝地域、移行地域という3つのゾーニングを設定している。核心的な保護地域だけでなく、その周辺の人々の生活が営まれる地域まで含めて指定することは、他の自然保護区制度とは異なるユネスコエコパークの特徴である。

2 ユネスコエコパークと ESD

ユネスコは国連において ESD の推進機関として位置づけられており、同じユネスコのプログラムであるユネスコエコパークの活用による相乗効果が期待されている。さらに、より具体的に2つの点で、ユネスコエコパークにおける ESD が注目されている。

1 点目は、SDGs 達成に対する貢献である。人と自然の共生を目指すユネスコエコパークは、SDGs 達成のモデル地域と位置づけられている。2019年12月の国連総会で決議された「ESD for 2030」では、ESD が質の高い教育に関する SDGs の要素であると同時に、その他の全ての SDGs の成功への鍵となる SDGs 達成に不可欠な実施手段と位置づけられており、ユネスコエコパークにおいても ESD の推進を通じた SDGs 達成のグッドプラクティスを生み出すことが期待されている。

2 点目は、ESD の推進そのものについてである。世界的な生物圏保存地域の活動の方向性を示した MAB 行動計画 (2015-2025) では、主要な4つの行動指針のひとつとして、ESD の推進が明確に位置づけられている。

3 志賀高原ユネスコエコパークでの ESD

ユネスコエコパークにおける具体的な ESD につ

いて、志賀高原ユネスコエコパークの事例から紹介する。

志賀高原には多くの学校が学校旅行で訪れているが、これらを対象に、志賀高原観光協会・ガイド組合が ESD の視点を取り入れた環境学習プログラムを提供している。このプログラムを受講するために学校旅行の訪問先を志賀高原に移した学校も出ており、スノースポーツに代わる誘客促進の一助ともなっている。2019年度からは学校のニーズにあわせて、信州 ESD コンソーシアム・信州大学教育学部附属志賀自然教育研究施設との協働により、ユネスコエコパークにおける SDGs に焦点を当てたプログラムを試行している。これにより、志賀高原での学校旅行が単発の特別活動に留まるのではなく、総合的なカリキュラムの中に位置づけやすくなることが期待される。

2 つめは、ユネスコスクール加盟である。志賀高原ユネスコエコパークでは管内のすべての学校がユネスコスクールに加盟し、ESD の学びを展開している。この中では核心地域や緩衝地域といった自然豊かな地域だけでなく、移行地域でも様々な地域資源を活かした学びが行われている。

3 つめは、行政や市民団体との協働である。志賀高原には豊かな原生的自然が残っている一方、スキーリゾートとして開発された経緯から失われた自然環境も多く存在する。このような場所で行政や市民団体主導で実施される、植樹や湿原再生といった自然再生活動に、管内や近隣のユネスコスクールの児童・生徒などが多く参加している。

4 つめは、高等教育機関による実践である。信州大学教育学部附属志賀自然教育研究施設では、志賀高原においてこれまで半世紀以上にわたって、おもに教員を目指す大学生を対象とした自然教育に取り組んできた。高等教育機関との連携や教育者、ユースを対象とした教育も、ESD においては重視されている。

5 つめは、地域住民を対象とした地域・生涯学習である。山ノ内町では志賀高原ユネスコエコパークについての地域住民の理解や関心を高め、その活動を活性化させることを目的として、信州大学教育学部附属志賀自然教育研究施設などと協力して、市民向け公開講座「ユネスコエコパークセミナー」を年に数回、開催している。近年はこのセミナーを端緒とした地域振興の取り組みも見られるようになってきている。

4 ユネスコエコパークにとっての ESD

志賀高原ユネスコエコパークの事例からわかるように、ユネスコエコパークには世界級

の恵みを守り活かす地域社会など、多様な地域学習の資源が存在する。これらを有効に活用しながら ESD を実践することは、ユネスコエコパークというブランドそのものを確立し、またその価値を向上させることに繋がるだろう。一方、ユネスコエコパークで行われている学校教育や教員・ユースを対象とした学習活動、市民を対象とした生涯学習は、ユネスコパークの担い手を産み出し育てる上でも重要な意味がある。とくに学校教育については、小中学校の9年間を通じて、ユネスコエコパー

クで ESD の学びを経験した世代の存在は、近い将来、必ずユネスコエコパークや地域社会の大きな力になるだろう。

ユネスコエコパークに期待される3つの機能のうち、保全機能や経済・社会の発展を支える人づくりを担うのが ESD である。またこれまでの事例で見てきたように、ESD を推進すること自体がユネスコエコパークの活性化にも繋がっている。ESD はユネスコエコパークがその役割を果たす鍵であり、またその活動を推進するエンジンと言えるだろう。



VII

ESD 通信



信州の環境と知に根ざしたESDコンソーシアムの形成

信州ESD通信

No. 25

2019.5.10

信州ESD
コンソーシアム
事務局

目次：上田西高校の訪問／山ノ内南小学校の研修／飯田市高遠中学校・上村小学校・長野市信里小学校の訪問

4月15日 上田西高の米国チャータースクール歓迎会を見学しました

上田西高はユネスコスクールに申請し、認定を待っている段階とのことで、信州ESDコンソーシアムの説明を兼ねて歓迎行事も拝見させていただきました。ユネスコスクール担当の宮島教頭さんに学校の概要や国際交流などについてお聞きしました。10時よりの体育館での歓迎会は全て生徒の準備、進行で行われました。引率教員4名に19名の来日生徒には日本側生徒がそれぞれ終始案内、説明をおこなっていました。司会、進行は英語で進み、女子は着物姿で日本を感じさせる色鮮やかな演出でした。歓迎式は青木村の百姓一揆にちなむ義民太鼓の勇壮な演技で始まり、日米それぞれの学園生活の紹介、プレゼント交換などで進みました。その後、学園の学食での牛丼にはしでチャレンジしていました。生徒による進行はPPの音声不調などやや不備もあり、先生方は心配ではあったが任せることに意味があるのでとっていました。午後は、すし作りや華道、茶道、剣道など各種クラブ活動との交流をおこなうとのことでした。一行は昨日は上田城の桜を満喫して、本日の来校歓迎会に臨んでおり良い季節と共に日本の学校を十分楽しめたのではないのでしょうか。5月には上田西高からアメリカに短期留学生の帰国報告会があるとのことで、海外交流もユネスコ事業の柱になっているとのことでした。



(渡辺隆一・中野清史)

4月17日 山ノ内町立南小学校でESD研修会を開催しました

学校側からのご依頼は「新しく赴任して来られた先生が多いので、ESDの初歩から教えて欲しい」というもの。担当の先生と相談して、簡単な座学研修とESDカレンダー作成のワークショップを実施することになりました。



当日は、ESD/SDGsの要点を簡単にお伝えしてから、いよいよ本命のワークショップへ。昨年までにもESD授業の経験のある先生は、総合・生活の時間を軸にしたストーリーと領域・教科とのつながりのブラッシュアップを中心に。新しく赴任して来られた先生は、「去年はこんなことをしたよ」「こんな人にも協力してもらえるんじゃないかな」「こんな展開もできそうだよ」というアドバイスを受けながらESD授業の見通しを立てていくことを中心に。先生方が知恵を出し合いながら、みんなでESD授業の可能性を考える時間を持つことができました。

(水谷瑞希)

4月24日 飯田市上村小学校への訪問

上村小学校・和田小学校・遠山中学校が今年2月にユネスコスクールに申請しチャレンジ期間になったのでその活動内容などをお聞きし、今後の進め方などを打合せした。小学校玄関では校長先生とカモシカが出迎えてくれて自然豊かな地域とわかりました。上村小学校に遠山中学校有賀教頭にもお会いいただき、村松校長・小林担当教諭から両校の資料をもとに学習内容をお聞きした。上村小は「山あいの小さな小学校の世界につながる大きな挑戦！」を目標にSDGsを指標とした様々な学習を展開している。特に霜月祭での子どもたちの神楽は地域の伝統を引き継ぐ行事として大切にされていることが語られ、地区ごとに異なる神楽をそれぞれに学ぶ苦労がある



ことがわかった。こうした地域の伝統は環境と人々の生活の関係の中で育まれた文化であり、世界的視点からみればこの地域固有の文化といえ、それは世界に誇るべきものであるでしょう。こうした世界への視点こそがユネスコスクールの根底にある理念ではないかと考えさせられた。今年はへき地教育の全国大会も引き受けているとのことで、ユネスコ活動とどう重ねるかが課題となっていた。遠山中学では、「住み続けられる地域づくり」を目標に、飯田市のLG教育(ローカル&グローバル)とESD教育の観点から活動をすすめている。特に和田・上村両小学校とともにESDの教員研修もおこない、小中一貫のキャリア教育を計画、実践している。本地域は南アルプスエコパークの中にあるが特にそれを意識した学習はないが山岳地域という特性を生かした学習が多々おこなわれており、それらはユネスコの「人と自然の共生」の理念にも対応するもので今後の展開が期待されます。1年後に活動の確認がおこなわれるとユネスコスクールに認定されることとなります。

(水谷瑞希・渡辺隆一)

4月25日 長野市立信里小学校への訪問

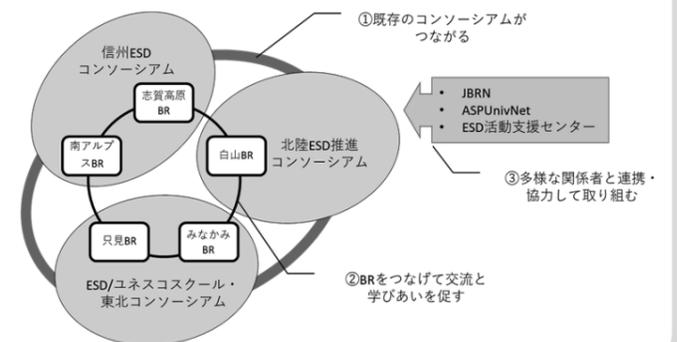
信里小学校は、2018年にユネスコスクールに申請し1年間のチャレンジ期間を終えて内容確認をユネスコユニバーシティ(AspUniv)である信州大学教育学部にて求めてきており、その資料確認のために信州ESDコンソーシアムコーディネーターの3名が伺いました。事前資料から当小は、国際交流から県外校との防災交流、更科農高との栽培交流、大岡小との合同高原学習、信州大学教育学部学生との地域の危険調べ、地域行事への参加、地域特産のシナイモツゴの保護育成活動、作物やコメの栽培など実に多彩、多様な活動を実施しており、それらの活動報告には児童の豊かな学びの声もまた多い。当日は和田校長・担当の立野教頭とこれらの諸活動とユネスコスクールとしての活動の意義や課題について種々、意見交換をおこない、それら活動間の関連性やESD、SDGsとの関連、個々の体験からどのように学びを発展させるのかなど、教育論も交えた有意義な討論となった。

(安達仁美・水谷瑞希・渡辺隆一)



今年度事業について

今年度の文科省のESD推進事業に、「ユネスコエコパークを活用した学校教育におけるESD/SDGsの普及・深化と実践モデルの開発」のタイトルで応募し、採択されました。内容は「ユネスコエコパーク(BR)地域のESD/SDGsを支援するESDコンソーシアムが連携し、学校教育でのESD/SDGsの実践やユネスコスクールへの支援を加速させる。また、生物圏保護区(BR)間の交流と学びあいや実践の共有を通じてESD/SDGsの普及と深化を促進する。国内BRすべてをつなぐESDネットワークを構築するとともに、実践事例にもとづくESD/SDGs実践モデルの開発を目指す。」です。関係者のご協力により、ESDの一層の推進、発展が期待されます。



長野県はSDGsに取り組む企業を支援するための「企業登録制度」を始めました。「県内企業等の取組がSDGsにどのように貢献しているかなど」の「気付き」を促し、SDGs達成に向けた具体的な取組を促進することで、企業等の価値向上や競争力の強化などを図る目的とした制度です(長野県HPより)。企業にもこのようにSDGsへの取組みが普及してきました。ESDが真に持続可能な地域創生の基盤となるためには、学校のみならず、NPO、企業、行政など多様なセクターの協力が必要であり、こうした制度もその連携の芽の一步といえるでしょう。



信州ESD通信
No.25 2019.5.10

発行：信州ESDコンソーシアム事務局 編集：渡辺隆一
〒380-8544 長野市西長野6 信州大学教育学部
事務局：高橋/大山 TEL026-238-4034 kyoesh@shinshu-u.ac.jp



信州の環境と知に根ざしたESDコンソーシアムの形成

信州ESD通信

No. 26

2019.7.10

信州ESD
コンソーシアム
事務局

目次：研修会&総会／附属松本小学校／UnivNe／SDGs協働講座／山ノ内中学校／SDGsニュース

第1回研修会、通常総会が開催されます。ご参加ください

基調講演は自由参加です。総会では事業報告や本年度計画について討議されます。

8月24日(土) 13:00～16:00 信州大学教育学部図書館2階にて

13:05 基調講演「新学習指導要領に即してESDの授業実践を展開する」

講師：中澤静男先生(奈良教育大学)

14:40 総会：協議ほか

15:10 加盟団体紹介ほか

6月13日 信州大学附属松本小学校のユネスコ委員会への支援

本年より活動をはじめた委員会への支援を依頼され信州ESDコンソーシアムのコーディネーターとして行きました。5・6年生の20名が委員で、リサイクルなどの活動はしているがユネスコなどについての学習はまだしていないということでした。まずはUNESCOの意味を国連から紹介しました。UNは国連で、先の世界大戦の反省から、戦争をしない、させないことを目的とした組織で、その中にある機関の一つがユネスコで教育、科学、文化を担当している。普段、何のために勉強しているか考えることは少ないと思うけど、最終的には世界中が仲良く、協力して戦争のない平和を作ることにつながっていると思うんだよね。そのためのユネスコスクールであり、ユネスコ委員会でもあるね。ベルマーク集めも何のためか考えてみるとそこにつながっているよね。毎日の勉強も大事だけどそれが何のためなのか、何の役に立つのか考えることも大切だね。どんなに素晴らしい発明でも原爆のようなものはないほうがいいから。などなど、40分ほどなのでユネスコ活動にかかわる大枠だけを話しましたがわかってもらえたかな。先生から児童の感想などもいただくことになっています。



学校側からのご依頼は「新しく赴任して来られた先生が多いので、ESDの初歩から教えて欲しい」というもの。担当の先生と相談して、簡単な座学研修とESDカレンダー作成のワークショップを実施することになりました。

当日は、ESD/SDGsの要点を簡単にお伝えしてから、いよいよ本命のワークショップへ。昨年までにもESD授業の経験のある先生は、総合・生活の時間を軸にしたストーリーと領域・教科とのつながりのブラッシュアップを中心に。新しく赴任して来られた先生は、「去年はこんなことをしたよ」「こんな人にも協力してもらえないかな」「こんな展開もできそうだよ」というアドバイスを受けながらESD授業の見通しを立てていくことを中心に。先生方が知恵を出し合いながら、みんなでESD授業の可能性を考える時間を持つことができました。(渡辺隆一)

6月30日 ASPUnivNet(ユニブネット)連絡会議が開催されました

ASPUnivNetはユネスコスクールの活動を支援する大学のネットワークで、昨年度より信州大学教育学部も加盟しています。6月30日にACCU神保町オフィスにて、加盟大学の担当者が集まり令和元年度第1回連絡会議が開催されました。昨年度、UNESCOが定めたユネスコスクールのガイドライン「UNESCO Associated Schools Network: guide for national coordinators」が改訂されました。このガイドラインには、ユネスコスクールの使命や目的、加盟校に求められることなどが記載されています。今回の改訂では、ユネスコスクールが当面注力すべき活動分野として、SDGsの目標4(教育)達成を目指し以下の3分野に関する活動を行うことが新たに示されました。

1.地球市民教育、平和と非暴力の文化、2.持続可能な開発と持続可能なライフスタイル 3.異文化学習、文化多様性及び文化遺産の理解・尊重

ガイドラインの変更を受けて、ユネスコスクール加盟希望校が作成する書類の項目も修正されています。この3分野については、それぞれの分野の濃淡はあっていいものの、全ての分野に必ず触れることがユネスコスクールの使命として求められています。ぜひ、それぞれの学校でのESD活動を見直す際にご確認ください。(安達仁美)

7月3日 長野県主催「SDGsを学ぶ」が開催されました

県の信州環境カレッジと県立大学の協働講座として「SDGsを学ぶ：全4回」の初回「世界の流れ・日本の動き・長野の取組」が県立大学のCSIチーフキュレーターの秋葉芳江氏の講演がありました。長野県はSDGs未来都市に選定され県立大学も学生とともに地域・企業を結びつける新しい学びをSDGsを基礎として実施しています。特にSDGs「持続可能性」は世界的な価値であり理念であり、世界的にも企業において先進的に取組まれていることの意味を解説し、SDGsがこれからの世界のルールの大転換になることを強調した。講演の最後には、身近なSDGsの活動や取組んでいる企業、その製品などを参加者がポストイットに書き出し、SDGs17目標に張り出して全体でシェアし、長野県でも多くの事例がでてきたことがわかった。今後、様々なセクターの協働がSDGsを軸にして期待できると思われた。(渡辺隆一)

7月10日 山ノ内中学校でESD活動「中学生が夢みる町づくり討論会」が開催されました

ユネスコスクールの山中では「町の未来を構想していくことのできる生徒の育成」を目的として1年から3年まで系統的なESD活動を展開しています。今回は、3年生が1年から学習してきた集大成としてこの町の将来への提案を4教室で各3提案をおこない、町長や町議員、観光協会など町関係者に参加を求め、討論会を開催した。各提案はスキー場の夏季の活用として人気の出てきているキャンプ場設置や長野電鉄の運賃を引き下げることで利用を増やすことを他県での事例から提案、町中を巡るルートとチケットを多様な人向けに販売するなど資料や課題もふまえてかなり具体化していた。全ての討論を視聴できなかったが町関係者からは好意的な受け止めや課題など多様な意見提起があり、生徒は大人から提案を受け止めてもらえたという実感をえられたようである。金沢大学から北陸ESDコンソーシアムの加藤先生と院生の6名が参加され、石川県のユネスコスクールともぜひESD活動の交流をしたいと高い評価をいただいた。今回の学内外からの意見や評価ももとに今秋には、ESD活動の3年の成果として山ノ内町の素晴らしさを紹介するパンフを作成するという。また、今回の提案発表会は司会や進行も3年生がおこなっており生徒の自主性、実行力の高まりが感じられた。1・2年生も視聴参加しており、山中の今後のESD活動の見通しや発表スキルなどの学習向上にも効果的な討論会であった。(水谷瑞希・渡辺隆一)



SDGs
ニュース

NAGANO SDGs PROJECTが発足しました

「子どもたちに自分たちの未来について考え、行動する機会を。」をテーマに、長野県、信濃毎日新聞社など産学民官とが一体になってSDGsを広め、推進していくためにNAGANO SDGs PROJECTがスタートしました。「知ってもらう」「学び、考え、実行してもらう」ことを軸に置き、それらの活動を新聞、冊子、WEBサイトなどで長野県内に広報をしていきます。これらが連動することで「SDGsを踏まえて考えることのできる人材」を育てることを目標とします。学校教育では以下のプログラムを実施します。・先生が学ぶSDGsセミナー、・SDGs出前授業、・みんなのSDGs宣言。活動の詳細については公式WEBサイト <https://www.naganosdgs.jp> をご覧ください。



信州ESD通信
No.26 2019.7.10

発行：信州ESDコンソーシアム事務局 編集：渡辺隆一
〒380-8544長野市西長野6 信州大学教育学部
事務局：大山・高橋 TEL026-238-4034 kyoed@shinshu-u.ac.jp



目次：長野市立信里小 / 安曇野市豊科南小 / 飯田市遠山3校 / 山ノ内町教職員研修 / 研修会&総会

7月10日 長野市立信里小学校のESD職員研修をおこないました

ユネスコスクールに申請中の信里小で全教職員12名へのESD研修をおこないました。当日は長野市教委教育センターの主事も参加されました。ユネスコスクールの理念を中心に、それらが世界の課題解決をめざすSDGsや新たな学習指導要領、教育課程にも関連していることなど日々の活動に密接につながっていることを解説した。後半の意見交換では、地域との様々な活動をどう位置づけ、学習とつなげていったら良いかなど現場ならではの質問もあり教員間での討論というかたちが生まれた。なかなかユネスコスクールについて学んだり討論する時間がとれないとの課題もだされたが教員間の共通理解ができたので学校全体で取り組める体制になったのではないかと。今後も、研修派遣を依頼されたので、支援をおこなっていききたい。(渡辺隆一)

7月25日 安曇野市豊科南小学校でESD教員研修をおこないました

南小はユネスコスクールのチャレンジ期間であり、全教員30名へのESD研修をおこなった。安曇野市教委と豊科北小からもユネスコスクールを検討中ということで参加された。ユネスコスクールの前提であるユネスコの使命から説明し、現在は国連が提唱するSDGsを教育現場として実践することがESDとして求められていることを活動内容確認シートから紹介した。文科省も日本のESDの取り組みを、①新学習指導要領と②ユネスコスクールを核として推進するとしており、ユネスコスクールは地域におけるESDの拠点として期待されている。後半は各学年、教科でのESDカレンダーの検討がおこなわれ、その後の質疑では、1-3の教科横断も高学年になると難しい、や1-4の学校全体で継続的に取り組める体制を整えるとはどのようなことなのか、などなかなか返答に困るものもあった。今回参加の他2校もユネスコスクールへの意欲が高まったとの意見をいただいたので、信州ESDコンソーシアムへの参加もお願いした。徐々に県下でのユネスコスクール参加が増加することが期待できる研修であった。(渡辺隆一)



7月26日 飯田市遠山地区夏季研修会でESD講演をおこないました

上村小学校、和田小学校、遠山中学校の近隣3校は共同でユネスコスクールへの申請を進めており、そのための研修を遠山郷土館にて開催し、教職員27名が参加した。会場はかつて当地を支配した和田氏の城を復元した構えになっており、当地の縄文時代からの歴史・文化の資料展示館ともなっており当時は山間地にありながら大いに栄えた地域であったことがわかる。研修は、最初に渡辺より、ユネスコスクールの使命など必要とされる活動について現在普及が進んでいる国連のSDGsとESDの関連を主に説明し、いくつかの事例を紹介した。その後、ITCや過疎地教育など課題ごとのグループに分かれて研修を進めた。渡辺はESDグループに参加し、3校でのESDカレンダーの照会とすり合わせに助言をおこなった。小中とも同質の地域で、今後ともスムーズな連携可能な体制がとれており、さらに立教大学ESD研究センターなど様々な大学機関とも連携、協働研究をおこなうなど地域のESDネットワークの核として大きく期待されている。(渡辺隆一)

8月1日 山ノ内町教職員ESD野外研修会がおこなわれました

志賀高原にある信州大学教育学部志賀施設において、今年度の新任教員を主に、参加者は教育長も含めて17名であった。午前には地域自然の核であるエコパークの核心地域にある自然教育園内で自然観察をおこなった。天気もよく、噴火時代の異なる志賀山溶岩流の上に発達した新旧の生態系の相違を観察しながら原生林への自然観察路をたどるとその境目の風穴にヒカリゴケがあり初めて見た!との声もあがった。まがたまの丘で早めの昼食をとり施設に帰ったが、志賀ははじめての方も多く良い野外研修の機会となった。午後は「SDGsとESDの現状とこれから」をテーマにESD研修をおこなった。南小の菅原先生、山中の山本先生から具体的な事例紹介をいただき、4グループに分かれて各学校での今後のESDの取組を話し合った。山ノ内町という特性か、現在は観光に関わる活動が多いがもう少し長期の地域のあり方も考えたら、との声もでてきた。最後に各グループからの発表をして研修をしめくくった。(水谷瑞樹・渡辺隆一)

8月24日 研修会、通常総会が開催されました

13時より信州大学教育学部にて36名の参加者により開催された。研修は「新学習指導要領に即してESDの授業実践を展開する」の講演を奈良教育大学の中澤静男教授にいただいた。ESDの前提としての様々な世界の環境や社会問題を会場に問いかけ、その解決としての国連による「ESD：持続可能な開発のための教育」がうまれた経緯を紹介、さらに最近のSDGsの17目標の分類を問いかける形でESDの取り組むべき内容を明確に印象つけてくれました。奈良で現職教員と毎月開催しているESD研究会での成果をもとに、ESDで育てたい考え方や方向性を具体的に紹介していただいた。ESDの視点と言われる7つの見方は、社会や自然を評価する視点と人や集団を評価する視点の二つがあり、それは社会の公正や生態系の保全といった命にかかわる価値と人権の尊重や幸福を感じる心の価値の二つにもつながる。そしてESDの教材開発という具体例では、ソマティックマーカーという直感に関わる判断・選択が重要であり、教員は持続可能性にかかわる気づきを身につけることが必要であると強調されました。会場への問いかけや研究会での具体例をもとに、わかりやすくこれからのESDの授業実践について参考になる貴重な講演でした。



後半は、総会議事として、役員選出、2018年の成果報告書を基にした事業報告、今年度の研修や学校支援などの事業計画を説明し承認された。その後、各参加団体から簡単に活動紹介をいただいた。いずれもESDを進める前向きな発表で、講師の中澤先生からは、長野でのESDの進展が感じられたとの講評をいただき、予定の16時に終了した。(渡辺隆一)

事務局より

2018年度の信州ESDコンソーシアム成果報告書ができました。

2月の成果発表会での各ユネスコスクールの報告やユネスコスクール全国大会での参加報告、県内全ユネスコスクールの年次報告が掲載されており、県内のESD活動状況を知ることができます。事務局にお問い合わせください。





目次：ESDによる地域創生／SDGs de 地方創生／ユネスコスクール全国大会

11月16日「ユネスコエコパークを活かしたESDによる地域創生」が開催されます



EPO中部主催、信州ESDコンソーシアム共催で、飯田市役所にて13:30～16:30に開催されます。講演1は信州大学教育学部の水谷瑞希氏による「エコパーク×ESD：人と自然が共生する持続可能な社会づくり」、講演2は立教大学ESD研究所長の阿部治氏による「ESD×地方創生：学校からひろがる・つながる地域づくり」、話題1は只見町ブナセンター長の斉藤修一氏による「エコパークにおける只見愛の育成とESDへの期待」、話題2は「学校と地域が協働するESD for

SDGs」、話題3は「高校生講座：カンボジア・スタディツアーの取組」の後、「ユネスコエコパークの理念を活用したESD視点による地域づくり」をテーマにグループ討論がおこなわれます。詳細はHPをご覧ください。

SDGs
ニュース

高校生・大学生を対象に「SDGs de 地方創生」カードゲーム体験が4回実施されます。長野県主催で、10月6日まちなかキャンパスうえだ、11月2日松本国際高等学校、11月3日すわっチャオ、12月23日須坂市で、各30名募集、受講無料です。申し込み・問合せは 信州環境カレッジ事務局まで。



信州環境カレッジ×長野県 NPO センター協働講座
高校生・大学生対象

「SDGs de 地方創生」 カードゲーム体験

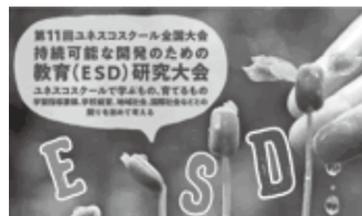
参加者募集
SDGs のものさしを通して自分の将来像を描きたい
SDGs や地方創生のことを知りたい
自分のライフスタイルにも SDGs の考えを取り入れたい

事務局
より

● 毎年報告 & 交流会を2月1日に開催予定です。ご予約ください。

● 9月17日 茅野市永明中学校がユネスコスクール申請しチャレンジ期間になりました。信州ESDコンソーシアムも支援することでこれから1年間の活動が評価されると認定になります。県内では、ユネスコスクールは既に16校が認定され、現在、上田西高、東条小学校、信里小学校、豊科南小学校、遠山中学校、和田小学校、上村小学校、永明中学校が認定をめざしており、皆様のご支援をよろしくお願いします。

● 11月30日に広島県福山市立大学で「第11回ユネスコスクール全国大会／持続可能な開発のための教育(ESD)研究大会」が「ユネスコスクールで学ぶもの、育てるもの：学習指導要領、学校経営、地域社会、国際社会などとの関わりを改めて考える」をテーマに情報交換、実践交流を図る場として開催されます。信州ESDコンソーシアムもポスター参加します。



目次：台風19号による被害/国際ユース作文コンテスト/ESD推進ネットワーク全国大会

10月13日 台風19号により会員にも大きな被害がありました

会員の「長野市長沼交流センター」が全壊し、「ミールケア」本社と店舗が床上浸水しました。センターは千曲川が決壊した直近にあって急激な濁流に飲み込まれて壁は破壊され、保管していた太鼓20個も流されました。センターが様々な支援をしていた長沼小学校も1階が水につかり復旧のめどがたっていない。長沼交流センターは「交流から耕流、そして興流へ」をスローガンに持続可能な町づくりに取り組んできていましたが、今回の災害で一時的にでも活動が停滞する恐れがあります。様々なご援助、ご支援が求められています。常時ボランティアも受け入れておりますのでよろしくお願いいたします。

「ミールケア」も決壊に近い国道19号線沿いにあり本社と工場、レストランが高さ約3メートルまで浸水し壊滅的被害を受けました。その後、必死の復旧活動により現在は仮事務所を開設して活動を再開しています。

10月30日 国際ユース作文コンテストでユネスコスクール2校が入賞しました

五井平和財団は「生命憲章」を基本理念とし、あらゆる生命が調和し合える新しい時代の平和な世界のビジョンを示し、そのような世界を実現するための原則を提唱しています。財団主催の「2019年度国際ユース作文コンテスト：優しさがあふれる社会をつくる」には、世界157カ国から合計20,657作品(子どもの部7,383作品、若者の部13,274作品)が寄せられ、長野県からは以下のユネスコスクール2校の3名が入賞しました。ユネスコスクールでの多彩な学習活動の成果といえるでしょう、おめでとうございます！優秀賞「見える優しさ、見えない優しさ」山本智也(山ノ内町立山ノ内中学校)。佳作「心の貧困と子ども食堂」玉井沙季、「私の思う優しさ」飯田陽美(共に文化学園長野高等学校)。

SDGs
ニュース

● 信州ESDコンソーシアムも加盟しているESD推進ネットワークの「全国フォーラム2019」が「SDGsを地域で達成していくための人づくり：ESD for 2030を見据えて」をテーマに、12月20-21日に国立オリンピック記念青少年総合センターで開催されます。信州ESDコンソーシアムからも展示出展の予定です、詳細はHP等をご覧ください。

事務局
より

● 来年2月1日の信州ESDコンソーシアム成果発表 & 交流会は、信州大学工学部の国際科学イノベーションセンターをお借りして開催します。会場の通称AICS(アイクス)は信州大学が革新的イノベーションを生み出すための新たな知の拠点として建設した建物です。広々としたセミナースペースでの発表となりますので、ぜひご参加ください。





目次：地域づくり推進研修会/ESD視察/ESDダイアログ/山ノ内町子ども議会/ユネスコスクール全国大会

11月6日 地域づくり推進研修にて事例発表を行いました

長野県生涯学習推進センターと長野県総合教育センター主催の、地域づくり推進研修「持続可能な社会づくりに向けた教育の新しい在り方」が、長野県生涯学習推進センターにて行われました。学校関係者から行政職員、地域で活動する諸団体の職員等、ESDに関心を持つ多様な参加者が約60名集まりESDに関する研修を受けました。午前中は湊川短期大学学長の末本誠氏による講義があり、午後からは「ユネスコスクールを中心としたESD/SDGsの広がり」と題して、長野県のユネスコスクールに関する現状と信州ESDコンソーシアムについて安達が講義を行いました。その後、事例発表として信大附属松本中学校の生徒たちと文化学園長野中学校・高等学校の長田先生による実践報告がありました。来年度も10月ごろに同様の講座が開催される予定となっています。少しずつESDの輪が長野県内に広がっていることを実感しています。(安達仁美)



11月13日 白山市校長会が山ノ内町ユネスコスクールの視察にみえました



石川県白山市から4名の校長先生が、ユネスコスクール活動の参考にしたいと、山ノ内町の2小学校に視察に訪れた。午前中に訪問した西小学校では、地域住民との交流活動「ふれあいルーム」の時間に、1年生の羊や烏骨鶏の世話、4年生のヤギの餌やりなどを見学した。その後の授業参観では、3年生のリンゴの販売に向けたALTとの英語学習、6年生の高社山の岩石を教材とした学習などを参観した。西小学校の塩原校長は、「本校におけるESD」として、2年生の「ヤギの飼育」がSDGsの様々な学習に繋がって深い学びになっていることを紹介された。午後の南小学校では6年生が来週の「子ども議会」で町長や議員に10分で町への提案をおこなう予行演習を見学した。「これからも残したい大切な場所 夜間瀬川」として、地域の見学から川遊びの楽しさを大切な価値として発見した子ども達は、幼児から大人、高齢者まで親しめる形で夜間瀬川を生かしていきたいと具体的に提案していた。5年生は東京都の小学校との交流のテーマとしてどんな地域の特色を紹介しようか、温泉はどうだろうかなどと討論をしていた。視察後の両校との懇談では、総合の時間で「子どもたちの主体的な参画にもとづくテーマ設定」を徹底したことが主体的で深い学びに繋がっていたことがわかった、石川県では学力とともにSDGsも柱となっているので、地域の自然を生かした学びを生かすうえで大いに参考になったなどの感想があった。(渡辺隆一)

11月16日 ESD推進のためのダイアログが飯田で開催されました

「ユネスコエコパークを活かしたESDによる地域創生」をテーマとした「ESD推進のためのダイアログ」(主催：中部地方ESD活動支援センター、共催：信州ESDコンソーシアム)が飯田市役所で開催され、南アルプスユネス



コエコパーク(BR)に登録されている飯田市をはじめ、各地のBRで活動する教育関係者など32名が集い、BRを活かしたESD、BRにとってのESDについて理解を深めた。講演1の信州大学の水谷氏による「エコパーク×ESD：人と自然が共生する持続可能な社会づくり」では、ユネスコエコパークには地域の発展と世界のネットワークとの連携が期待されておりSDGs達成のモデル地域でもあること、ESDはユネスコエコパークがその機能を発揮するための活動を推進するエンジンであることなどが解説された。講演2は立教大学の阿部氏による「ESD×地方創生：学校からひろがる・つながる地域づくり」として、多くの課題をもつ日本では持続可能な社会のためにESDによる地域創生が必要であり、それは市民力の育成でもありと各地の事例を紹介され、学校を拠点として地域創生をおこなうべきと提案された。話題1は只見町ブナセンター長の斉藤氏により「エコパークにおける只見愛の育成とESDへの期待」として見えにくいESDを町民の日常文化に気づき、継続すること「只見愛」として展開したいと述べられた。話題2は「学校と地域が協働するESD for SDGs」として飯田市教委の田中氏と上村小学校長の村松氏により、小規模特認校として「小さな学校の世界につながる大きな教育」の特色ある教育実践が紹介された。話題3は飯田市公民館の片岡氏による「高校生講座：カンボジア・スタディツアーの取組」として海外研修により大きく成長する高校生の姿を紹介いただいた。その後4グループに分かれて「ユネスコエコパークの理念を活用したESD視点による地域づくり」を上記の講演と話題を素材に討論をおこない、さらなるあるべき姿の提案までおこなった。短時間ではあったがそれぞれに密度の濃い議論ができた。(渡辺隆一)

11月19日 山ノ内町子ども議会が開催されました

山ノ内町の小学6年生が、町の課題や改善提案などについて質問や提言を行う「子ども議会」が町役場の議場で開かれました。今年で4回目となる子ども議会では、町内の3小学校から集まった4学級91名の児童が、総合的な学習の時間を中心に展開されている地域学習の中で考えた地域振興策などについて、学級ごとに一般質問形式で質問・提案しました。とくに実際の体験にもとづく提案からは、本やインターネットだけを使った調べ学習からはおそらく生まれることのない、本気の熱量を感じました。子ども議会は山ノ内町以外の自治体でも行われています。もともとは地方自治への理解と関心を高めることを目的に始まったと言われてはいますが、日頃の地域学習からの気づきや考察を深める良い機会であると同時に、市民・主権者教育としても意義深い取り組みです。山ノ内町の子ども議会ではこれまでのところ、子どもたちの提案が直接、町の事業に反映された例はないようですが、もし子どもたちの提案を議会や行政が受け止め、協働して取り組むような事業が実現できれば、「持続可能な社会の創り手」を育てる上でも大きな推進力になるでしょう。(水谷瑞希)



11月30日 ユネスコスクール全国大会に参加しました

広島県福山市立大学にて『第11回ユネスコスクール全国大会／持続可能な開発のための教育(ESD)研究大会』が開催され、全国からユネスコスクールの教員やESDに関心をもつ学校関係者、ESD関連の諸団体(大学・企業・NPO等)が集まりました。信州ESDコンソーシアムから12名の教職員を派遣し、昨年の事業紹介パネルも展示しました。前宮城教育大学長の見上一幸氏による基調提案「ESD学校教育における実践の展望」をはじめ、広島県教育委員会教育長の平川理恵氏による特別講演「ユネスコの理念とESD」、ランチオンセッションでは、企業によるESD支援のプレゼンが行われ、午後からは12のテーマ別分科会に具体的な事例に基づいて学び合いました。第8分科会「平和のための学びESD for SDGs～持続可能な社会づくりに向けて育む力～」では、本コンソーシアムの加盟校である長野県立中野西高等学校の実践発表もありました。全国から集まった参加者との交流を通して新たな気づきや繋がりが生まれた場となりました。(安達仁美)



以下は参加者の報告書の「得られた成果と今後の取り組み」からの抜粋です。

○見上先生のESDについての基調提案は、新しい学習指導要領での位置づけや、各校でESDをどのように捉えて実施していけばよいのかなど、わかりやすくお話いただけました。特に、実施上の負担感や不安を理解してお話でしたので、心に入っていました。たくさんの参加者から情報を得ることができ、自分がイメージしていたESDの理解の浅さに気づきました。

○基調講演・特別講演の中から得られた実践の意義というものを、教員間で再共有し、質を向上させることが必要だと感じた。教科横断的な「総合的な探究」を充実し、学んだことを考え、行動し、活用する力を育成したい。

○中高生によるパネルディスカッションは見応えがあり、感動した。ワールドピースゲームの学びはもとより、資質・能力の育成の考え方は大いに参考になった。

○教師自身が世界で起きている出来事を「自分事」として捉え、その状況を変えるために行動しているか、ということ問われた。子どもたちの学びと同時に、私たちが学び続け行動を起こし、世界を変える一員である意識をもつ必要がある。

○今後の学校教育で、世界とのつながりを意識した「持続可能な開発のための教育」は必須であることを感じ

た。ESDにつなげられないからと短絡的に「できない」で終わらせまい、「できない」からスタートしたい。

○民主的に話し合う練習を学校で担保する、それがESDであり学校教育である。

○「ユネスコ理念」、「SDGs」、「ESD」について研修が必要であり、その必要感をどう醸成するか思案している現状がある。合科的な学習を実現させるカリキュラムマネジメントについて、校務分掌上の研究グループを立ち上げ、ESD実践の中核としたい。

○教育活動を「持続可能性」という視点から捉え直し、「やらされる」から自ら「やりたい」へ変容していくために、感動のある実体験があり、何のために学び、どう生きるか、社会に貢献するかについて「ESDの質の向上」をはかっていくことが大切である。

○先生方が主体的になれるコミュニケーションづくり、職員室づくり、チームづくり、ESDが具体的な行動になっていくための研修を行ってきたい。

○地域の課題も取り込んだ形でのSDGs+αという考え方は新しい視点だった。信州ESDコンソーシアムには県内のユネスコスクールをつなぐ役割を期待している。

12月4日 山ノ内西小学校の子どもたちがリンゴの販売をおこないました



地獄谷野猿公苑に近い上林のcafe ENZA店頭で、山ノ内西小学校の3年生25名が、自分たちが育てたリンゴの販売を行いました。場所柄、やってくるお客さんはほとんどが訪日外国人観光客。子どもたちの「外国から来た観光客に、自分たちが育てたリンゴを売ってみたい!」という思いから始まったこの取り組みは、今年で4回目になります。子どもたちは、英語のポップや呼びかけをALTの先生の協力を得ながら準備し、対面販売にのぞみました。子どもたちはアメリカ、オーストラリア、マレーシアなど様々な国から訪れた外国人観光客を相手に、果敢に自分たちが育てたリンゴをPRしていました。子どもたちの物怖じせず、積極的に英語でコミュニケーションを取ろうとする姿に、カリフォルニアの教員の女性は"Wonderful!"と感心していました。(水谷瑞希)

軽井沢で開催された、先の飯田市での「ESD推進のダイアログ」で挨拶に立った市長の胸には特産の水引が付けられてあり、後ほどそれがSDGsの17色で構成され、先のG20環境閣僚会議で提供されたものであることが紹介された。SDGsの17色のシンボルバッジは今やかなり流行ともなったがこの水引のように様々な場面でSDGsのシンボルが広がってさらに活用されていくことが期待される。



SDGs
ニュース



信州ESD通信
No.30 2019.12.10

発行：信州ESDコンソーシアム事務局 編集：渡辺隆一
〒380-8544長野市西長野6 信州大学教育学部
事務局：清水・高橋 TEL026-238-4034 kyoed@shinshu-u.ac.jp



信州の環境と知に根ざしたESDコンソーシアムの形成

信州ESD通信

No. 31
2020.1.10

信州ESD
コンソーシアム
事務局

目次：成果発表&交流会/ESD全国フォーラム/山ノ内町西小ESD研修会/SDGsニュース

2月1日 成果発表&交流会を開催します

信州大学工学部の国際科学イノベーションセンターを会場に、9:55~16:00に開催されます。児童生徒による成果発表・団体等のブース展示があり、飯田市遠山郷と長野を遠隔会議で結んでの意見交換もおこないます。昼には自由交流の時間も設けます。広々としたセミナースペースでの発表となりますので、ぜひご参加ください。



12月20-21日 ESD推進ネットワーク全国フォーラムに参加しました

このフォーラムはESD推進ネットワークの関係者が一堂に集い、ESDに関する最新の国際動向や国内動向を共有するとともに、交流を通じてネットワークを強化することを狙いとして、毎年開催されているものです。今年度は全国の関係団体など225名が国立オリンピック記念青少年総合センター(渋谷区代々木)に集まりました。GAP最終年となる今年度は、11月末に開催されたユネスコスクール全国大会/ESD研究大会に引き続き、その後継となるプログラムである「ESD for 2030」を中心に、SDGsの達成に向けたESDのあり方について情報提供が行われました。信州ESDコンソーシアムは地域ESD拠点としてESD推進ネットワークの一端を担っており、今回は「ユネスコエコパークを活かしたESDの普及・推進」などの活動をポスター展示で紹介しました。(水谷瑞希)

12月25日 山ノ内町西小学校でESD校内研修会を行いました

山ノ内西小学校において「ユネスコエコパーク・ESD・総合的な学習の時間研修会」を、金沢大学の加藤隆弘先生を講師にお招きして開催しました。参加者は西小学校のほか、山ノ内町内小中学校教員、町エコパーク推進室など15名でした。本校内研修会では、昨年度から各学年の実践報告と、講師の講演の2部構成で実施しています。まず塩原校長より、西小学校のESD教育が「生きる」ことに主眼をおき、暮らしを作る教育=地域で活動することで知識が広くつながり深い学びになると紹介された。その後、各担任のESDの実践報告が行われた。1年は一つの出会いとしてヒツジを飼うことで心も体も開かれた学びが始まったこと、2年はヤギを飼うことで起こる問題を仲間との協同や合意形成などで乗り越えてゆく児童の姿、3年は栽培したリンゴを外国人に売ってみたいと英語を学び果敢にチャレンジする様子、4年は高社山調べを核に登山もして地元の山を深く意識した取り組み、5年は1年をとおした米作りによって暮らしの実感をえることができた、など多様な学びが紹介されました。加藤先生からは事前の学校視察の所感も含めて「ESDの視点から今後大切にしたいこと」の講演をいただきました。ESDが学習指導要領に明記されたことで社会に開かれた教育課程の実現が重要になったこと、問題解決学習を重視した主体性を軸として個を育てる深い学び=学びの再構成(わかりなおす)であることなど、現場への具体的な示唆をいただきました。また、本校のような地域の自然を生かした実践的教育はESDのモデルともいえると高い評価をいただきました。講演の間は参加者のうなずきも多く、各自の実践の意味を深めるのに大いに役立ったと思われました。信州ESDコンソーシアムでは学校現場でのESD実践を応援するため、このような学校に出向いての校内研修会も随時、開催しています。とくに西小学校のような教員集団の学びあいによる研修は、学校全体でESDを進める上で大変効果的です。また今年度はとくに「ユネスコエコパークを活用したESDの普及・推進」に力を入れており、本研修の講師である加藤先生も白山ユネスコエコパーク管内からお招きしています。(水谷瑞樹・渡辺隆一)



SDGs
ニュース



信州ESD通信
No.31 2020.1.10

発行：信州ESDコンソーシアム事務局 編集：渡辺隆一
〒380-8544長野市西長野6 信州大学教育学部
事務局：清水・高橋 TEL026-238-4034 kyoed@shinshu-u.ac.jp



信州の環境と知に根ざしたESDコンソーシアムの形成

信州ESD通信

No. **32**

2020.2.10

信州 ESD
コンソーシアム
事務局

2月1日 成果発表&交流会が開催されました

会場の信州大学工学部国際科学イノベーションセンターは広くて学校やNPOなどの展示スペースと発表とが同所で効果的に開催できました。午前・午後に分かれての成果発表と交流会は20校269名もの参加で盛会でした。



信州ESDコンソーシアム会長の宮崎教育学部長の「ESDの主役は子どもたち、学校は持続可能な社会をめざしてもっと夢を持とう！」という開会挨拶から始まり、最初は遠く飯田市の遠山中学校からのネット通信による中継画像で遠山中、和田小、上村小の8名の児童生徒が紹介されました。以下、各学校からの成果発表の概要です(詳細は、信州ESDコンソーシアムの年次報告書に再録されます)。

山ノ内西小学校 2年生14名で、生活科でのESDを「本物に触れる活動、ヤギしろとめぐるぼくたち」と発表。ヤギの小屋作りは大変な作業で試行錯誤して完成。生まれた子ヤギの名前も真剣に話し合い、2か月後によく決ま。今は母親になったしろが乱暴になってどうするかみんな考えている。課題を考え解決していく児童の姿がみえました。ヤギとの生活の歌のビデオが楽しかったです。



山ノ内東小学校 4年生20名で4発表を。①コカリナを聞かせたい、もっと知ってもらいたいと会場にクイズを提示、②社会科チームはゴミ調べ(クリーンセンター見学で町はゴミ量多いことに驚き！家庭や地域にポスター作りで削減を呼びかけ、③新スポーツぼっちゃを楽しく、誰にでも、④駅や温泉、トイレをバリアフリーに、とそれぞれが工夫しながら調査をし、学外にも働きかけました。コカリナの合奏がすてきでした。



山ノ内南小学校 「町とつながりたい」をテーマに各学年でESDカレンダーを改変しながら実践している。6年生19名は地元気づき発見の旅から、夜間瀬川で見つけた川遊びの魅力に気づき、楽しいけど高齢になっても川に触れ合えるのかな？と疑問を発見、北信建設事務所から説明を聞き、10月の洪水も見て、それでも川を集まる場にできないか、と町の子も議会で提案した。体験から課題をみだし、解決を考え、地域に提案する、ESD学習の姿がみえました。

高山小学校 わくわく村は地域が提供する豊かな学びの場です。17年、今年も20講座が開催され子どもたちが、サバイバル飯、泥団子作り、消防士体験、ホテル学習など多彩に取り組みました。3年生は学校の高山の時間でリンゴ栽培を実践し、共選所の仕組みを見学し、しらかば学習発表会で発表しました。地域との協同の様子が良くわかりました。



遠山からのコメント ここで遠隔地の遠山で発表を聞いていた小学生のコメントをいただきました。ふるさとを良く調べているな、コカリナを初めて知りました、地元の祭りも大切にしたい、などネットを通して発表の様子は十分に伝わっていました。

山ノ内中学校 1年の志賀高原研修から観光客が減少していることを知り、地元アンケートから町紹介のパンフを作ることに。山の魅力、冬はスキーを楽しめる、自然をもっと大切に、などを考え、志賀高原を再発見してSNSで発信する、サル被害は犬の声で追払うなどを提案した。



高山中学校 2年生5名でESD総合「故郷と私」を発表。ワイン手伝いや学校林でのキノコ栽培から、地域資源の活用を考えたり、志賀高原と渋温泉散策で外国人が多い、など他地域と比較したりする中で、将来の過疎化が心配で、議会でインバウンドを提案した。地域の良さだけでなく課題を考え解決に取り組んでいた。

附属松本中学校 1年C組3名での学校紹介とESD実践。志賀高原のエコパーク学習や地元の浅間温泉をテーマに、イチ

ゴ栽培や宴会での食品ロス、地熱の利用を考えた。ESDとは「愛することができる」という思いを外に広げられれば良いのではないかと熱く発表してくれました。

遠山からの中学生のコメント 食品ロスを実感しました、地域への熱い思いを感じすごかったです、私たちが地域の良さを伝えたい、などの感想がありました。

安田先生のコメント ESD学習には(人やもの・こととの)出会い・発見・伝えるの3つ大切です、持続可能な社会のために積極的に行動して欲しい。

及川先生のコメント 日本は広く多様なので地域の個性・文化を体験して大事にしながら取り組む、それを活用しながら知恵をだして未来をどう創るか考えて欲しい、遠山との遠隔交流は大変良かった、各学校はもっと交流して発展してほしい。

阿部先生のコメント 国連でESDfor2030が決議された。ESDはSDGsを目的としている。長野県は気候非常事態宣言を全国に先駆けて発した、学校は地域と協力して地域資源をどう生かすか考えてESDを一層推進してほしい。

●昼休みもパネル展示の前で盛んに意見交換したり配布資料の読み込みなど皆さん熱心でした。以下午後の部。

東条小学校 3年生17名でのホテルびっくり大作戦！の発表。いる川とない川のなぜから、川の環境調査をし、ホテルが喜ぶ水路にするために考えて実行しようとしています。ホテルの歌を歌ってくれました！

永明小学校 PSP(ピーススマイルプロジェクト)について降旗先生からの紹介。身近なもの・ことを、人とのつながり、自分ができることの3視点で学習をおこなってきた。平和活動は5年生からで6年生で2年間の成果を作文し朗読した。貞子の千羽鶴を知り、平和への願いから永明の日には忘れてはいけない5つの日を紹介し、自分達でできることを考え平和の塔の掃除を始めた、さらなる活動としてピース折り鶴やまよめ平和パンフを作り地域に広げたいと活動している。学習の視点が明快な発表でした。

附属長野小学校 4年2組16名で長野県の食文化を発表。実際に野菜作りに取り組み、病気や虫など大変なことを学んだことから郷土料理をテーマに。郷土料理百選に選ばれた長野のおやきとそばについて学習し、実際に作っておいしさを伝えたいと思った。伝統の由来や意義について体験的に学習していました。

安田先生のコメント 地方にあるものを「地宝」という、それらを教材することで感動は伝わる。皆さんも宝を胸に未来に輝いて！

中西野高校 コーヒー倶楽部有志3名で、世界では児童労働1.5億人、無くすためにはフェアトレード商品と団体がある、提携型の珈琲メーカーと協同して祭りでコーヒー販売をしたり、世界の現実をまず知ってもらうことも大事で、広く伝えていきたいと。熱心さが伝わりました。



長野西高校 1年生4名が健康と福祉をテーマに。沖縄は健康県から近年脱落、長野県の将来は？実際に健康寿命は長野は低い、東京などではワンコイン検診があり、長野でもヘルスケア広めて健康な街にしたいと。

文化学園 中高生20名で①国際キャンペーンに委員会ごとにプランをたて実行、「誰一人取り残さない」は認め合う行為、②文化祭でユネスコを紹介、まいはし持参で世界を身近に、③子ども食堂から信州つばさプロジェクト、ESD国際交流プロジェクトなどに参加、発信することで表彰された、どう活動するか⇒未来の大人会議を設立！など多彩な活動で、S tおはSDGsが実感される発表でした。



NPOセンター・ユースリーチ 若者の社会課題チャレンジで長野を少しづつもっと良くする、を目標にまずは高校生の居場所を作るなどの活動の中で10月の水害では災害情報共有会議も行いました。

ESDはつながり学習、アースデイなどで若者が社会の前面に出てきた、市民教育とは課題にかかわる力であり、それは社

阿部先生のコメント 会を変える力、ESDで持続可能な社会を作りましょう。

及川先生のコメント 高校生の活動は社会に開かれた活動になっている、世代の自負や学びの過程(イメージの共有、学び、取り組み)を理解し、身近な課題への取り組みから持続可能な社会へ向かいましょう。

●保護者からの感想が寄せられました、ありがとうございました。
「今日の発表はみんな自信に満ちていて堂々としていて感動しました。他校の発表も素晴らしく、南信地域校との中継でのリアルタイム交流は画期的で子どもたちにとって貴重で素晴らしい経験になったと思います。以前から学校ではESDに力を入れているということは知っていたのですが、今日の発表をみて、長野県全体でこんなにも盛んに取り組んでいたのだということを知り、驚きました。私にとっても貴重でよい経験をさせていただきました。発表を振り返り、よりよい町づくりに対して、私にもできることがたくさんあるのではないかとわかりました。「まずは自分から」という意識が強まりました。また家族でこのようなことを話し合っていたいと思いました。」



信州ESD通信

No.32 2020.2.10

発行：信州ESDコンソーシアム事務局 編集：渡辺隆一
〒380-8544 長野市西長野6 信州大学教育学部
事務局：清水/高橋 TEL026-238-4034 kyoed@shinshu-u.ac.jp



信州の環境と知に根ざしたESDコンソーシアムの形成

信州ESD通信

No. **33**

2020.3.10

信州 ESD
コンソーシアム
事務局

目次：学びあいセミナー(仙台)/高大生応援セミナー(SDGsに貢献！)

2月8日 仙台での学びあいセミナーに参加しました

宮城教育大学で東北コンソーシアム主催により第一部：コンソーシアムのESD for SDGs 発表会、第二部：各地での研究実践報告会が開催されました。

第一部では、モデル地域からの成果発表として、①岩手県平泉町教育委員会からは、長島小学校での「平泉学」で4,5,6年生が地元の遺産や課題に取り組み学習した成果発表会の様子が紹介された。②宮城県気仙沼市教育委員会からは、地域のESD推進の要として「ESD/RCE 円卓会議」を学校関係者のみでなく教育研究機関・関係行政機関・地域の企業/NPO/報道など多様な組織が参加して共にESDを学び議論する場を設けていることが紹介された。また、震災をうけての防災教育では「海と生きる」をテーマに海洋教育にも取り組んでいる。③福島県只見町教育委員会からは「エコパークを軸に持続可能な交流人口づくり」をテーマに、全小中校がユネスコスクールとなり郷土学習「只見学」を学年ごとにSDGs目標を位置付けたストーリーマップを作成して教科、特活などの関連を図りながら実践している事例発表があった。④世界農業遺産「大崎耕土」について大崎市から、1市4町、2河川、3万ha、6千Kmの水路での400年前からの伝統的な水管理組織をもつ大崎耕土の紹介とその地域資源としての再発見によるESD活動が紹介された。



2020年2月8日(土)
13:00~17:00開催 参加無料
ESD/ユネスコスクール・東北コンソーシアム 学びあいセミナー
日本ESD学会東北地方研究大会

以上の紹介後に、東大の及川先生、ESD支援センターの鈴木先生、ユネスコ国内委員会事務局の大杉氏からそれぞれの講評があった。ESD先進地としての優れた特徴である、ユネスコスクールの発祥の地、学校・地域が一体となったESD、東北6県の広域でかつ多様な地域ごとの宝、震災を遺産に世界会議を開催し復興に貢献するESDともなっていることなど、高い評価がなされ、今後の一層のランクアップが期待された。

第二部の最初に①「ユネスコエコパーク×ESD:人と自然が共生する持続可能な社会づくり」として信州ESDコンソーシアムの水谷・渡辺により、志賀高原のエコパークを軸としたESD活動(環境学習プログラム・ユネスコスクール・地域活動・信州大学教育学部自然教育園・エコパークセミナー)を紹介し、エコパークが人と自然が共生する持続可能な社会づくりのESDの良いモデル地域になると紹介した。その後、②仙台市秋保中学校の小さなコンソーシアムとしてのESDとして地域から海外発信までの幅広い活動を、③福島高専におけるJSTS(持続可能性技術のための日本セミナー)として日本・マレーシア・フィリピンの3大学・高専の持続可能キャンパス会議開催、④宮城県立多賀城高校・仙台第三高校で取り組むESDとしての「災害科学科」の開設とその授業内容など多数が紹介された。

こうした事例からは学校と教育委員会、地域との深い連携がみられ、ESD先進地としての長年の実践による発展が感じられ、信州においても大いに参考になるセミナーであった。(渡辺隆一)

2月9日 信州高大生応援フェスが開催されました

コンソーシアムメンバーの長野県NPOセンター主催で「ユースリーチ」&「地域丸ごとキャンパス」でこの1年活動してきた高校生・大学生による報告会と講演会・討論会がおこなわれました。両団体の今年のテーマは「SDGsに貢献！」で、①ヒューマンライブラリー(人権・福祉、相互理解の空間を)、②えしかるもざいく(環境保全で環境革命を!)、③ACT(国際理解で人や国の不平等をなくす)、④(高校生の居場所づくり)Fouth Place、⑤うりこめ信州(新たな商品開発)、⑥エシカルふえす(フェアトレードを長野に!)、⑦こどもわくわくカフェ(子どもと関わってみよう!)、⑧僕らの災害復興(10月の水害にすばやくボランティア活動を高校生が始めた!)など多くの高大生が自主的に取り組んだ様々な活動の成果を楽しく発表しました。審査員の講評や会場からの晴れ・曇り・雨のボードで各発表の評価もおこなわれ、これからの活動に大きな期待がよせられました。



信州ESD通信

No.33 2020.3.10

発行：信州ESDコンソーシアム事務局 編集：渡辺隆一
〒380-8544長野市西長野6 信州大学教育学部
事務局：清水・高橋 TEL026-238-4034 kyoed@shinshu-u.ac.jp

信州ESDコンソーシアム 成果報告書2019

令和2年10月

編集・発行 信州大学教育学部
信州ESDコンソーシアム事務局
〒380-8544 長野市西長野6-口
TEL:026-238-4034
E-mail:kyoed@shinshu-u.ac.jp